

昭和52年12月20日印刷

昭和52年12月25日発行

日本シーリング工業会

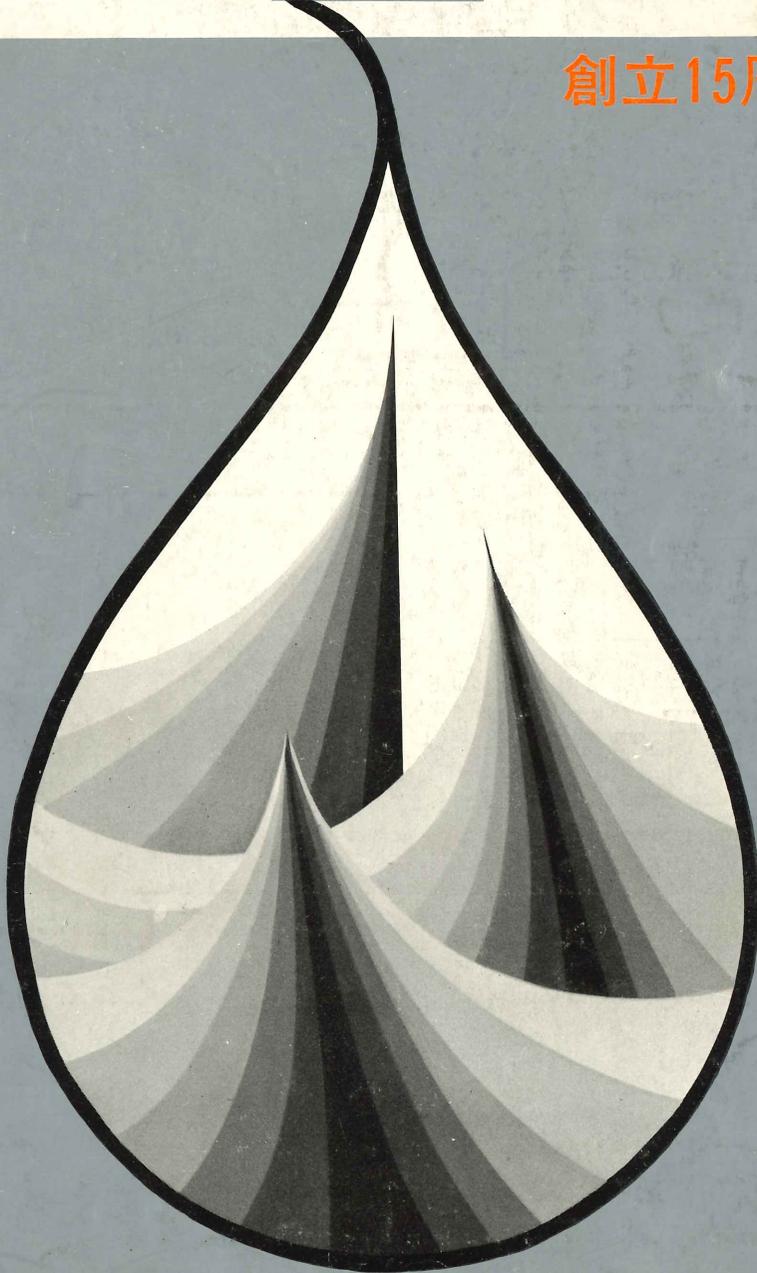
シーリング

15



VOL.10.NO.15
DECEMBER
1977

創立15周年記念号



日本シーリング工業会

業界をリードする



ポンド[®]建築用シール材

- **ポンドコーキング**
(油性系コーキング材)
- **ポンドシールパテ**
(ブチルゴム系シーリング材)
- **ポンドコークホワイト**
(アクリル系シーリング材)
- **ポンドUシール**
(ポリウレタン系シーリング材)
- **ポンドシール#10**
(ポリサルファイド系シーリング材)
- **ポンドシリコンコーク**
(シリコン系シーリング材)



コニシ株式会社

本社 〒541 大阪市東区道修町2-6 ☎06-203-3081
 営業所 〒103 東京都中央区日本橋室町4-5 (近三ビル) ☎03-279-6551
 札幌 (☎011-261-2521)・仙台 (☎0222-95-3178)・静岡 (☎0542-55-5131)・名古屋 (☎052-563-6171)
 金沢 (☎0762-23-1565)・広島 (☎0822-92-5240)・福岡 (☎092-551-1761)

※専用注入器具、「ポンドコーキングガン」
 「ポンドカートリッジガン」があります。

ホドガヤ のウレタン建材

ミリオネートNS

ウレタン弾性シーリング材

- 接着性にすぐれています
- いつまでも老化しません
- 収縮がありません
- 復元性にすぐれています

ウレタン建材の第1人者
保土谷化学工業株式会社

本社・建材調材部 〒105 東京都港区虎ノ門1-4-2 TEL.03(502)0171

大阪支店 〒541 大阪市東区高麗橋5-45 TEL.06(231)1212
 名古屋営業所 〒460 名古屋市中区錦1-17-13 TEL.052(203)4651
 札幌出張所 〒060 札幌市中央区北一条西5-3 TEL.011(261)7789
 福岡出張所 〒810 福岡市中央区大名2-9-25 TEL.092(751)7241



優れた性能・使いやすさに威力を発揮する

シーカフレックス-1a

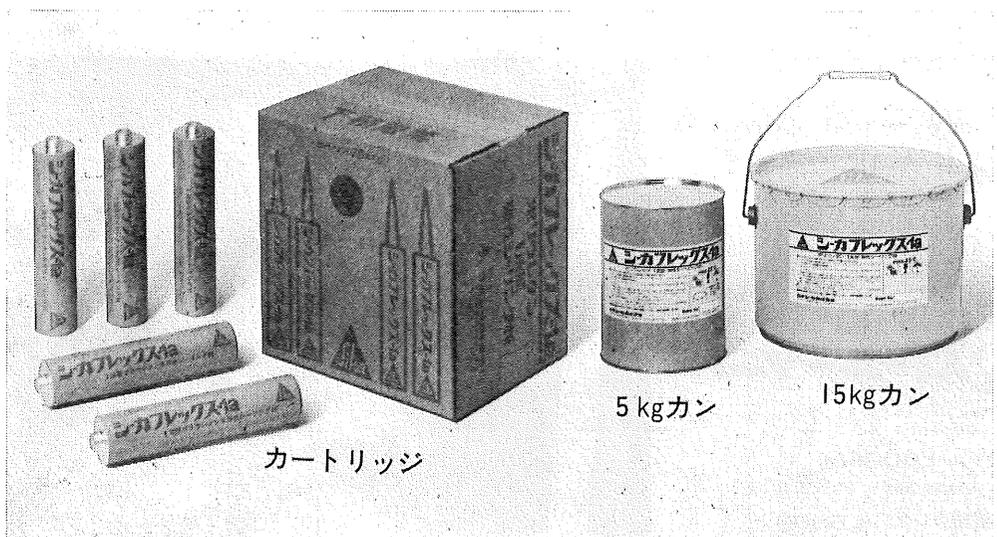
ポリウレタン・1液型

性能の良さは、豊富な施工実績が示しています。

建築・土木さらにプレハブ住宅——と巾広く
使用されているシーカフレックス-1a！

5 kgカンを新発売……

さらに使いやすくなったシーカフレックス-1a
は3種類の荷姿になりました。



日本シ-カ株式会社

本社	〒105 東京都港区新橋 4-2-1・第29森ビル	TEL(03) 436-6031(代表)
大阪営業所	〒530 大阪市北区野崎町69番地・高橋ビル北10号館	TEL(06) 315-7851(代表)
名古屋営業所	〒460 名古屋市中区大須 4-2-68・大和ビル	TEL(052)261-3401・4961
富山営業所	〒930 富山市本町 7-7・オキタビル	TEL(0764)42-3232(代表)
札幌営業所	〒060 札幌市中央区北2条西2丁目・加森ビル-1	TEL(011)221-6331(代表)
工場	〒254 神奈川県平塚市長瀬 1-1	TEL(0463)21-1101(代表)

信頼のトレード

PANE CAULK パネコーワ®

S-501 ウレタン系2液シーリング材

SG-ウレタン ウレタン系1液シーリング材

SG-シリコン シリコン系1液シーリング材

(JIS A-5757 耐久性試験、金属1級相当品)

新東洋合成株式会社

本社 大阪市西区西本町2丁目5番19号(ニューオカザキバシビル) ☎550 TEL. (06)541-1931(代)
東京営業所 東京都荒川区西尾久4-8-10(富士ビル) ☎116 TEL. (03)800-4801(代)
福岡営業所 福岡市西区樋井川3丁目6-1(グリーンビル) ☎815 TEL. (092)561-1175
工場 堺市築港新町3-2-7 ☎592 TEL. (0722)44-7631(代)

幅広いニーズにお応えする 強力シーリング剤です。

ソニーシーラントはソニーの化学が創りあげた、弾性の高性能シーリング剤です。
合成ゴムと合成樹脂を主成分とし、卓越した技術と製法によりハーフェクトなまでの接着力と保持力を完成しました。建築・車両・船舶・航空機・化学工業など、あらゆる産業のカゲの力として愛用され親しまれています。

ソニーシーラント

●車両、バス、トラック、トレーラーバン、コンテナなどの各種接合部のシールに。

ブチル・L6004A

●工場や住宅の各種屋根、壁など、内外装の接合シールに。

1液型ウレタン・L6500

●ALC板、PC板、モルタル製品、コンクリート製品の目地シールに。

アクリル・L6400

●ガラスをはじめ金属、木材、タイル、プラスチックなどの接合シールに。

シリコン・L6301

●金属のジョイント、ガラスグレイジング、サッシコーナー、プラスチックや木、コンクリートなどのシールに。

ブチルテープ・R5001

SONY®



ソニーケミカル株式会社

本社 東京都中央区日本橋室町1-6 TEL (03)279-0441(代) 〒103
大阪営業所 大阪市北区西堀川町18 TEL (06)363-2071~3 〒530
名古屋営業所 名古屋市中区葵町36-7 TEL (052)937-5391~2 〒461

エサフォーム®

®はダウケミカル社の登録商標です。

(ポリエチレン押出発泡体：独立気泡)

小丸棒

エサフォームの特長

1. 〈つづみ型〉断面がシーラントを丈夫でながもちさせます。
2. 2面接着が理想的に行なえます。
3. シーラントの裏面を保護します。
4. 目地幅の変形に対応できます。
5. 工事のトータルコストを大幅に節約します。

エサフォームの物性

エサフォームはポリエチレンの発泡体で、完全に独立した気泡からなりたっています。化学的にはきわめて安定しており、酸・アルカリにおかされません。軽くて柔軟性にとみ、無毒・無臭。吸水性や透湿性はほとんどありません。ガソリンその他の有機溶剤は若干浸透しますが、おかされることなく、放っておけば発散します。

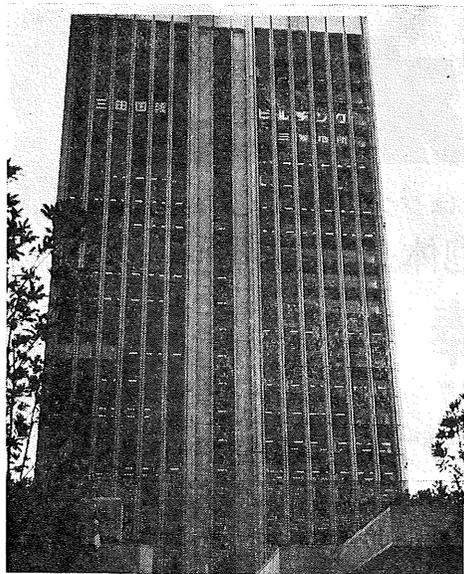
エサフォームの物性

項 目	試験方法	数 値
密 度	JIS K 6767	0.038g/cm ³
引 張 り 強 さ	JIS K 6767	2.6kg/cm ²
毛 管 現 象 に よ る 吸 水	ダウ法	なし
吸 水 率 (浸漬時間1日、温度23℃)	JIS A 9511	0.01g以下/100cm ³
熱収縮率(温度60℃、加熱時間7日)	ダウ法	1%以下



旭ダウ株式会社

本 社 東京都千代田区有楽町1-1-2 (日比谷三井ビル) TEL 03(507)2957
大 阪 支 社 大阪市北区堂島浜通1-25-1 (新大阪ビル) TEL 06(347)3989
札幌事務所 札幌市中央区南1条西4丁目 (日の出ビル) TEL 011(261)5321



ポリサルファイドシーリングコンパウンド(常温加硫二液型)

ニツシール

ブチルゴムシーリングコンパウンド(常温加硫一液型)

フレキシール

株式会社 日興社

東京都江東区白河4-9-5 TEL (642)7103(代)

ユーザーの信頼にこたえる実績

トツシーラー

- トツシーラー # 5000 アクリル系シーリング材
- トツシーラー # 5000N 凍結防止アクリル系シーリング材
- トツシーラー成形品 ブチル系成形シーリング材
- トツシーラー # 30 ブチル系 1液シーリング材
- トツシーラー U 2 ウレタン系 2液シーリング材

山内ゴム工業株式会社

本社・大阪営業所 枚方市招提田近2丁目7番地 ☎ 573 電話0720-56-1131
 東京営業所 東京都中央区八重洲1丁目4番21号(共同ビル) ☎ 103 電話 03-273-1871
 名古屋営業所 名古屋市中村区泥江町1-24(中経ビル) ☎ 450 電話052-561-5401
 金沢出張所 石川県金沢市進和町2番地(大同製作所内) ☎ 921 電話0762-91-1050
 九州出張所 福岡市中央区大名2-12-12(赤坂産業ビル内) ☎ 810 電話092-712-8706
 工場 枚方・鹿沼



チョコレート系 シーリング材

ウエザーバン[®]印 ビルディング シーラー

〈ウエザーバン〉印ビルディングシーラーは、ポリサルファイド液状重合体（チョコレートゴム）を基材とするシール材です。

現材、カーテンウォールその他の建造物各所に、使用されています。

 住友スリーエム株式会社 **3M**

接着剤製品営業部

本社	〒158 東京都世田谷区玉川台2-33-1 TEL(ダイヤル・イン)03(709)8241	仙台営業所	〒980 仙台市本町1-11-14田沼酸養ビル TEL0222(61)2811(代表)
東京支店	〒107 東京都港区赤坂7-1-21スリーエムビルTEL03(403)1111(大代表)	横浜営業所	〒221 横浜市神奈川区片倉町字中丸818-10TEL045(481)7171(代表表)
名古屋支店	〒460 名古屋市中区大須1-7-26音羽ビル TEL052(221)7611(代表)	広島営業所	〒730 広島市上八丁5-2森本ビル TEL0822(21)9311(代表)
大阪支店	〒541 大阪市東区南本町2-41三ツ輪ビル TEL06(262)1641(大代表)	福岡営業所	〒810 福岡市中央区那の川2-9-22高木ビルTEL092(521)2861(代表)
札幌営業所	〒060 札幌市中央区南一条西1-7有楽ビル TEL011(231)2541(代表)	沖縄営業所	〒901-21沖縄県糸島市上港川原川原川栄行高会ビル TEL0988(77)6651(代表)

〈ウエザーバン〉印は米国3M社の登録商標です。

品質と技術を売る

ニューコーク

- 油性コーキング
- ブチルゴム系シーリング
- アクリル系シーリング
- ポリサルファイド系シーリング
- ポリウレタン系シーリング

株式会社ノーベル樹脂化学

代表取締役 桧田重臣

工場：〒332 埼玉県川口市東領家4-19-4 電話 0482(23)4511(代)

ユーザーの立場で考える

アサヒシール[®]

- アサヒシール100グループ(ポリサルファイド系シーリング材)
- アサヒシール650シリーズ(ポリウレタン系シーリング材)



アサヒボンド工業株式会社

本社及び工場
大阪営業所

東京都板橋区大谷口北町3-7 〒173 TEL (03) 972-4929 (代)
大阪市福島区鷺洲1-11-29 〒553 TEL (06) 458-1771 (代)

シーリング材のことなら…

セカイチョーシーラー

● 建築・土木用

ケミコーク

(皮膜性油性系)

セカイチョーシーラーR B

(ブチル系)

セカイチョーシーラーE A

(アクリル系)

セカイチョーシーラーP U

(ポリウレタン系)

セカイチョーシーラーT H

(ポリサルファイド系)

セカイチョーシーラーS I

(シリコン系)

セカイチョーシーラー V

(ブチル系成型シーラー)

エバトーン

(スポンジ・ブチル複
合成型シーラー)



(施工例 エバーグリーン淀川)

● 工業用

冷蔵庫……ダストシーラー・断熱シーラー・ホットメルトシーラー

空調機器……熱伝導シーラー・断熱シーラー・ホットメルトシーラー

プレハブ・ハウス……ベルトシーラー・シリコンシーラー・ブチルシーラー

船舶……ベルトシーラー・ポリサルファイドシーラー

その他……あらゆる工業品で、目地の充填、空隙の充填の必要な個所

● 防水関連

マグネトーン(非加硫型ブチルゴム系定尺防水シート：住宅浴室内壁やベランダに)

ツーバイテープ(非加硫型ブチルゴム型複合テープ：住宅サッシ廻り、パネル目地
屋根防水に)



世界長株式会社

本社・大阪化成品営業所

〒663 兵庫県西宮市津門大筒町 8-39 TEL 0798(35)1741

東京化成品営業所

〒250 東京都渋谷区道玄坂 2-10-7 新大宗ビル10階 TEL 03(462)5161

名古屋化成品営業所

〒461 名古屋市中区東区矢田町 8-20 TEL 052(722)3301

たゆまぬ材料研究
独自の施工技術

シーリング材施工販売

誠実本位 20年の実績と信用 大阪府知事許可
(般-51)第11000号

白洋建材株式会社

代表取締役 小阪 栄

大阪市都島区都島本通2-15-1
☎ 06(924)2536(代)

超高層ビルでの実績と信用

シーリング工事 責任施工

日本化成工業株式会社

許可番号 大阪府知事許可(般-50) 34549号
吹田市南金田1-4-46
〒564 電話 06(385)3886(代)

名古屋日本化成株式会社

許可番号 知事許可(般-50) 第1417号
名古屋市千種区本山町3-9
〒464 電話052(762)1596(代)

昭和日本化成株式会社

許可番号 知事許可(般-50) 第12100号
福岡市西区大字原1267-4
〒814 電話092(843)3311(代)

ウルトラシーラー®

紐状、テープ状 弾性シーリング材

Uシート®

ユ-

誰にでも、継目なしに何平方メートルも防水層が
出来る——特殊シート

鐘 栄 産 業 株 式 会 社

東京都中央区日本橋小伝馬町3-5
電話 東京 03 (661) 5379・4475・2635

JIS



許可番号

建築用油性コーキング材

A5751

第573101

弾性シーリング材

二液性ウレタン

その他防水材



SAN サンシール コーキング

建築用充填材の総合メーカー

株式会社 **服部商店 淀工場**

工場 京都市伏見区淀美豆町705番地

TEL 075 (631) 3128

本社 名古屋市中区丸ノ内2丁目18-1

TEL 052 (221) 9461

豊かな実績 “チオコール” シーラント 確かな信頼



施工例
霞が関三井ビル
(昭和43年)

永年にわたり現場で
鍛えあげられた
タフで信頼のおける
シーラント、
それが“チオコール”
シーラントです。

●真の耐久力……………

シーラントの持つ優れた耐久性は優れた接着性の裏付があってこそ、現場に於て真の耐久力を発揮するといえます。この点“チオコール”シーラントは長年現場で実証済みのタフなシーラントです。

●抜群の使いよさ……………

現場施工にとって使いやすさは極めて重要な要素です。“チオコール”シーラントは温度・水分に影響されにくく、作業性抜群でタフなシーラントです。

●豊かな実績と経験……………

実際の建物に使われ、長年の風雨に耐えた実績は、どんな試験にも勝る最良の評価方法です。“チオコール”シーラントはこの試練に耐えてきたタフなシーラントです。

〔“チオコール”シーラントは現在30数社で製造販売されており、品種の豊富さと全国をカバーする販売網により、お求め易さも抜群です。〕

東レチオコール株式会社

本社 東京都中央区日本橋本石町3-6 日本橋室町ビル
TEL 03 (241) 1 8 4 5 番
工場 千葉県市原市千種海岸 2 - 3

株式会社野村事務所

本社 東京都港区西新橋1-1-15物産ビル別館
営業2部 TEL 03 (502) 1 4 6 6 番
大阪出張所 大阪市西区新町通1-5新町ビル
TEL 06 (538) 0 2 2 8 番

創立15周年記念号

〈特 集〉

- 創立15周年を迎えて……………(13)
 - ◎材エー体が必須…青木 済 ◎日本コーキング協会創立の思い出…岩崎 一 ◎15年の回想…渡辺三郎
 - ◎シーリング材との出会い…狩野春一 ◎ヨーロッパの建築とシーリング材…波多野一郎 ◎弾性シーリング雑感…加藤正守 ◎ルーフィング技術のシンポジウムに参加して…小池迪夫 ◎シーリング施工の技術改善…青山 幹 ◎シーリング材の現状と問題点…鶴田 裕 ◎研究者から見た最近のシーリング開発傾向…寺内 伸 ◎雨仕舞とシーリングの役割…深沢 明 ◎実態調査活動を期待したい…丸一俊雄
 - ◎ジョイントデザインとシーリング…渡辺敬三
- 日本シーリング工業会15年の歩み……………(25)

- 53年を展望する 一関連業界動向を中心として一……………広報委員会…(33)
- シーリング材の価格動向……………広報委員会…(48)
- 北米に“何か”を求めて 一北米のシーリング見てある記一……………西沢順之助…(50)
- 建築用シーリング材の標準色決定について……………(58)
- シーリング管理士制度について……………梅本 禎治…(59)
- 「シーリング管理士」に関する規約および解説……………(60)
- 職業訓練技能検定制度の現況と今後の推移について(2)……………山本 勇…(69)
- 東日本シーリング工事業協同組合の現況について……………福岡 靖明…(71)

- ◇————◇————◇————◇————◇
- 建築用シーリング材市販製品一覧表…(72) シーリング管理士名簿…(63) 日本シーリング工業会会員名簿…(88) 日本シーリング工事業協会会員名簿…(93) 昭和52年度日本シーリング工業会機構表…(87) 関連団体一覧…(98) 編集後記…(100)

三星シーリング材



- 建築用シリコンシーラント
- 三星シリコンシーラント**
- 建築用ポリサルファイド系シーラント
- 三星シールPS**
- 水性アクリル系シーラント
- 三星シールAC**
- 建築用油性コーキング材
- 三星コーキン**
- フチルコム系シーラント
- 三星シールブチル**

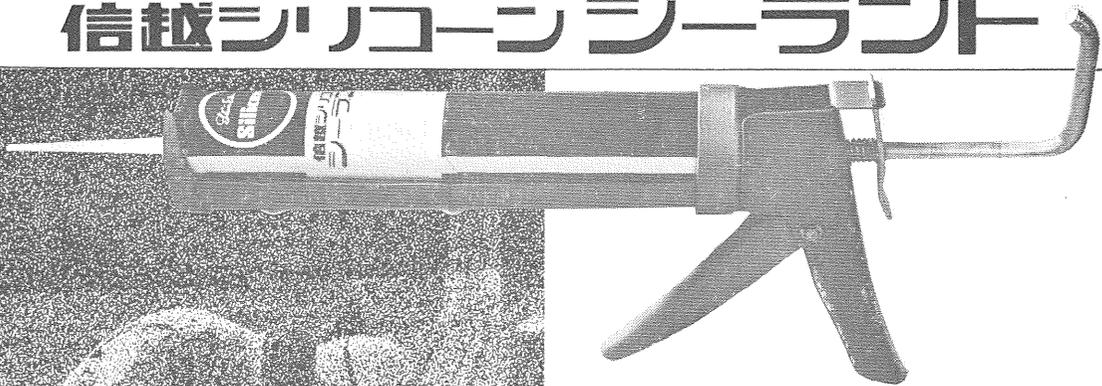


三星産業株式会社

〒101 東京都千代田区神田小川町3-28(三東ビル)TEL(292)1961(代)
事業所：仙台(62)5201(代) 大阪(443)9721(代)
出張所：札幌(721)6031・6307 名古屋(931)4574・3390 福岡(781)3361(代)

建築・土木用ゴム弾性シーリング材

信越シリコーンシーラント



性能プラス施工精度でお応えします。

シーリングを現場ベースで考えれば、目地もさまざま、施工条件もまた千差万別です。

信越シリコーンシーラントは、耐候性、耐熱・耐寒性、耐水性、接着性など、多くのすぐれた特長をもつゴム弾性シーリング材です。日本におけるシリコーンのパイオニアとして、十分な研究のうえに地道な実績を重ね、シリコーンシーラントの信頼性に大きな役割を果たしてきました。

すぐれた材料も、その性能を最大限発揮させる確かな施工がなされてこそ、真にすぐれたものとなります。信越シリコーンシーラントは、このために優秀な施工業者とタイアップし、材工一体となった「完全責任施工」体制を敷いております。材料の信頼性のうえに、確かな施工精度を追求するこのシステムは、すでに多くの実績を築き、好評を博しております。

ぜひお役立てください。

品名	特長	主な用途
一成分型	KE42RTV 酢酸型 接着力 大 容器 3kgカートリッジ	サスペンション工法、ガラスサーフード、ステプナー、ガラススクリーン工法、ガラスまわり、ガラス水槽、プラスチック、金属類
	KE45RTV 無刺激性、非酢酸型 深触性がない 容器 3kgカートリッジ	モルタル、大理石および石材類、各種エキスパンションジョイント、躯体まわり、内装・納入ガラス
	KE40B-2RTV 不燃性 無刺激性 容器 3kgカートリッジ	構造体、内装材、乙種防火戸、その他
二成分型 シーラント70	無刺激性、非酢酸型 伸縮率・弾性率(1000%以上) 引き裂き性にすぐれている 容器、4kg丸缶	カーテンウォールジョイント(金属、PC)、エキスパンションジョイント(躯体、タイル、プレコン)、笠木まわり



信越シリコーン

信越化学/シリコーン事業本部 SP班

東京都千代田区大手町2-6-1(朝日東海ビル) 〒100
TEL. (03) 242-1211 内線420

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 大阪支店 ☎(06) 313-4821 | 札幌営業所 ☎(011) 221-6471 |
| 名古屋支店 ☎(052) 581-6511 | 広島営業所 ☎(0822) 48-3931 |
| 福岡支店 ☎(092) 291-8442 | 高松営業所 ☎(0878) 22-3613 |
| 新潟営業所 ☎(0252) 47-3321 | 長野営業所 ☎(0262) 28-9104 |
| 北陸営業所 ☎(0776) 26-1551 | 高崎営業所 ☎(0273) 63-2731 |
| 仙台営業所 ☎(0222) 64-2777 | |

材工一体が必須

日本シーリング工業会
会長 青木 濟

創立10周年の記念式典を新橋の第一ホテルで、時の好調景気に恵まれ盛大に挙行了のがつい先年のように憶えるのに、それからすでに5星霜、来たる2月20日には、はや創立15周年を迎えることとなります。

いまさらながら光陰の疾さに驚くとともにこの15年の変動、紆余曲折と風雪に耐えて、シーリング工業振興のため尽力され、今日の確固たる日本シーリング工業会を築かれた歴代会長、役員、会員の諸賢、およびこのルーツに関わった先覚の方々の労苦、ご功績に対し、改めて深甚の敬意を表します。また側面から暖かいご指導、ご支援を賜わった関係官公庁の各位、学界の諸先生方、ならびに建築業界の皆様に対しても衷心より厚くお礼を申し上げます。

戦後、未曾有の経済成長を背景に興った建築ブームに追従、目覚しい発展を続けてきたシーリング



越後人のねばり強さで今後のシーリング業界のカジ取りが期待される青木会長。最近はゴルフの腕がめっきり上がったとか。

業界も10周年を祝った昭和48年の秋、突然襲ったオイル・ショックで全くその伸長が止まり、以来横這い、低迷が続いておりますが、そのころより多様化したシーリング材の見直しが始まり、量より質への反省、検討がなされた。

多種、多様のシーリング材は使用者側にとっては全く煩瑣混迷を増すばかり、そこで建築用シーリング材の用途別性能(JIS A 5757)が制定されましたが、さらに52年度中にはこのJISを商品JISに改訂すべく、目下審議が進められております。また、これと並行して、建築工事標準仕様書(JASS 8-4節)も改訂審議中であ

り、この審議には当工業会と工事業協会の代表も参画協力しております。53年度には用途的に適したシーリング材と施工の標準規格および仕様書が制定される予定です。

シーリングの成果は「材」と「工」の一貫性が必須の要件であることは申すまでもないことですが、工業会では創立以来このことを重視して、施工業者側と密接な連繋を保ち、シーリング管理士制度を設けて6年、完全施工を心掛けてまいりましたが、日進月歩の近代建築に対応し一層の信頼される施工と成果を確保するため、51年度よりシーリング管理士検定委員会を新設し、管理士制度の規約を改正して、従来の管理士を2級管理士として再登録(435名)し、その上一段と高度の技術指導能力と管理能力を具えた1級管理士の育成を図るべく準備中であり、53年4月ごろにはこの資格者を第一線に送り出せる予定です。なお全国防水工事業団体連合会で企画されている国家認定を受けた「2級シーリング防水技能士」も昭和54年4月ごろには誕生し、戦列に加わると予定されており、施工面はますます充実されるものと思慮します。

この外、工業会ではシーリング工業の普及向上を図るため、昭和51年4月に「建築用シーリング材

創立15周年を迎えて

とその正しい使い方」の技術指導書を発行市販しました。本書は斯界の泰斗狩野春一博士の監修を受け、一流専門家を網羅した執筆で662頁にわたるもので、シーリング工業に関係する人々に欠くことのできない座右書と自負しております。次いで昭和52年4月には本書の要点を収録した「シーリング・ハンドブック」14,000部を刊行して、業界関係者に広く配布、現場で活用されております。

以上のように、15周年を迎えた工業会は着々と充実を図っておりますが、シーリングの対象が恒久建築物である以上、長期耐用年限の保証が要望されるのは当然であり、この大きな宿題の解決には関係各位のご協力を得て、今後真剣に対応しなければと思っております。

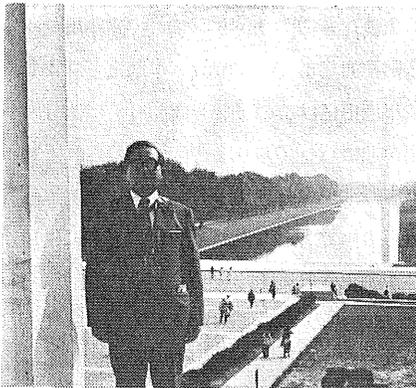
最後に当工業会の顧問、相談役、役員、会員、賛助会員各位の奉仕のご協力に対して深甚の謝意を表します。

日本コーキング協会創立 の思い出

日本シーリング工業会
相談役 岩崎 一

創立15周年にあたり、心からお祝い申し上げます。設立に当たった一員として、当時とよく発展した現在とを比べ誠に感無量のものがあります。

そのころのことを顧みますと、昭和37年の夏の日、銀座の三笠会館において、油性コーキングの現状に関する座談会が千葉大学の波多野一郎教授を囲んで行なわれたときのことです。波多野先生からコーキング・メーカー間における技術・販売面の情報交換を目的とした団体を作ってはどうか、との有益なお言葉を頂戴し、団体設立への話に移り、私とその席の年長者だったためか、そのまとめ役を



52年9月新樹社主催の北米建築防水視察団に参加してまずまず元気なところを見せた。写真はワシントンのリンカーン記念堂の前で。

お引受けすることになりました。

翌38年2月下旬、日本コーキング協会設立までの約7～8ヶ月間は、当日不参加だったメーカーへの呼びかけをはじめ、定款の起草、予算・事業運営計画案作成、また、諸官省庁、ユーザーとの折衝など、まことに多忙な毎日でした。この準備事務局員として昭和化工、日本添加剤、それに私のところ（三星産業）から出した担当社員には並々ならぬご苦勞をおかけして諸事を運んだものです。

私がかつとも強く印象に残っているのは、なんといっても設立後の会運営のまとめ役になる会長、副会長の選

任問題でした。それも人材不足のためではなく、多士済々という嬉しい悩みでした。そこで準備事務局で作った案のローリングシステムを皆さんに諮ったところ、これはうまい／＼と喜んでご賛同いただいたことでした。

それは「(1)会員は監事→理事→副会長→会長→副会長→理事→監事の順で誰でも会長に就任する。(2)役員任期は当分の間、それぞれ半期(6ヶ月)とする。(3)役員就任の時期とその順位は、あらかじめくじによって決定しておく。」という内容でありました。これが実施されて大変成功したと

信じております。

現工業会の前身である日本コーキング協会創立時における初代会長の国生裕作さんをはじめ、二代野口清之助さん、三代富本弘さん、四代臼井暉さんとそれぞれ協会の成長発展にご尽力くださった方々がおいでになりました。私はそのローリングシステム時代最後の会長を仰せつかったように覚えております。

このころから弾性シーリングの需要増大とともに所属会員数・規模などそれぞれ大きくなって、協会の機構・運営方式を変える必要に迫られ、日本シーリング協会と改称し、さらにその後日本シーリング工業会と改められ、名会長の渡辺三郎さんが就任、以来十数年間ご指導下さって隆昌を見、ただいまは青木済さんが大いに活躍下さっているのです。

ついこの間のように思われる創立当時のことも、もう満15年の長い歳月が流れたことを思うとき、工業会が社会的地位向上を見、世間から認められるようになったことはまことにご同慶の至りであります。なお今より後もますます発展されるよう祈っております。

15年の回想

日本シーリング工業会
相談役 渡辺三郎

本年2月をもって満15年を迎えるにあたり、自他ともに充実した工業会としての基盤が概ね出来得たものと信じます。工業会発足当初12社の会員も現在54社と拡大され、これは役員を始め全会員が一丸となって勝ち得た業績として甚にご同慶の至りです。私はその過程において10年間微力ながら会長と



多年日シ工会長として業界指導に当たってきたが、このほど青木現会長にバトンタッチ。やれやれといった渡辺相談役。

して重責を暇なくどうやら果し得た今日、顧ると感無量です。企業経営、特に昨今の不況の真中においては至難を極めますが、工業会の運営においても各々異なった体質の企業集団でありますので協力体制をいかにするにしても創意と決断に総てつきるものと痛く体験しました。

青木現会長は私とコンビを組み長年副会長として万事有能な人ですが最近私に「会長を引受けてから半年になるが、始めて苦勞と責任の重さを感じず」と述懐していました。たしかに会長職を退いて始めて従来の苦勞の積み重ねが懐きさと安堵に変わり「やれやれ」と無責任な発言ではないが自然と出るほどです。在任中機会あるごと

に適正価格の維持、品質管理の徹底、適材適所の励行など、また製・販・工の機構の正常化など役員会を通じその推進を図りましたが、これらは最も肝要な政策事項でありながらその実現は相当な時間を要するものと悟りました。また常日ごろ材工一体化を説き、JIS製品をJASSの要項に従い理想的な施工を行ない建築業界に貢献する使命を保持するという双方能力の高揚に努めましたが、今後はさらにそれぞれの立場でいかに総合的価値を高め得るか、その協調と運命共同体的認識が大きな課題でしょう。またJIS化の原案作成にあたっては、工業会として基材別に最大の可能範囲の数値を主張し

創立15周年を迎えて

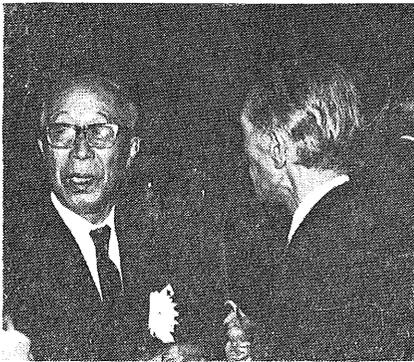
不当な背伸びを慎しみ、常に独自の裏づけデータを保持すべきでしょう。しかし現状数値以上の製品をそれぞれ研究開発する努力は常に必要と思います。なお工業会独自の管理士制度は出来るだけ早く1級、2級のランクを廃止し、より高度の管理士の誕生を期待致します。

最後になりましたが、建築材料学界の泰斗狩野先生を始め工業会の顧問ならびに相談役の諸先生に今日までのご指導ご支援に対し、深甚なる謝意を表するとともに益々工業会の発展を祈念致します。

シーリング材との出会い

狩野 春一
工学博士

敗戦後の日本は、食うに米なく住むに家なく求めるに銭のない廃墟で、明日がどうなるかを考えるさえ物憂い虚脱の状態であった。2～3年後にはかすかながら復興の息吹が見え出し、5年目ころからは朝鮮動乱が神風となって、思いがけぬ経済発展の兆が見え出してきた。建築界にいわゆる新材料という新語がはやり出したのもそのころからのことである。簡易かつ安価に耐火住宅が出来るという



心配された眼病も、経過は良好でホッと一息というところ。今日は愛弟子の波多野一郎氏(写真右)の藍綬褒章祝賀会にかけつけ、愛情あふれるスピーチを贈った。

でコンクリートブロックが現われ、昭和24～25年には米国より製造機が輸入され量産され出し、新材料の主座を占める有様であった。ところが、いざ建って見ると目地や建具の取付部から漏水が大きいネックとなった。コーキング材は、これに答えるように現われた新材料であった。

昭和28～29年ころ、私の研究室(東京工大)で委託研究生(工大応化卒)が輸入品を対象にコーキングの研究を始めたが、私はその必要性能・品質などについて建築の立場から助言した。まもなく輸入品に遜色ないというよりむしろ優れたものが試作された。そこで広く大学以外のユーザー、メーカーなどの同好の士を誘って「コーキング材標準化研究会」を組織し、品質・性能・試験方

法について検討するとともにJIS化を進めた。その成果は昭和36年建築学会関東支部の発表会にその1～10とし委員が分担して提示したが、これらの活動が主軸となって「JIS A 5751 建築用油性コーキング材」が制定されたのである。これが私のシーリング材出合の序幕である。

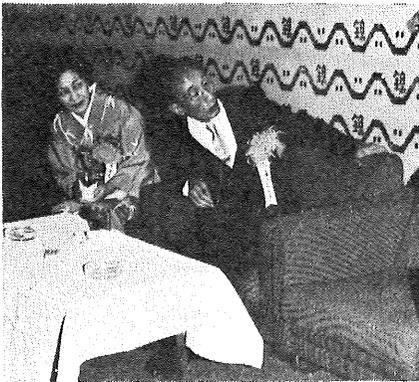
シーリング工業会は発足当時日本コーキング協会といったと思うが、その創立祝賀会にもお招き頂いた。そしてその席にTV「銭形平次」のおかみさん(当時少女)が見えていて、間もなく出かける予定の私の訪ソ旅行を祝福してくれたことも思い出されて懐しい。間もなく弾性シーラントが現われ、時代に応じて日本シーリング工業会と改められたのであるが、その改名にも意見を求められたりして以来、会との因縁は深い。発足以来15周年を迎えられるとのことであるが、シーリング材は建築材料界では目立たぬ地道な材料であっても、その役割は近代建築になくてはならない重要なものである。栄を祈って与えられた首題の責を果したいと思う。

ヨーロッパの建築 とシーリング材

波多野 三郎
千葉大学名誉教授・工学博士

ヨーロッパは雨が少ない。そして強い風もほとんどない。わが国と比較して、防水屋にとってはまさに天国といえる。「艱難汝を玉にす」……日本の防水屋は玉であり、ヨーロッパの防水屋は石である。それで事足りるのである。(ちと言い過ぎではあるが。)

ヨーロッパの建築の大部分は百年、二百年を経過している石造あるいはれんが造であり、われわれが苦勞する防水工法とは縁のない雨仕舞をしている。すなわち、屋根は粘土瓦の葺き屋根または金属



多年建築材料の標準化に貢献した功績により、藍綬褒章を受章した。11月28日帝国ホテルで盛大なるパーティーが開かれた。閉会后、勝子夫人とくつろぐ波多野博士。

板(ほとんど銅板か鉛板)葺きで、雨押え板・水切板・谷樋なども、耐久性の点から銅板または鉛板を使用している。バルコニーの床も然りである。雨は垂直に降るから、壁面のジョイントのシールもさして心配がないという。

しかし、カーテンウォール構造や高層ビルあるいは工場の陸屋根など、パネルジョイントのシール・陸屋根の防水を必要とする建築も多い。特に新開発地域(パリのデファンス、ロンドンのパーベカン、ローマのユーロなど)または都心には新しい建築があり、当然、シーリング材に依存しているが、シーリング材の種類・材質は、わが国と似たり寄ったりと思われ、工法は気象条件の差だけ粗雑に見える。

昭和25年ころ、東京の麻布にドイツ大使館が新築され、ドイツ製のアルミサッシと油性コーキング材が使用された。この時、竣工直前に現場見学の機を得たが、サッシドアの品質の優秀さに驚くとともに、シーリング材の品質に大きな危惧の念をいだいた記憶がある。それから1/4世紀余、そして工業会発足から15年、シーリング材に対する期待はますます大きい。工業会のご発展を祈ってやまない。

弾性シーリング材雑感

加藤 正 守
千葉大学助教授・工学博士

弾性シーリング材が一般的に使用されるようになって、かれこれ15年くらいになる。その間、昭和40年には材料別の規格が制定され、ついで昭和50年には多様化するシーリング材の適切な選択、使用に適應する用途別規格が制定されている。さらに現在、新たな観点から新規格を立案審議中である。これらの規格は、制定当時の技術的水準や業界の状態などを背景として制定され、その背景の変遷に伴

創立50周年を迎えて

って改訂あるいは新たな規格が立案制定されるもので、いうまでもないことではあるがメーカーにとってもユーザーにとっても絶対的なものではないということである。ところでメーカーがシーリング材の品質設計を行なう場合、なにに基準を置いているのであろうか。多くは規格に基準を求めるのが



51年7月春草会吟行会（都立殿ヶ谷戸公園）で。「湧き水を汲み上げ寛の音涼し」がその時の作句。

普通であろう。そのこと自身は特には問題はないが、ややもすると規格に適合することが最終目標となり、いかに適合するかに重点が置かれ、極端な言い方をすればいかに仕立てるかに品質設計の目標が置換えられてはいないか。また規格が改訂あるいは制定されるたびに同じようなことを繰り返す、右往左往しているきらいがないだろうか。規格に適合することによって、その品質が保証され、それなりの評価をうけているが、規格に適合してさえすれば事故が起きないというものでもない。なぜ事故が起きるのか。それは設計や施工にも起因していることはもちろんではあるが、やはり材料そのものにも原因がないわけではない。このことは規格にも問題があるか

も知らないが、基本的にはメーカーの品質設計の姿勢に一因があるのではないだろうか。規格指向型結構。しかしそれは最低基準値であり、最終目標値であってはならない。今後シーリング業界はさらに急速に多様化し高度化して発展してゆくであろうが、真正面を向いて、規格に振り回されることなく本当に良いシーリング材とはなにかを考えていこうではありませんか。

ルーフィング技術のシンポジウムに参加して 小池 迪夫 東京工業大学助教授（工学博士）

NBS（米国標準局）とNRCA（米国防水施工業協会）は、共催して定期的に屋根工法のシンポ



52年9月第一次北米建築防水技術調査団長として渡米。最初の訪問都市フォスターシティで名誉市民のバッジを受ける小池助教授。

ジウムを開いており、今年は実質的に国際会議として計画された。たぶん、3年前の英国 Brighton の国際会議の成功に刺激されたためであろうが、世界5カ国から招待講演者が指命され、参加者は22カ国、約700人の盛況となった。晩餐会において、ナイジェリア皇太子の民族衣裳がひとときわ高い拍子につつまれたのも、記憶に新しい。小生も招待講演者の一人として、わが国の防水工法の歴史と現況をかつまんで説明したが、極東の小さな大国への強い関心のため、応接に忘殺された。

シンポジウムや会社訪問から得られた印象は、世界各国とも共通して、労働者の質の低下という悩みを抱えている点である。米国の Labors' Union（屋根）は在来

の積層防水に固執し、ルーフィングの質の向上すら拒み、長い間新工法の普及を阻害してきた。しかし、ここへきて一挙に新工法が吹き出した感がある。それは、労働力の質の低下を材料・工法でカバーしようとする材料メーカーの積極姿勢の現われであり、当然技能養成の担当をも意味するが、労働者組織の制約の少ない日本やヨーロッパにおいて、過去十数年経験ずみの変革ともいえよう。

新工法として、タールウレタン、アスファルト系ワンプライシステム、溶融ゴムアスの塗膜、接着剤による積層など、目新しいものはないが、いずれも技能養成の容易なものばかりといえる。某メーカーが標榜するシーリング材の「ノープライマー」も、プライマーを必須とする場合、プライマーの塗り残しを極度に恐れるためであり、一成分化への意欲も、材料メーカーの自衛手段と考えることができる。

わが国も決して例外ではあるまい。たしかに、技能検定の制度はできた。しかし、「仏造って魂入れず」とならないことを切に期待するのも、筆者だけではあるまい。「魂」を入れる基本は技能に対する尊敬の念でなければなるまい。

シーリング施工の技術改善

青山 幹

(株)大林組技術研究所材料第2研究室室長

日本シーリング工業会創立15周年を心からお慶び申し上げます。シーリング施工の技術改善に関して思いつくまを述べさせていただきます。

1) シーリング材の品種について——超高層ビルの出現ならびに建築業界のニーズに答えた高分子化学業界からの製品は、今や7品種におよぶシーリング材の上市となっているやに見受けま。品種の多いことは、適材適所の選択に幅があることになるわけですが、他方どっちつかずで無理な使用に供せられる場合も多いのではないかと考えられます。個々の品種がそれぞれに存在価値の確立をなすべきではないでしょうか。



シーリングの作業はできるだけ機械化が望ましい——と青山氏。

べきではないでしょうか。

2) プライマーについて——取り合いでの塗り分けは、非常に困難な場合が多く、間違えて大きなクレームにつながるがあると思われま。出来得ればオールマイティーの1品種にしぼることが望ましいと考えま。次に現在のプライマーは無色透明のものが多く、塗りむらが判りにくいことから、重大なミスを犯すことになるのではないのでしょうか。ぜひとも着色などの工夫をなすべきと考えま。

3) 作業者について——シーリング充填工事における混練の作業で、大半はいまだに手混合が多い認定職種もあり、またその使命の重大さを認識すれば、作業者の

手加減に頼る混合はなるべく機械化し、作業者は充填施工作業など機械化し難い作業に技能を集中すべきと考えま。シーリング材としての機能はすべて施工者の技能によって与えられるものであるこ

とを考えれば、作業者への余分な負担は極力避けるべきであるからであります。すなわち混練については、いかなる場合も機械混練を原則とすべきと考えます。そこに目地があるから、ただ充填するのではなく、シーリング材施工に関係する専門知識を高揚し、加えて常識的な関連知識も備えるべきであります。

4) 材工一体について——メーカーの商品ではそれだけでは半製品であるわけで、シーリング材の使命を間違いなく全うするためには、メーカーから施工者に至る系列の強い結束が必要であり、それがシーリング業界の確固たる地位の向上につながるものと考えます。

おわりに日本シーリング工業会のますますのご発展をお祈りいたします。

シーリング材の 現状と問題点

鶴 田 裕

大成建設(株)技術研究所仕上材料研究室技師

工業会発足15周年を迎えるという。心からお祝いを申し上げたい。この15年間、シーリング材の発達の過程を物語っているかのように、工業会の名称は2回変更、つまり3回目の名前である。銅婚式といえば、子供もそろそろ高校に入るところ、大学受験を控えて親子ともども苦労する時期である。シーリング界もちょうどそんな時期にさしかかっており、何かとかまびすしい今日このごろである。この育ちゆくシーリング材の現況や問題点を申し述べ、お祝いの言葉に変えさせていただきたい。

油性コーキング材は、設計者やゼネコンなど建築業界から歓迎されながら輸入され、さらにすぐれた性能をという求めに応じて、ポリサルファイド、シリコーン、ウレタンなどが続々と登場してきた。



業界からの啓蒙が必要——と鶴田氏。

某防水団体の創立祝賀会で祝詞を述べる。

この歓迎もうらには性能向上とか、工業化とか省略化などに名前を借りた「横着」が秘められていたのである。魚心あれば水心というわけで、幸か不幸か目覚ましい合成高分子技術の発達期でもあり、たくさんの子供が生まれてしまった。子供が生まれるまでは「雨仕舞」という確立された手法があったが、新しい子供たちが大変優秀に思えたので、これにすべてを託す。いいかえれば、これが駄目になるとすぐ大規模漏水という設計があたりまえになってしまった。外壁に加わる酷しい熱負荷、温度変化や風圧によるムーブメント、そのムーブメントも冬季に目地幅の拡大、夏季に縮少という材料の温度と変形能力の関係に対してまるで反対の条件にさらされる。

シーリング材にとっては、はなはだ不利な、ことによると建築材料の中でもっともきびしい使われ方をされているかも知れない。いくら優秀な子供でも、しごかれ続ければくたびれてしまうのに、さらに優秀な子供が出てくると、一層きびしい条件でしごき、あげくのはてに落第を宣告してし

まう。いずれ横着したいという希望のために大学卒業がむずかしくなってしまった。JIS A 5757の制定など、大学への入学条件は整備されつつあるが、材料を生かした目地設計、雨仕舞を総合的に考えなおす時に来ているというのが、今日このごろのシーリング材をとりまいている問題だろうと思う。シーリング材に対する使用者側の過信の排除、ものは使えば駄目になってゆくという考えの再認識を含めた建築業界の自己啓発とシーリング業界からの啓蒙が必要である。銅婚式のお祝いとしてはやや酷い表現になってしまったが、大学入試を前にややとまどっている子供、いや青年たちの行くすえを案じている気持ちとしてお受取り下されれば幸いである。

研究者から見た最近の シーリング材の開発傾向

寺内 伸

鹿島建設(株)技術研究所建築部主任研究員

シーリング材の開発姿勢に対する希望をのべ、ご依頼の主旨に替えます。シーリング材は技術的な進歩がめざましく過去幾多の改良がなされた。しかし最近の開発技術の進歩はやや頭打ちになり、今後さらに進歩するためには、今までと違った別の工夫が必要な曲り角にきていると考える。今までシーリング材の開発は主にメーカーによってなされた。しかし今後さらに改良してゆくためには、各種の専門分野の技術を取り入れる必要があると思う。その理由はシーリング材に要求される性能があまりに複雑だからである。たとえば防水という機能が商品であるシーリング材の場合、施工しやすい材



これからは各種専門分野の技術を取り入れることが必要と——寺内氏。

料であることは要求性能の第一であり、開発にあたっては施工業者の技術が必要となる。次に、シーリング材は切れないこと、はがれないことは当然である。シーリング材の切れは、シーリング材が粘弾性体であるため、変形によって粘性部分が流れ変形し、弾性部分が緩和するため復元性がなくなりセットし、その後の繰り返し変形で疲労して切れる。したがって繰り返し変形によってセットしないシーリング材を改良するためには、風、地震、熱膨張、収縮などによって被着体のジョイントが経時的にいかにもーブメントするかを知る必要がある。それには、建築設計施工の技術や知識が必要となる。またははがれは変形応力が界面に剝離力として作用し、接着力が

負けて剝離する。一般に接着性はマクロな接着実験によってのみ検討されているが、接着性向上にはミクロな接着機構の検討が必要である。被着体とシーリング材の接着を強固にするためには相手方の材質表面粗度、ぬれ角その他について熟知しないと、理論的に十分な接着機構を解明できるはずがないと思う。そのためにはメーカーと被着体製造業者および建築技術者が、3者共同で研究開発をしないとさらに良いシーリング材は生れないのではないだろうか。満15周年にあたり工業会がコーディネーターとなって、このような各専門分野の技術を結集した総合的な研究体勢組織作りを提案するしだいで。工業会のますますの発展をお祈りいたします。

雨仕舞とシーリングの役割

深 沢 明

(株)竹中工務店東京支店工事部部长補佐

「雨風を防ぐ・雨露をしのぐ」ということが、すべて建築物の第一機能であることはいうまでもないが、建物の漏水についての完全な対処の方法は、いまだ確立されていないのが現状である。

建物竣工後、数年以内に発生するクレームの中で、漏水事故の占める割合は残念ながらかなり多い。従来ほとんど防水を考慮しなくてもよかった外壁も、建物の高度化ならびに工期の短縮化などの傾向にともなって問題となり、PC工法・カーテンウォール工法以外の一般の鉄筋コンクリート造の外壁からの漏水なども多くなっており、これらの対策に苦慮しているのが実状である。



施工管理にきめ細い配慮を——と深沢氏、
防水研究会で。

これは建物機能の高度化とともに、建物の規模が大きくなり、構法、材料などの分野も複雑になってきており、それにともない当然のことながら、雨仕舞・防水の分野も複雑多岐にわたり、建物のB・E（建築部材）に要求される性能も高度のものになってきたことが大きな要因ではある。

シーリング材は、広い意味では油性コーキング材から動きのある目地に充てんして、水密性・気密性などの性能を有する弾性シーリング材と、さらにガラスをサッシに固定するいわゆるグレイジングをも含めたものであるが、最近、特に問題となっているのは弾性シーリング材の早期欠陥の発生である。弾性シーリング材といっても

特にポリサルファイド系シーリング材を用いたジョイントや目地の比較的早期に発生する剝離・破断・劣化である。

シーリング材は建築材料のなかでも、その要求性能が複雑でむずかしい材料であるのは周知のとおりである。シーリング材の劣化は材料自体が、紫外線、オゾン、熱などによってアタックされると同時に、使用されるシーリング材が、建物の各種の繰り返し変形を受けることによる疲労と両方の要因の相乗作用によって生じる。実際に施工されたシーリング材が建物や部材の動きによって、どのように変形するかを把握することは必要不可欠の条件である。これらの動きのある目地の雨仕舞の設計は一般に、シーリング材が剝離・破断しても、2次シールが施され、あるいは排水されるように配慮されていることが多いが、なかには1次シールにすべてを頼っていることがある。これらは直ちにクレームとしてトラブルのもとになる。したがって、目地設計に対する配慮は、設計に携わる者としては、そのジョイント（目地）が、いかに変形を受けるか、また用いられるシーリング材の性能の実態をいかに把握しているかにかかっているとと言える。また施工に携わる者としては、被着体の表面とプライマーの選定ならびに施工の管理をいかにきめ細かく配慮していけるかにかかっているとと言える。

シーリング材の原料メーカーあるいはフォーミレーターに望むことは、材料自体の品質性能の向上

と、他の防水材料のように施工されてから少なくとも5～10年程度の保証をするぐらいになっていた
 いただきたいものである。

実態調査活動を期待したい

丸 一 俊 雄

清水建設㈱研究所主席研究員 工学博士

「シーリング材の未来像」と題してシーリング工業会15周年特集号を記すことになった。15年間の長い歴史を経た今日、シーリング材の果たした役割は大きい。しかし、建物の雨仕舞はシーリング材のみで満足な結果が得られるものではなく、材料、施工、設計の三位一体が得られて初めて所定の耐久ある雨仕舞ができる。新しい設計は材料、施工法の開発を生み、新しい材料は設計の範囲や自由度を高める結果となって技術の進歩に貢献するが、常に問題が残るであろう。



明日への飛躍のためにも実態調査を——と丸一氏。

雨仕舞はどうも永続的な課題であって、地道な試験や実態調査の結果を多く蓄積し、これを分析検討して初めて解決する問題のようである。最近、シーリング材の材料組成にしても、労働安全の面から材料の制限が加えられ、たとえ性能がよくても公害を生ずるような材料配合はできない。このため、被着体に対する接着や耐久性の上でかなりの限度が生じ、コスト面と関連して新しい材料の開発が難しくなっているのではないと思われる。

したがって、シーリング材の未来像を考える前提として、現在、市販のシーリング材の適用範囲と耐久年限を決める努力が必要ではないだろうか。これにはシーリング材の性能を明らかにし、それが使用された個所の多くの実態調査が必要となる。実態調査の項目として、シーリングの種類、施工目地の断面形状とそのバラツキ、目地の動き、被着体の種類と表面処理、シーリング材の調整、施工時期、施工者の伎倆などが必要であろう。

この調査結果の分析検討からシーリング材の耐久性が判明し、また、どのような性能が必要かが明らかとなろう。さらにこの性能を得るために、経済性を考慮したシーリングの改善や新しいシーリング材の開発がなされるであろう。現在まで確かな実態調査が不足し、現状のシーリング材がどう評価してよいか不明のまま、シーリング材の未来像を論じることは難しい。明日への飛躍のため工業会を中心とする今後の実態調査活動を期待したいと思う。

ジョイントデザイン とシーリング

渡辺 敬三

戸田建設(株)建築技術開発センター次長

日本シーリング工業会の15周年を心からお祝い申し上げます。

この15年間の建築技術の進歩は目まぐるしい限りでしたが、工業会が建築界に果たしてきた役割は非常に大きいものがあったと思います。しかし、人間は試行錯誤を繰り返してより完全なものを求めて行くのですから、今後もより活発な活動をされるようにと期待しています。

エンジニアリングにおけるジョイントには、力を伝える機能と漏洩を防ぐ機能とがあります。力を



今後もより活発な活動を通じ発展を——
と渡辺氏。

伝えるものとしては、木材の継手、鉄骨の継手および鉄筋の継手が建築における継手の代表的なものです。欧米の木材の継手はボルト・ジベルが主ですが、日本には追掛け大栓のようなすばらしい継手があります。

一方、漏洩を防ぐ継手は、下見板や羽目板あるいは瓦のようなラップジョイントが洋の東西を問わず一般的な手法でした。また、葦葺き、草葺きなどではジョイントの集合で漏洩を防ぐ手法といえましょう。

このような古来の知恵を、現在の建築物に上手に利用することも、ジョイントデザインの重要なポイントのような気がします。

一時期、シーリングだけで水を止めることができると考えていたものが、減圧空間や2次シールの必要性が認識され、今では常識になっているのも、このような古い知恵が生かされたのではないかと思います。新しい材料・新しい工法を求めて、人間は常に前進していますが、これには常に危険が伴っています。この危険をより少なくする方法として、科学的な追求のほかに、昔の知恵を取り入れることも大切でしょう。

工業会の今後のご活躍を念じて筆をおきます。

日本シーリング工業会 15年の歩み

明治末期よりわが国でも硬化性ガラスパテの国産化が開始された。それ以前の明治中期から塗料とともに防水材としてのパテが輸入され使用され始めたのであるが、国産化が開始された明治末期より昭和中期まではアマニ油、炭酸カルシウム、亜鉛華、白鉛などによるパテが主流であった。

以下、油性コーキング材の輸入が開始された昭和25年より日本シーリング工業界の発足した昭和39年までのシーリング業界の概略を列記する。

38

工業会設立前の動き

年 次	ト ピ ッ ク ス
昭和25年	油性コーキング材の輸入開始。
29年	東京工業大学狩野研究室においてシーリング材の研究開始。
30年	油性コーキング材の国産化開始。
33年	コーキング材標準化研究会発足（主査・東京工業大学狩野教授）
35年	建築用ポリサルファイドシーリング材の国産化開始。
// 11月	建築用コーキング材 JIS 専門委員会発足（委員長・狩野教授）
36年7月	建築用油性コーキング材 JIS 制定。
//	建築用ポリサルファイド、シリコーンシーリング材の輸入開始。
38年	シリコーンおよびブチルシーリング材の国産化開始。

工業会歴代会長

	期 間	会 長 名
1回	昭和38年2月～9月	昭和化工(株) (現昭和石油アスファルト(株)) 国生 裕作
2	// 年10月～39年2月	日本添加剤工業(株) 野口清之助
3	39年3月～9月	明星工業(株) (現明星チャーチル(株)) 富本 弘
4	// 年10月～40年4月	日本ゴーレックス(株) (現鐘紡合成化学(株)) 木村清兵衛
5	40年5月	三星産業(株) 岩崎 一
6	// 年6月～42年3月	小野田ユニロン(株) (現小野田建材(株)) 渡辺 三郎
7	41年5月	// //
8	42年4月～43年3月	日瀝化学工業(株) 山本 哲朗
9	43年4月～44年3月	日本添加剤工業(株) 野口清之助
10～17	44年4月	小野田建材(株) (昭和44年以前は小野田ユニロン) 渡辺 三郎
18	52年5月	昭和石油アスファルト(株) 青木 濟

年 表

社 会 ニ ュ ー ス	年 次	日本シーリング工業会の歩み	建 築 界
<p>☆ソ連世界初の女性宇宙飛行士を乗せた宇宙ロケット打上に成功（6月）</p> <p>☆三井三池炭鉱爆発事件発生（11月）</p>	昭和38年 (1963)	<p>☆日本コーキング協会の創立（2月28日11社によりスタート）</p>	<p>☆プレハブ建築協会発足（1月）</p> <p>☆建設省，住宅7ヶ年計画発表（10月）</p>
<p>☆米宇宙ロケット月着陸に成功（10月）</p> <p>☆東京オリンピック開催（10月）</p>	昭和39年 (1964)	<p>☆東京都千代田区神田鎌倉町8水鳥会館内に事務局設置，専従職員を置く（6月）</p> <p>☆建築用油性コーキング材J I S改訂委員会設置される（8月）</p>	<p>☆日本カーテンウォール工業会設立（2月）</p> <p>☆建材試験センター財団法人となる（4月）</p> <p>☆超高層ホテル，ニューオータニ完成（8月）</p>
<p>☆東京オリンピック後の不況到来・山陽特殊鋼(株)倒産（戦後最大）（3月）</p> <p>☆ベトナム戦争激化</p> <p>☆長野県松代地方に群発地震</p> <p>☆朝永振一郎氏，ノーベル賞受賞</p> <p>☆日韓基本条約調印</p>	昭和40年 (1965)	<p>☆日本シーリング協会と名称を変更し，弾性シーリング材メーカー，施工業者の加入に伴い三部会制を採用：第一部会・油性，第二部会・弾性シーリング材，第三部会・施工業者（6月）</p> <p>☆建築用合成ゴム系シーリング材J I S原案作成委員会設置され，これに伴いポリサルファイド，シリコンJ I S協会案の作成に着手（8月）以降，数回にわたって協会案作成委員会開催</p> <p>☆協会マークの作成（10月）</p> <p>☆一この頃より価格低迷過当競争にはいる一</p>	<p>☆建設省，多摩丘陵ほか7団地5,500ヘクタールの開発に着手（1月）</p> <p>☆建設省住宅局，41年よりプレハブ構法推進を決定（11月）</p> <p>☆不況により建設業の倒産激増（前年比1.9倍）</p>
<p>☆全日空機東京湾墜落，カナダ航空機羽田着陸に失敗，英航空機富士山に衝突，計321名の死者を出す（2～3月）</p> <p>☆政府，成田空港を決定（7月）</p> <p>☆中国，紅衛兵旋風起る</p>	昭和41年 (1966)	<p>☆建築用油性コーキング材J I S改訂公布（1月）</p> <p>☆東京都千代田区外神田2-2-17共同ビル（<u>現在地</u>）に事務局移転（6月）</p> <p>☆東京都住宅局特記仕様書中に油性コーキング材につき協会名特記指定となる（6月）</p> <p>☆合成ゴム系シーリング材J I S原案作成委員会内において一成分型シリコンJ I S第1回目の審議にはいる（10月）</p>	<p>☆建研構内において中層量産アパートの振動実験実施（プレキャスト部材PC棒鋼5F）（8月）</p>

社会ニュース	年次	日本シーリング工業会の歩み	建築界
☆日本の人口、1億を越す	昭和41年 (1966)	☆油性コーキング材J I S審査要領の打合せ開催(10月) —前年より引続きシーリング材の価格低迷—	☆日本建築センター資料館竣工(10月)
☆第二次佐藤内閣成立 美濃部氏都知事当選(4月) 吉田元首相国葬(10月) 米ソ首脳会談(11月)	昭和42年 (1967)	☆機関誌「シーリング」第1号発行(1月) ☆2成分型ポリサルファイドJ I S協会案作成委員会開催(2~4月) ☆建築用シーリング材J I S協会合同委員会開催(3月) ☆油性コーキングJ I S第1回認可が7社になされる(6月) ☆建築学会建築工事標準仕様書J A S S 8防水工事4節「シーリング工事」の原案完成(7月)	☆日本建築積算事務所協会発足(6月) ☆日本建設業連合会発足(11月)
☆反代々木系学生東大安田講堂を占拠, 8日機動隊出動, 学生を排除(2月) ☆ソ連軍チェコに侵入(8月) ☆川端康成氏ノーベル文学賞受賞(12月)	昭和43年 (1968)	☆工業会創立5周年記念式典開催(2月) ☆九州地区施工業者により九州シーリング協会発足(11月)	☆42年度着工統計史上最高(4月)
☆中ソ両軍衝突(3月) ☆反代々木系学生放火・投石騒動続く(4月) ☆人口衛星月面着陸, 人類初めて月表面に立つ(7月)	昭和44年 (1969)	☆建築用ポリサルファイド, シリコンシーリング材J I S制定公布(1月) ☆第三部会(施工業者)協会を退会し, 4月「新日本シーリング工事業協会」を設立(3月) ☆日本シーリング工業会と名称を変更(4月)	☆東京一小牧間東名高速道路開通(5月)
☆日本万国博開催, 77カ国参加(3月) ☆歩行者天国始まる(8月)	昭和45年 (1970)	☆シリコンメーカー構成により第3部会を新設し, 施工業者の復帰により施工部会を新設準会員に(4月) ☆名古屋支部結成(11月)	☆東京都江東地区防災都市再開発構想発表(7月) ☆日本住宅物流センター発足(建材メーカー)(7月)
☆沖縄返還交渉成立(6月) ☆天皇, 皇后両陛下下訪欧(10月) ☆ドルの急落により円切上げとなる(1ドル308円に)(12月)	昭和46年 (1971)	☆弾性シーリング材標準施工書を発表(4月) ☆「シーリング管理士」制度を決定, 施工部会助成など審議会を設置(7月) ☆シーリング管理士規約を制定(10月)	

社会 ニ ュ ー ス	年 次	日本シーリング工業会の歩み	建 築 界
<p>☆札幌冬季オリンピック開幕 (2月)</p> <p>☆新幹線大阪一岡山間開通。</p> <p>☆沖縄27年ぶりに返還(5月)</p> <p>☆日本赤軍イスラエル・テル アビブ空港襲撃事件発生 (5月)</p> <p>☆ミュンヘンオリンピック大 会開幕(8月)</p> <p>☆日中国交回復(9月)</p>	<p>昭和47年 (1972)</p>	<p>☆職業訓練法施行規則の改正により「防水施 工科」追加指定となり、他防水業界ととも に推進を決定(1月)</p> <p>☆第1回シーリング管理士講習会を東京にお いて開催、合格者47名(1～3月)</p> <p>☆通産省の要請によりPCB使用の実態調査 を実施、即時使用中止を要請(3月)</p> <p>☆職業訓練法に基づく国家認定防水技能士制 度推進をはかるため防水9団体とともに連 絡機関「志水会」を結成(4月)</p> <p>☆従来の部会制を改め分科会制を採用。＜ポ リサルファイド分科会＞＜シリコーン分科 会＞＜ウレタン分科会＞＜アクリル分科会 ＞＜水性SBR分科会＞＜ブチル分科会＞ ＜油性分科会＞(6月)</p> <p>☆名古屋支部施工部会誕生(6月)</p> <p>☆大阪支部施工部会誕生(8月)</p> <p>☆東京施工部会技術講習会開催(10月)</p> <p>☆福岡支部結成(10月)</p> <p>☆大阪支部発足(11月)</p> <p>☆名古屋・大阪支部シーリング管理士講習会 開催、合格者名古屋支部60名、大阪支部40 名(11月)</p> <p>☆10周年記念事業実行委員会発足(12月)</p>	<p>☆工技院未来都市交通システ ム試作本実験(10月)</p> <p>☆政府国土総合開発推進本部 設置(12月)</p>
<p>☆アラブ産油国原油大幅値上 げ発表(8月)</p> <p>☆金大中事件発生(8月)</p> <p>☆政府物価抑制のため金融引 締政策強化(8月)</p> <p>☆政府石油対策要綱を決定、 大口需要家への供給削減実 施(10月)</p> <p>☆主婦ら、トイレトペーパー</p>	<p>昭和48年 (1973)</p>	<p>☆防水8団体の職訓制度実施推進機関の職業 訓練委員会に参加(1月)</p> <p>☆新橋第一ホテルにおいて10周年記念式典開 催(2月)</p> <p>☆米シンシナティ大学クック教授訪日歓迎レ セプション開催(6月)</p> <p>☆東京工業大学小池助教授を招き用途別J I S説明会を開催(6月)</p> <p>☆広島支部結成(7月)</p> <p>☆東京、名古屋、大阪、福岡においてシーリ ング管理士講習会、同認定試験を実施。 計173名合格(8月)</p>	<p>☆池袋副都心再開発事業施工 者決定(1月)</p> <p>☆建築投資抑制措置を実施 (8月)</p> <p>☆建築資材の異常高騰続く</p>

社 会 ニ ュ ー ス	年 次	日本シーリング工業会の歩み	建 築 界
洗剤、砂糖の買いだめに殺到 (11月)	昭和48年 (1973)	☆用途別性能原案作成委員会に意見書を提出 (12月)	
☆丸ノ内三菱重工ビル, 三井物産本社ビル, 大成建設ビルの爆破統発 (7~11月) ☆経企庁発表, 49年の経済成長は戦後初めてゼロ成長の推定発表 (9月)	昭和49年 (1974)	☆北海道支部結成 (3月) ☆用途別性能 J I S 経過説明合同分科会開催 (7月) ☆各支部所属の施工部会は暫定措置として職訓制度推進のため日本シーリング工事業連合会を結成 (7月) ☆相談役, 顧問との懇談会開催 (10月) ☆東京・名古屋・大阪・福岡・広島においてシーリング管理士講習会, 同認定試験を開催。合格者151名 (11月) ☆47, 48年通産省窯業建材課のシーリング材販売実績発表 (12月)	☆総理府統計局発表, 全国住宅戸数3,103万戸 (3月) ☆建設業法改正, 登録制より許可制となる (4月) ☆新宿の超高層住友ビル竣工 (4月) ☆建設省「住宅需要実態調査」結果によると困窮住宅3世帯に1世帯と発表 (5月) ☆新宿の超高層三井ビル完成高さ日本一 (9月)
☆英エリザベス女王夫妻来日 (5月) ☆沖縄海洋博開催 (6月) ☆天皇・皇后ご訪米 (10月)	昭和50年 (1975)	☆工業会所属の施工部会は日本シーリング工事業連合会を解消し工業会を退会。日本シーリング工事業協会を結成 (7月) ☆用途別性能 J I S 説明会開催 (7月) ☆建築用シーリング材用途別性能 J I S A5757制定公布 (10月) ☆大阪・広島支部, 用途別 J I S 説明会を開催 (11月)	☆建築抑制措置廃止 (6月) ☆住宅宅地審議会答申, 10年後4人家族, 3LDKを標準とする (8月) ☆建設省, 長期10カ年計画と第三期住宅建設5カ年計画を決定, 10カ年1,750万戸, 5カ年860万戸と発表 (8月) ☆宅地開発公団発足 (9月)
☆NHK社員夫妻の間に5つ子誕生 (1月) ☆毛沢東主席死去 (6月) ☆ロッキード事件により田中前首相逮捕 (7月) ☆カーター氏米大統領に当選 (11月)	昭和51年 (1976)	☆「建築用シーリング材とその正しい使い方」発刊。 (3月) ☆東京, 名古屋, 大阪, 福岡, 広島にてシーリング管理士講習会, 同認定試験を開催。合格者 (189名) (3~4月) ☆全国防水工事業団体連合会賛助会員となる (6月) ☆建設省共通仕様書中に新追加のためシーリング材説明会を開催 (7月) ☆技術懇談会開催 (相談役顧問 (8月) ☆入会に関する内規作成 (9月) ☆シーリング管理士規約を全面的に改訂 (10月)	☆第三期住宅5ヶ年計画政府決定 (3月)

社会ニュース	年次	日本シーリング工業会の歩み	建築界
<p>☆政府、領海12カイリを決定（1月）</p> <p>☆政府の52年度経済見通し、実質成長6.7%、消費者物価上昇7.7%、卸売物価上昇5.4%（2月）</p> <p>☆ソ連200カイリ漁業専管水域を決定（2月）</p> <p>☆王選手ホームラン世界新記録達成（9月）</p> <p>☆日本・西独赤軍のハイジャック事件発生（10月）</p>	<p>昭和52年（1977）</p>	<p>☆新「シーリング管理士」制度推進のためシーリング管理士検定委員会を設置（1月）</p> <p>☆「シーリングハンドブック」発刊（4月）</p> <p>☆外部有識者との懇談会開催（6月）</p> <p>☆新制度による2級管理士の登録書替を実施（6月）</p> <p>☆ポリサルファイド、シリコン、ウレタンの3合同分科会、同幹事会を開催、サッシ協会カーテンウォール工業会の提案に基づく保証問題を討議（7月）</p> <p>☆日シ協との材工懇談会を開催（7月）</p> <p>☆シーリングニュース創刊号を発行（8月）</p> <p>☆建築用シーリング材標準色を決定（9月）</p> <p>☆6基材（油性を除く）新J I S工業会案を原案作成委員会（工技院）に提出（9月）</p> <p>☆合同分科会を開催、標準色の説明、J I S原案作成委員会経過を報告（10月）</p>	<p>☆建設省発表、52年建設投資見通し総額40兆円（前年比実質8.1%増、建築26兆円、土木14兆円：政府14兆円、民間25兆円）（2月）</p> <p>☆中央建設業審議会は現行の標準下請契約約款の改正を建議（4月）</p>

A・L・Cから 超高層まで

各種シーリング材の販売
および責任施工

創立14年

アルファのマークは信頼のマーク



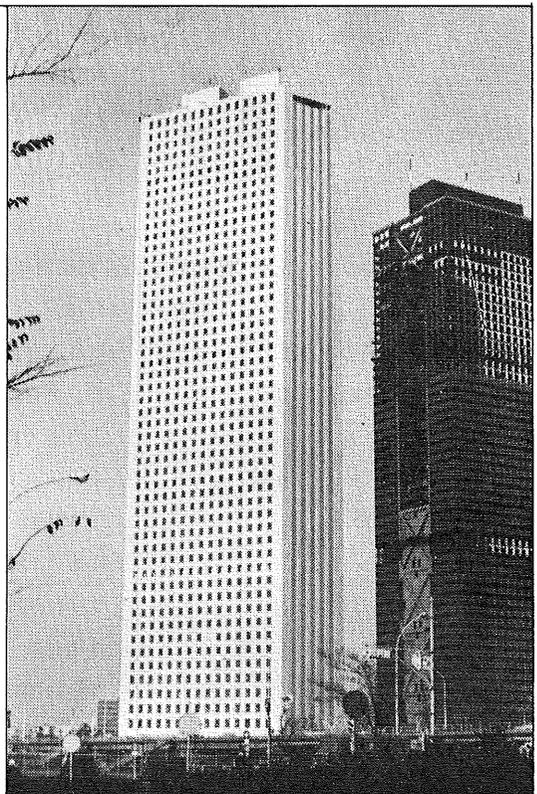
日本シーリング工事業協会会員

アルファ産業株式会社

本社 東京都港区浜松町1丁目11番11号

電話 (03) 432-5735~7

子会社 大阪・名古屋・広島・福岡



嵐の中のシーリング・ゾーン



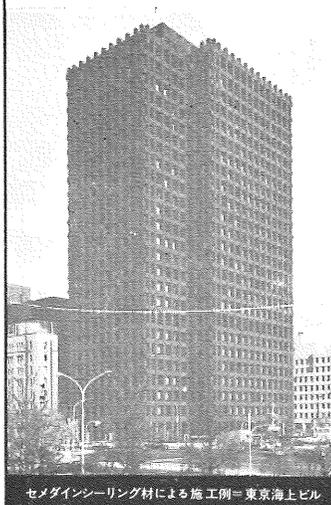
現代建築に 確かな足跡

超高層ビルをはじめ、現代建築に重要な役割を果たすシーリング施工。

セメダインではこれまでに、建築用接着剤とともに、各種シーリング材においても、数多くの実績を積み重ねてきました。

すぐれた接着性、弾性により抜群の水密・気密効果を発揮し、耐久性、耐候性など厳しい要求性能もクリア。

シーリング設計には、あらゆるシーリング工事に適応するタイプをそろえた、セメダインシーリング材シリーズよりご指定ください。



セメダインシーリング材による施工例＝東京海上ビル

セメダイン 建築用シーリング材

■セメダインシーリング材シリーズ

- ポリサルファイド系＝セメダインポリシール
- ポリウレタン系＝セメダインS-700, S-750
- 油性＝セメダインポリコーク
- アクリル系＝セメダインS-10, S-20
- ブチルゴム系＝セメダインS-620
- シリコーン系＝セメダイン8060(オキシムタイプ)
- シリコーン系＝セメダイン8065(酢酸タイプ)

C 接着工法のすべてをカバーする
セメダイン株式会社

資料は④資料希望とご記入の上お申し込みください。
申込先＝東京都品川区東五反田4-5-9(〒141)
セメダイン株式会社業務部広告宣伝課

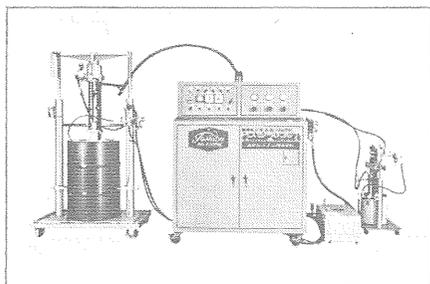
トスシール361

JIS A 5757 S-MCG-I-A-N

最も信頼性の高いシリコンから生まれた《トスシール361》は、四季に左右されない施工性、強い接着力、目地の動きに十分追従できる耐久性・湿度変化・紫外線・雨・雪・オゾンなどの苛酷な自然条件にも侵されない耐候性など……どれをとっても一級の性能をもった低モジュラス・2成分型シリコンシーリング材です。

●確かな材料と確かな施工体制も確立

シリコンメーカーで最初に建材販売部をつくり、スベックイン活動から施工迄の一貫体制をいち早く完了した東芝シリコンは、建築のシーリング工事に要求される〈材・工〉一体の保証に應えるため、優良施工店を《トスシール特約施工店》として選定し、同時に現場混練の不安解消と作業能率アップを計るため、自動混合吐出機パイレスを導入して施工技術・施工管理体制も確立しています。



パイレス（2成分自動混合吐出機）

資料請求券
53年1月
シーリング



東芝シリコン株式会社

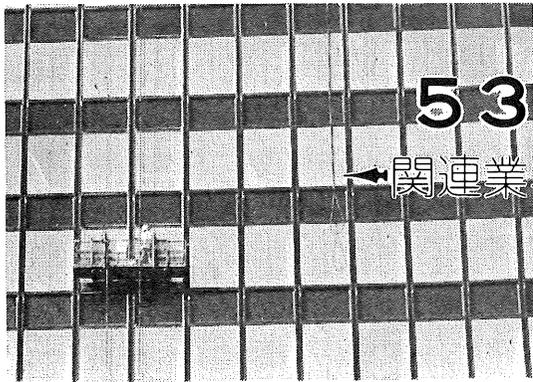
本社・東京支店／東京都港区新橋3-3-9(阪急交通社ビル) ☎(03)503-5561 〒105

大阪支店／☎06-251-6272 名古屋支店／☎052-201-8541 仙台営業所／☎0222-64-7496 福岡営業所／☎092-721-5211
金沢営業所／☎0762-42-3053 広島営業所／☎0822-47-0951 札幌駐在／☎011-221-1048

最も優秀な性能をもっています。



最近の施工例より—新郵船ビル



53年を展望する

← 関連業界動向を中心として →

広報委員会

はじめに

慢性的な不況の続く中でシーリング業界もきわめて厳しい状況下に立たされ続けているが、1978年ははたしてどう動くであろうか。近年の建築産業とシーリング材との関連をみると必ずしも100%正比例しているとはかぎらず、さらにシーリング材の基材別に個々の性能、用途によって多少バラツキもみられることから78年のシーリング業界の動向は注目に値するものといえる。

建築用シーリング材の販売数量を過去10年間にまでさかのぼってみれば、飛躍的に増大していることはいうまでもない。これは昭和48年の石油ショックまでの高度成長の波に乗り、さらに建築構法がP C板、A L C板、カーテンウォールなどを使用したものへと変化をみせたことによるものである。昭和42年に5,737トン（通産省調べ）であったものが昭和52年には20,175トン（日本シーリング工業会推定）と3倍以上の伸びを見せている。しかも昭和48年の石油ショック以後の不況下にあっても昭和49年、50年がわずかに落ち込んだだけで、昭和51年には48年のレベルを上回っており、52年にさらに伸びていることが注目される。

このようにシーリング材の販売量からみれば、不況にもかかわらずきわめて順調な伸びをみせているが、基材別にみるとその伸び率にバラツキがみられ、さらに一部の基材ではメーカーが乱立し、過当競争ぎみであることから量的な伸びだけでは決して樂觀できないのが現状である。

基材別の動向を細かくみてみると、ここ数年の油性コーキング材の減少とポリサルファイド、シリコーン、ウレタンなど弾性系シーリング材の目をみはる増加という

パターンが基本的に続いている。これら弾性シーリング材の伸びが総量の伸びをささえているわけである。

全建築用シーリング材の量は昭和48年に17,124トンでピークにして49年は15,570トン（前年比9.1%減）と落ち込んだが50年は16,985トン（同9.1%増）とやや持ち直し、51年には18,940トン（同11.5%増）となり48年のレベルを越えた。そして52年は20,175トン（同6.5%増）でさらに伸びをみせた。

油性系が48年の8,781トンをピークに毎年減少し、52年表一1 シーリング材の販売推定量（単位：トン）

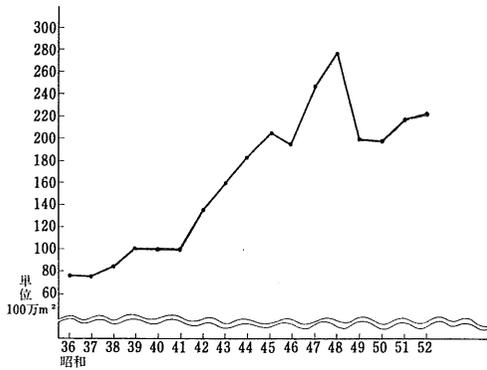
基 材 区 分	年	建 築	自動車	その他	計
ポリサルファイド	48年	2,550	900	1,110	4,560
	49	2,800	1,200	500	4,500
	50	3,200	950	550	4,700
	51	4,200	160	940	5,300
	52	5,100	150	640	5,890
シリコーン	48年	800		38	838
	49	940		40	980
	50	1,140		50	1,190
	51	1,340		60	1,400
	52	1,675		75	1,750
ウレタン	48年	1,462	122	23	1,607
	49	1,500	150	50	1,700
	50	1,600	800	50	2,450
	51	2,160	1,000	140	3,300
	52	2,500	1,200	170	3,870
水性アクリル	48年	1,425		75	1,500
	49	1,230		70	1,300
	50	1,615		85	1,700
	51	1,800		100	1,900
	52	1,950		115	2,065
フチル	48年	1,530	470	1,025	3,025
	49	1,400	600	1,000	3,000
	50	1,680	720	1,200	3,600
	51	1,940	860	1,500	4,300
	52	2,150	1,000	1,780	4,980
水性SBR	48年	576			576
	49	200			200
	50	250			250
	51	350			350
	52	350			350
油 性	48年	8,781	534	379	9,694
	49	7,500	410	290	8,200
	50	7,500	410	290	8,200
	51	7,150	390	260	7,800
	52	6,450	50	200	6,700
計	48年	17,124	2,026	2,650	21,800
	49	15,570	2,360	1,950	19,880
	50	16,985	2,880	2,225	22,090
	51	18,940	2,410	3,000	24,350
	52	20,175	2,400	2,980	25,605

注 48年実績は通産省窯業建物課調べによる。49年以降は日本シーリング工業会の推定による。

53年を展望する

には6,450トンと大きく落ち込んでいるのに対して、ポリサルファイド系が48年2,550トン、52年5,100トン、シリコン系が48年800トン、52年1,675トン、ウレタン系が48年1,462トン、52年2,500トンと弾性3基材が大きく伸びている。このほかアクリル、ブチルなども10%~30%伸びている。

ただし、これらの販売推定量の数字はメーカー数が多く、用途区分も一部でははっきりしないものがあり、必ずしも100%完全なものとはいえないが、大筋の流れをつかむ資料としては貴重なものであるといえる。



図一 1 建築着工面積 (総床面積) (建築統計年報より)

表一 2 建築着工統計 (建築統計年報より)

月 間 年 間	総 数 床面積	用 途 別 床 面 積							
		居住専用	居住産業 併 用	農林水産 業 用	鉱工業用	商業サー ビス業用	公益事業 用	公務文教 用	そ の 他
47 (対前年比)	242,309 (122.5)	116,643 (124.5)	23,807 (130.2)	5,700 (120.2)	31,000 (112.1)	41,266 (127.4)	5,273 (106.7)	18,434 (116.6)	185 (91.5)
48 (対前年比)	281,751 (116.3)	132,804 (113.9)	28,262 (118.7)	6,558 (115.1)	42,997 (138.7)	44,745 (108.4)	5,878 (111.5)	20,324 (110.3)	183 (98.9)
49 (対前年比)	198,557 (70.5)	102,807 (77.4)	15,695 (55.5)	6,505 (99.2)	27,501 (64.0)	24,259 (54.2)	4,768 (81.1)	16,840 (82.9)	182 (99.5)
50 (対前年比)	196,292 (98.9)	106,538 (103.6)	18,374 (117.1)	6,596 (101.4)	18,800 (68.4)	25,108 (103.5)	3,851 (80.8)	16,904 (100.4)	121 (66.5)
51 (対前年比)	215,474 (109.8)	117,171 (110.0)	21,300 (115.9)	7,976 (120.9)	19,975 (106.3)	28,119 (112.0)	4,176 (108.4)	16,665 (98.6)	91 (75.2)
52 / 1 (対前年同月比)	15,723 (109.3)	8,944 (110.5)	1,438 (107.0)	549 (125.3)	1,357 (104.6)	2,051 (100.7)	261 (102.0)	1,123 (121.7)	2 (100)
2 (対前年同月比)	14,655 (98.9)	8,029 (99.7)	1,614 (107.9)	622 (104.7)	1,228 (85.5)	1,806 (95.3)	329 (111.1)	965 (92.9)	2 (66.7)
3 (対前年同月比)	17,276 (102.8)	9,241 (98.3)	2,440 (133.5)	633 (96.2)	1,406 (89.6)	2,218 (106.0)	367 (116.5)	967 (103.6)	5 (41.7)
4 (対前年同月比)	19,682 (108.1)	11,729 (112.6)	2,096 (105.4)	691 (100)	1,418 (88.1)	2,527 (114.1)	295 (74.3)	916 (104.0)	10 (166.7)
5 (対前年同月比)	17,353 (102.0)	9,309 (99.6)	1,945 (101.9)	675 (107.5)	1,525 (91.6)	2,414 (107.8)	393 (129.2)	1,087 (120.9)	5 (55.6)
6 (対前年同月比)	18,491 (96.4)	9,264 (86.5)	1,983 (98.2)	841 (128.8)	1,578 (91.2)	2,907 (116.8)	381 (106.4)	1,529 (126.4)	9 (56.3)
7 (対前年同月比)	20,737 (92.0)	11,134 (86.8)	1,978 (93.2)	843 (108.5)	1,539 (75.4)	2,587 (97.9)	415 (112.5)	2,229 (127.9)	11 (73.3)
8 (対前年同月比)	21,483 (106.8)	11,776 (109.7)	2,018 (104.1)	806 (107.8)	1,464 (86.0)	2,376 (95.1)	385 (108.8)	2,639 (123.3)	20 (400)
9 (対前年同月比)	18,234 (99.7)	9,333 (103.6)	1,910 (112.7)	817 (110.6)	1,226 (70.9)	2,188 (82.5)	369 (100.5)	2,382 (114.7)	10 (76.9)

不況下でカーテンウォール、サッシ、ガラス業界が低迷しているにもかかわらず、これら弾性系シーリング材が伸びをみせたことはまず単位当り使用量の増加が原因としてあげられ、その他に新需要の増加などがあげられる。新需要の中では大工、左官、板金業者の使用する小物シーリング材や、DIYブームにのっての一般家庭用シーリング材の量が無視できない存在となりつつある。

総体的に昭和53年のシーリング材需要量はここ2~3年の需要ベースから判断すると漸増の傾向にあると思われるが、シーリング業界内部では石油ショック以後の不況をまともに受けて、建築物件の減少と原料費の高騰、人件費高、メーカーの乱立などにより、単価の大幅な値崩れを見せており、健全な発展のためには大きな問題をかかえているといえる。

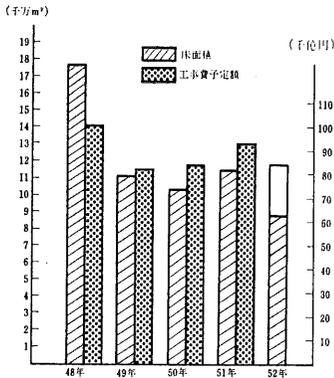
1. 建築着工の動き

図一1に示すようにわが国の建築着工面積は経済の高度成長の波にのって昭和48年石油ショックまではきわめて順調な伸びを見せてきた。しかし49年には前年比29%減と大きく落ち込み、50年も1%減となった。51年に入ってようやく2億1,547万m²と持ち直したものの48年の

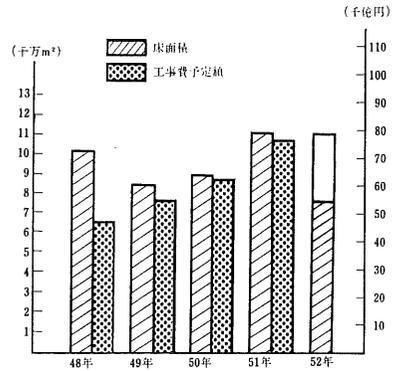
水準（2億8,175万㎡）にはまだ戻っていない。52年は現時点で発表されている月別の数字によると前年同月比でほぼ横ばいの状態が続いている。

またこのうち、シーリング材使用量に大きく関係する不燃建築物だけをとりあげると48年の1億7,907万㎡（前年比20.6%増）をピークにして49年が1億1,151万㎡（同37.8%減）50年が1億438万㎡（同6.4%減）と全建築着工量の落ち込み率よりひどくなっている。51年になって1億1,504万㎡（同10.2%増）とやや持ち直したものの昭和48年の数字にはほど遠いものとなっている。

全建築物の中での不燃建築物の割合をみると、昭和40年に5.1%であったのが年々高まり昭和48年には63.6%とピークになった。しかしその後は49年56.2%、50年53.2%、51年53.4%となっており全建築物の落ち込みの中でさらにきびしい数字となっている。逆に木造建築の割合は増加している。52年に入っても現在までに集計されている数字ではほぼ前年並みとなっており急激な回復は望めない。円高による新たな経済危機が叫ばれている時に53年の動向は決して楽観できる状態ではないといえる。

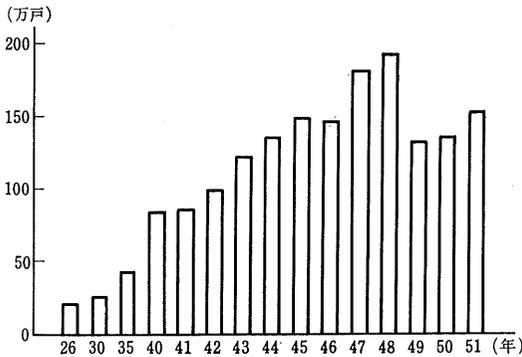


図一 2 不燃建築着工統計 (建築統計年報より)
(52年は9月までが実績、以後白部分は推定)



図一 3 木造建築着工統計 (建築統計年報より)
(52年は9月までが実績、以後白部分は推定)

公 共	建 築 主 別 床 面 積			構 造 別 床 面 積							
	民 間			木 造	不燃建築 物小計	不 燃 建 築			燃 築 物		そ の 他
	会 社 ・ 法 人	個 人	木 造			鉄 骨 ・ 鉄 筋 コンクリート	鉄 骨 造	鉄 骨 造	コンクリート ブロック造		
32,656 (119.0)	92,257 (128.2)	117,396 (119.4)	93,831 (117.0)	148,478 (126.3)	23,046 (151.5)	55,893 (125.2)	66,233 (121.1)	2,341 (106.7)	965 (120.3)		
29,866 (91.5)	119,207 (129.2)	132,678 (113.0)	102,681 (109.4)	179,069 (120.6)	29,491 (128.0)	62,726 (112.2)	84,147 (127.0)	2,373 (101.4)	332 (34.4)		
26,011 (87.1)	67,764 (56.8)	104,781 (79.0)	87,047 (84.8)	111,509 (62.2)	12,096 (41.0)	38,652 (61.6)	58,804 (69.9)	1,776 (74.8)	181 (54.5)		
26,219 (100.8)	57,755 (85.2)	112,318 (107.2)	91,916 (105.6)	104,376 (93.6)	11,087 (91.7)	37,624 (97.3)	53,749 (91.4)	1,607 (90.5)	309 (170.7)		
24,763 (94.4)	66,502 (115.1)	124,208 (110.6)	100,438 (109.3)	115,036 (110.2)	12,650 (114.1)	42,081 (111.8)	58,675 (109.2)	1,435 (89.3)	195 (63.1)		
1,947 (108.3)	5,064 (119.2)	8,712 (104.4)	6,993 (106.8)	8,730 (111.3)	1,568 (175.2)	3,161 (99.3)	3,902 (106.4)	83 (91.2)	16 (200.0)		
1,606 (87.6)	4,706 (108.1)	8,343 (96.7)	6,652 (97.4)	8,004 (100.3)	1,123 (140.7)	2,966 (97.8)	3,816 (94.3)	79 (84.0)	20 (333.3)		
1,730 (105.2)	5,784 (119.6)	9,763 (94.6)	7,907 (94.2)	9,369 (111.4)	1,840 (184.9)	3,118 (106.4)	4,279 (97.7)	68 (76.4)	64 (400.0)		
1,571 (96.0)	5,605 (113.1)	12,506 (107.7)	10,461 (110.9)	9,170 (104.5)	1,227 (127.4)	3,254 (110.7)	4,567 (96.0)	101 (106.3)	21 (105.0)		
1,560 (98.9)	5,451 (108.3)	10,341 (99.5)	8,344 (101.7)	9,009 (102.4)	876 (91.9)	3,227 (108.9)	4,784 (100.1)	75 (85.2)	47 (276.5)		
2,082 (118.4)	6,369 (114.2)	10,041 (84.7)	8,083 (84.5)	10,409 (108.1)	1,303 (125.4)	3,665 (116.8)	5,343 (100.7)	88 (72.7)	10 (45.5)		
3,069 (135.3)	6,309 (99.9)	11,359 (81.5)	9,490 (81.9)	11,248 (102.8)	1,353 (130.5)	4,517 (122.8)	5,191 (86.5)	174 (89.2)	13 (44.8)		
3,310 (121.8)	6,373 (105.5)	11,800 (103.9)	10,049 (109.3)	11,434 (104.9)	1,284 (139.0)	4,759 (107.7)	5,213 (96.6)	167 (101.8)	11 (61.1)		
3,257 (125.2)	5,869 (91.6)	9,108 (98.2)	7,441 (100.2)	10,793 (99.4)	1,369 (116.7)	4,581 (108.7)	4,700 (88.3)	123 (93.9)	20 (142.9)		



図一四 住宅建設戸数 (建築統計年報より)

住宅建設に目を向けてみると、図一四に示すように昭和48年(190万戸)までは急激な上昇カーブをたどっており、49年、50年が48年比30%減と大きく落ち込んでいる。51年になって152万戸(前年比12.4%増)とやや持ち直し、52年はほぼ横ばいとなっている。

昭和41年～45年の第一期住宅建設5カ年計画では、計画戸数670万戸に対して計画達成率100.6%の674万戸の実績であり、昭和46年～50年の第2期住宅建設5カ年計画では計画戸数958万戸に対して達成率86.6%の829万戸となっている。これに続いて昭和51年度から始まった第3期住宅建設5カ年計画では昭和55年度までに「適正な規模、構造、設備を備えた860万戸の住宅の建設を図る」とされており、このうち350万戸が公的資金による住宅となっている。

また「良質で安価な住宅を」というニーズに応じて建設、通産両省は昭和55年度からの本格供給を目途として新住宅システム(ハウス55)開発プロジェクトを設置、すでに第一段階のハウス55プランの選定を終り、技術的な研究段階に入っている。この計画が予定通り進めば今後の住宅建設に大きなプラスを生むことが期待されており多大な注目を集めている。

このほかに住宅生産近代化の推進策として政府は工業化住宅性能認定制度を定め、プレハブ住宅の供給体制、価格、性能を認定することにしており、防水性能もその適否が公的機関で判断されることになっている。

政府は長びく不況に対する総合経済対策の大きな柱として52年9月に住宅金融公庫の貸し付けワク10万戸追加を行なった。この結果、今年度の公庫融資ワクは合計34

万4,000戸に達することになり、公庫融資ワクとしては過去最高の量になっている。この政策が眠っている住宅建設の潜在需要をどの程度掘りおこすかどうかは微妙なところであるが、昭和53年に向けてわずかながらもその効果が上がることを期待したいものである。

2. カーテンウォールの動向

予想以上の景気の冷え込みはカーテンウォール業界に大きく影響し、昭和51年度は石油ショック時以上の落ち込みを示している。これは政府および経済界の安定成長という甘い見通しを大きく否定し、建築業界全体に強い不況観を浸透させている。建設省の建築物の着工統計をみると、総床面積は48年の2億8,000万㎡を境に49年1億9,800万㎡、50年1億9,600万㎡と落ち込んでおり、51年は2億1,500万㎡と持ち直している。しかしこれを官公庁、会社その他の法人の床面積の統計をみると、官公庁は48年2,900万㎡、49年2,600万㎡、50年2,600万㎡、51年2,400万㎡と横ばいの状態なのに対して、会社その他の法人は48年1億1,900万㎡、49年6,700万㎡、50年5,700万㎡、51年6,600万㎡と48年を境に大幅に落ち込み、その後低迷している。会社その他の法人にほとんどの発注を依存するカーテンウォール工法としては、物件数の減少と物件の低層化がかなり進んでいるように思われる。

また、石油ショック以来コストの上昇に伴いメタルカーテンウォールに比べて比較的成本の低いコンクリートカーテンウォールが歓迎される傾向にある。

1) メタルカーテンウォール

カーテンウォール業界では、まずメタル部門を見てみると、51年度には49年、50年には見られなかった現象が起っている。メタルカーテンウォール建築の総面積および総工費は表一1が示すように景気の低調に比例して減少しているのに対して、物件数のみが48年以来初めて前年度比の12%増加していることがわかる。このことはカーテンウォール建築の低層化が著しく進んでいることを示している。日本カーテンウォール工業会の調べでは、50年度はカーテンウォール建築数8～10階および11～15階が全体の約8割を占めていたのに対して、51年度にお

いては1～3階および4～6階が全体の約3割までを占めるに至っている。この低層化の傾向は今後も続くものと予想される。しかしながら物件数の回復とは対象的に総面積の落ち込みが予想以上に厳しく、49年度比で62%減、50年度比で40%減と急カーブを描いている。総工費の落ち込みがゆるやかなカーブを示しているのは、年々上昇する資材や人件費の比率が高いためである。メタルカーテンウォール業界では51年度は悪くても前年度比10～20%減、良くても横ばいという厳しい予想をたてている。

しかしながらこの低迷するメタルカーテンウォールの中で近年注目を浴びているのがガラスカーテンウォールである。カーテンウォール工法の特徴の一つに美観があり、また発注側もこの美観を要求する傾向が強くなり、年々ガラスカーテンウォールは増加しており、約3割の割合で延びている。ガラスカーテンウォールには一成分型のシリコン系シーリング材が使用されており、同工法の延びとともに一成分型シリコンシーリング材の延びも期待できる。

2) コンクリートカーテンウォール

次に、コンクリートカーテンウォールもメタルカーテンウォールと同じように48年度を境に表-2の示すように年々減少(50年度は前年度比約4%増)の傾向にある。表-2はコンクリートカーテンウォール工事の総工費(コンクリートカーテンウォール工業会加入会社26社調査)だけを掲げているが、資材や人件費の値上りを考慮すると48年度を100とした場合の49年、50年の減少率以上の物件数、総面積において減少が考えられ、メタルカーテンウォール同様かなり厳しい現状を示している。51年度はまだ統計がとれていないものの同工業会の予想では50年度比の2～3割の減少とみている。

メタルおよびコンクリートカーテンウォール業界ではこのような低成長下に対処する方法として、以前からレディーメードカーテンウォールによる需要開拓を進めているものの、施主・設計者の要求が個性を求める傾向が強くなり、画一化を嫌い依然オーダーが大勢を占めている。そのため技術研究に力を入れコストダウンをはかり、レディーメードの種類をふやすなどして対処しているのが現状である。

表-3 過去4年間のメタルカーテンウォール建築の統計

年度	48年	49年	50年	51年
物件数	990件 (177)	750件 (134)	560件 (100)	625件 (112)
総面積	80万平方メートル (160)	70万平方メートル (140)	50万平方メートル (100)	30万平方メートル (60)
総工費	185億円 (142)	170億円 (131)	130億円 (100)	110億円 (85)

()内の数字は50年度を100とした場合
(社)日本カーテンウォール工業会調べ

表-4 過去3年間のコンクリートカーテンウォール建築の統計(51年度は未調査)

年度	48年	49年	50年
総工費	11,203,000 (113)	9,524,000 (96)	9,873,000 (100)

()内の数字は50年度を100とした場合 (単位は千円)
コンクリートカーテンウォール工業会調べ

カーテンウォール工事に使用される弾性シーリング材は、ポリサルファイド系シーリング材が圧倒的に使用されてきた。使用量は48年度のポリサルファイド系シーリング材の建築用総販売量の約6割を占めていたと推定されるが、総販売量の確実な伸び(表-3)に対して前記のようにカーテンウォール工事量の減少に伴い、49年度は4割強、50年度は3割弱(それぞれ割合は推定)と年々減少し、51年度は2割弱の割合を占めると思われる。また新しい動きとしてここ数年来、二成分型シリコン系シーリング材がカーテンウォール工法に使用されている傾向にあり、徐々にではあるが同工法における使用量を伸ばしている。

またカーテンウォールのコスト上昇の影響が当然シーリング工事にもおよんできているが、カーテンウォールにおいてはシーリング材が命ともいえるものであるため低価格のもの、つまり材質が落ちるものを使用することができず、施工業者にそのしわ寄せがきているのが実状である。

なお昭和50年10月 JIS A 5757が制定されて満2年が過ぎ、カーテンウォール業界では検討を重ねているが、規格としてはまだメーカーが個々に採用基準にとり入れ

たり、同 JIS の規格を参考に社内基準を制定しているといった状態にあり、カーテンウォール業界全体としては依然同 JIS の統一した採用基準を採用するかどうか検討にあたっている。しかしながら同 JIS の P R 不足の声もあり、一層の P R が要望されている。

3. サッシの動向

石油化学産業の発達に伴い、軽くて耐久性が高いアルミサッシが近年急速に普及し、新設住宅建具金物の90%以上を占めるようになった。サッシ合計年別出荷推移（図—5）を見ると、昭和46年には23万トン、48年には47万トンと大幅な伸びを見せていたが、翌49年には石油ショックの影響を受け35万トンと25%の落ち込みを見せ、順風満帆に伸びてきたサッシ業界を震かんさせ、乱売競争に明け暮れた時期である。そして50~51年と再び上昇カーブを描き、51年には48年に次ぐ47万558トンを記録した。

この出荷量の内訳は（図—6 参照）木造用が大半で、34万8,712トン、ビル規格が4万6,248トン、公共住宅用が7,914トン、オーダーが6万7,684トンとなっていて、ビル規格とオーダーメイドはサッシ全体の出荷動向と同じような動きを示すが、公共住宅用は49年に8,529トンに落ち込んでから回復の兆しを見せていない。

52年の上半期のサッシ月別出荷推移を見ると、月を追うごとに徐々に落ち込み、52年8月には前年同月比で10%程度の落ち込みが出た。

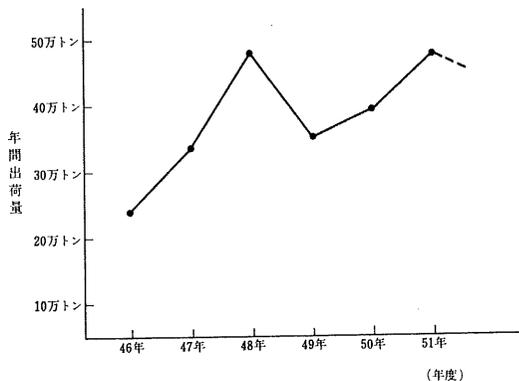
51年のサッシ全体出荷量が18%の伸びを見せたのは、新設住宅、増改築での伸びにささえられたものと思われるが、前記の月別推移を見ると、52年下半期に大きな望みは持てないのが現状で、公共住宅用、ならびに木造用にわずかな期待をいただいている。

アルミサッシの水密、気密性を保持するためガスケットやシーリング材が用いられるが、建築ガスケット協会調べによると昭和51年度のグレージングチャンネルは、45万6,150トンのアルミサッシ出荷量に対して2万8,338トンが使用されている。これの内訳は木造用が全体の約73%にあたる2万890トン、ビル規格が2,872トン、公共住宅が477トン、オーダーが4,098トンとなっている。こ

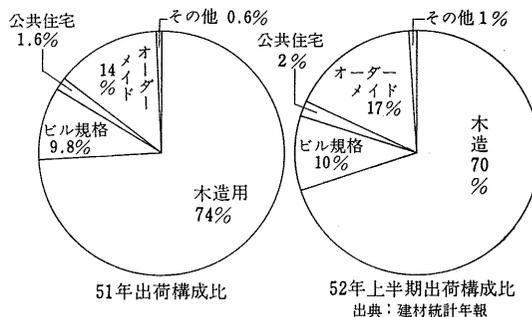
れに対してサッシの出荷量から概略換算すると、シーリング材の出荷量は、ビル規格用のサッシ廻りで約462万m、ガラス廻りで92万m、公共住宅のサッシ廻りが79万m、オーダーメイドでサッシ廻り、ガラス廻りともに531万mくらいと推定され、オーダーメイドに関してサッシ廻り、ガラス廻りが同数量用いられているのは、高級品として店舗などへの意匠的な用い方が多いためのものと思われる。

上記の数量から、サッシに用いられるグレージングチャンネルの使用量（木造用を除く）を100%とすると、シーリング材の使用量（ガラス廻り）は約5%くらいと推定され、またガラス廻りにサッシ廻りを加えた使用量でも13.6%くらいと思われる。

サッシのガラス廻りにはポリサルファイド系が約6割シリコン系が4割程度使用されているのは周知の通りである。サッシと躯体との取り合いに関しては、今まで



図—5 サッシ合計年別出荷推移 (出典：建材統計年報)



図—6 サッシ出荷量の内訳 (出典：建材統計年報)

低層階の建物を中心として油性コーキング材が用いられてきたが、ここへきて設計サイドの材料指定では弾性シーリング材がかなり採用されだしている。

シーリング材の技術的な問題点としては、サッシのカラー化に伴うシーリング材への要求が従来の性能オンリーだったものが、性能と同時に美観の点でもシビアな要求が出始めてきていることがあげられる。こうした動きの中でシーリング材の色統一を計るため、当工業会では「色見本票」を作成し、サッシのカラー化に対処しているが性能要求の点でシーリング材の剝離や耐候性などの技術的な問題点があり早急な改善策が討議されているようだ。

設計サイドでは、こうしたシーリング材の技術的な問題を重視し、安価で工場管理のできるカラー成型品によるガスケット工法の施工を試みつつある。シーリング材の技術的な問題点が改善されない限り、今後ガスケット工法がカラーサッシの水密気密材料としてシーリング材にとって変わることも予想される。

51年のサッシ出荷量は先を越した仮需も含め、新設住宅などでの着実な伸びに支えられメーカー各社とも強気の見通しを立てていたが、52年に入りたて続けの出荷高落ち込みにより、現在では今期末までたて直しをはかったとしても約10%くらいの落ち込みは予想され、53年以降もこの傾向は続くとして、生産高も月産4万トンペースを考え、出荷量も3万2,000～3万5,000トンを見込んでいる。今後、サッシ業界においては景気が好転する明るい材料もなく、こうした横ばい状態が続くものと予想される。

4. 板ガラスの動向

新規建築需要の低迷により、普通板、変り板ガラスの需要は前年比ほぼ保合になっている。これに代ってみがき板ガラスの需要は、広く普及した強化ガラスドア向けと、輸出を軸とする自動車の生産増（52年8月末の四輪車は前年比9%増）および地方、都市における古いビルの開口部改装（スチールサッシをアルミサッシにするなど）用需要などに支えられて大幅に伸びている（52年8月末で約34%増）。

期待の住宅建築は住宅金融公庫の大幅な貸出増という

政策が打出されたものの、建築着工とガラス施工のタイムラグを考えると52年（暦年）の需要増要因としての効果はほとんど期待できない。東京は別として地方大都市の戦後早々の商業ビルには開口部のみの部分改装というケースが急速に進み、また、住宅および農家の小改造、小増築も盛んであり、これらに向けての需要増は今後無視できないものがある。さらに数年先を考えると省エネルギー政策の結果として複層ガラス、二重窓の使用が法制化される可能性もあるが、この間は大きな伸びは望めそうにない。

外国での法制化の例をあげれば、たとえばカナダでは1978年までにすべての新築家屋は複層ガラスの使用を要求されているし、デンマークでは1979年以後は三複層でなければ建物の床面積の15%以上は許されなくなるという。アメリカでも州別に規制がなされており、カリフォルニアでは複層ガラスを使用するよう指導されており、22の州では複層ガラスを使用している所有者に対する減税が提案されている。

ガラス、特に建築用ガラスには水密、気密を目的とした定型ガスケットタイプ、不定型シーリング材などがある。定型にはグレージングチャンネル、ビード、不定型にはポリサルファイド系、シリコン系などがあり、ポ

表—6 板ガラスの需要総括表

(単位：1,000実箱) (単位：1,000並換箱)

年度 昭和	種類	みがき板ガラス		普通板・ 変り板ガラス	
		数量	前年比	数量	前年比
42年	計	1,235.6	130.9	18,202	115.1
43年	"	1,320.0	106.8	21,220	116.6
44年	"	1,610.4	122.1	23,391	110.2
45年	"	1,874.0	116.4	25,079	107.2
46年	"	2,081.6	111.1	24,827	99.0
47年	"	2,537	121.9	25,990	104.7
48年	"	3,385	133.4	29,887	115.0
49年	"	2,970	87.8	26,213	87.7
50年	"	2,966	99.9	26,205	100.0
51年	"	3,945	133.0	24,004	91.6
51年	8月	360	151.4	1,875	102.6
	9月	410	144.7	2,259	101.9
	10月	414	138.8	2,117	98.7
	11月	406	142.7	2,278	83.3
	12月	408	147.3	2,426	73.2
52年	1月	353	145.7	1,613	106.9
	2月	394	143.5	1,779	110.5
	3月	407	115.8	2,448	118.1
	4月	362	156.8	1,942	110.3
	5月	365	144.6	1,996	100.0
	6月	396	142.7	2,200	100.1
	7月	414	149.2	1,834	83.5
	8月	399	110.8	1,760	93.9
	9月	455	110.8	1,820	80.6

リサルファイド系のシーリング材が昭和51年までは70%ないし75%を占めていたが、52年後半になるとシリコン系2成分型が伸び、比率もポリサルファイド系60%に対しシリコン系40%と伸びてきている。ガラス工事に関連するシーリング材施工としては、全硝連が中心となり、ガラス技能検定の一環として、教育および検定のプログラムが組まれ実施されている。

ガラスの需要が伸びればシーリング材もそれに伴い伸びるが、ガラス業界が前述のように普通板、変り板ガラスは、前年比ほぼ保合であるが、みがき板ガラスは大幅に伸び、これに伴いシーリング材も伸びている。

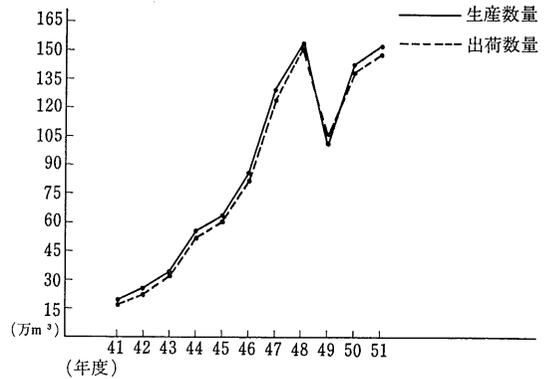
全般的にガラスの出荷に対しシーリング材はその4倍～6倍の需要があり、51年度より急速に伸びる材料も今はなく、前年をやや上回る程度と思われシーリング材もガラス需要に比例する伸びであろう。

建物の省エネルギーを考える場合、その開口部の壁部の再検討が重要である。省エネルギーをめざした建築用複層ガラスは、省エネルギー化をはかる窓ガラスで断熱効果の高い複層ガラスを採用する機運にあり、わが国でもすでに北海道に二重窓を設ける法律（北海道防寒住宅建築特振法）があるが、近く複層ガラスにより断熱、防音の効果を高め、エネルギー省力化を図る法も実現する運びになっている。今後、複層ガラスの用途が増大すれば、シーリング材として特に弾力性があり、接着力が良く、剝離しない、耐久性の良いものが伸長されるものと思われる。

5. ALC板の動向

ALC板（Autoclaved Lightweight Concrete）の歴史はかなり古く、原始的な形のものはずでローマ時代、寺院の壁やドームに軽石の角材が埋め込まれ、軽量化がはかられていた。その後、1820年代には高炉スラグ、1890年代には石炭ガラなどが利用され、1918年には粘土や頁岩を焼成膨張させた、人工軽骨材を使用する軽量コンクリートが開発された。

45年ほど前、世界で初めてスウェーデンで工業生産化され、日本でも1962年ころからその技術が導入され、現在4種類のALC板が生産されている。



図一七 ALC生産・出荷統計 (ALC協会調べ)

軽量性、強度、耐火性、断熱性、遮音性など諸特性を持つALC板は年々需要が高まり、昭和41年15万9000m³（159万m²）、同42年22万m³からオイルショックの起こる同48年155万5000m³まで、対前年比20～50%の高率の成長を見せ、今までスレート、ラスモルタルなどを使用していたところをALC板に置き換えるなど、需要の拡大には目を見はるものがある。昭和48年末のオイルショック以後はALC板も例外なく、同49年には前年比65.8%の102万3,000m³と生産が落ち込んだが、翌50年には、前年比138.9%の142万2,000m³、51年には同106.8%の151万9,000m³と他産業、他生産に比べて回復は非常に早く店舗、営業住宅、一般住宅など小型物件を核として今後とも急激ではないにしろ、徐々に需要の拡大がはかられていくことが予想される。

ALC板での施工にあたって切り離せないのがシーリング材であろう。日本でALC板が出始めた昭和38～9年ころはひも状ブチルゴムシーラントが使われていたが、耐候性に問題があり、次いで42～3年ころ、ブチルとアクリルの共重合品が使われだしたが、これもまた劣性（ブチル）の性能が表面に表われる、ということで44～5年ころから水性アクリルシーリング材が登場した。ALC板のような多孔質の版材には強度的な関りや耐候性から、現在では使用されるシーリング材の90%以上がこの水性アクリルシーリング材で、同シーリング材の総需要量のうちALC板用は85～90%と推定され、その生産量はALC板の出荷量の増加に比例して伸びている。

前述したように、ALC板には強度や価格などの関係

から水性アクリル系が現在多く用いられている。またジョイントの動きの大きい用途にはウレタン、ポリサルファイドあるいはロー・モジュラスの二成分型シリコーンシーリング材が使用されている。

なお、ALC協会発行「ALC仕上げ読本」によるALC用シーリング材の選定基準を下記に示す。

- (A) ALC標準仕様は、アクリルゴム系シーリング材とし、その性能はJIS A5757のコンクリート用シーリング材2級以上のものとする。
- (B) 層間変位を考慮した工法における可動目地などには、低モジュラス（150%モジュラス3kg/cm²以下）のシーリング材を選び、その性能はJIS A5757コンクリート用シーリング材1級のものとする。

1972年3月1日、ALCのJISが制定されてから、ALC板の品質向上、生産の合理化がなされ、今後、市街地における、特に施工期間の短縮が要求される店舗などのように、小型物件を中心に幅広い需要が見込まれる。

また韓国や中近東などの海外市場についても、運賃などコスト面の問題は残るが、総体的に見ると53年度も順調に増加の道を歩むものと予想される。

6. プレハブ住宅建設の動向

昭和40年代前半から建築の好況とともに伸びてきたプ

レハブ住宅建設も昭和48年の石油ショックを境にして伸び悩みをみせ、49年が前年比19.6%減、50年が前年比8.4%減と落ち込んだ。この動きは51年度も変わらず、同年の建設戸数は15万2,324戸で前年比7.1%減となった。

中でも減少の最も大きかったのはコンクリート系中高層住宅で前年度比38.4%減（3万1,523戸）となっている。コンクリート系中高層住宅は公共依存度の高いものであり公団、公営住宅の建設戸数大幅ダウンの影響をまともに受けたといえる。これに対して一戸建住宅のほうは引き続きマイナスではあるものの（8万2,811戸）その減少率は9%であり、50年度に比べるとわずかながら持ち直す傾向をみせている。また全体に落ち込んだ中において低層集合住宅の大きな伸びが目につく。これは前年度比64%増（3万7,990戸）という数字となっている。さらにユニット住宅も前年度比25%（8,865戸）の伸びを見せており、過去最高であった49年度（8,596戸）を上回るまでに回復した。

さらに細かく見ていくと、一戸建の中でも木質系が15%、鉄骨系が9%それぞれ落ち込んだのに対して、コンクリート系は32%増（4,730戸）と伸びている。低層共同建では逆に木質系、鉄骨系が163.5%、83.7%それぞれ伸びたのに対してコンクリート系が27.2%減少した。中高層共同建ではもともと数の少なかった鉄骨系とRPC工法が3倍近く伸びたが、PC工法の32.2%およびH

表一6 昭和51年度プレハブ住宅販売実績（系統別、建て方別）（ ）内ユニット住宅戸数 単位：戸
（プレハブ建築協会調べ）

項 地 域	〈1 戸 建〉						〈共同建・低層連続〉						〈共同建・中高層〉						共同建 計		一戸建 共同建計							
	構 造 別			構 造 別			構 造 別			構 造 別			共同建計		一戸建計													
	木質系	比率	鉄骨系	比率	コンクリート系	比率	計	比率	木質系	比率	鉄骨系	比率	コンクリート系	比率	計	比率	鉄骨系	比率					コンクリート系	比率	計	比率	共同建計	比率
北海道	2,374	10.8	724	1.3	33	0.7	3,131	3.8	282	4.2	167	0.6			449	1.2			8	0.0			8	0.0	457	0.7	3,588	2.3
東北	1,645	7.5	2,269	4.0	104	2.2	4,018	4.8	600	8.9	1,499	5.6	950	21.0	3,049	8.0			404	1.3	404	1.3	3,453	5.0	7,471	4.9		
関東	6,970	31.9	15,793	28.1	1,201	25.4	23,964	28.9	4,129	61.5	12,854	48.1	1,012	22.3	17,995	47.4	13	4.6	14,305	45.8	14,318	45.4	32,313	46.5	56,277	37.7		
中部	3,547	16.2	8,944	15.9	1,146	24.2	13,637	16.5	468	7.0	2,564	9.6	844	18.6	3,876	10.2	55	19.5	3,094	9.9	3,149	10.0	7,025	10.1	20,662	13.3		
近畿	3,428	15.7	13,254	23.6	1,094	23.1	17,776	21.5	413	6.2	5,236	19.6	1,090	24.1	6,739	17.7	38	13.5	9,317	29.9	9,355	29.7	16,094	23.1	33,870	22.3		
中国	1,707	7.8	7,127	12.7	502	10.6	9,336	11.3	186	2.8	1,304	4.9	159	3.5	1,649	4.3	49	17.4	778	2.5	827	2.6	2,476	3.6	11,812	7.5		
四国	615	2.8	2,008	3.6	145	3.1	2,768	3.3	36	0.5	291	1.1	6	6.0	333	0.9	127	45.0	136	0.4	263	0.8	596	0.8	3,364	2.0		
九州	1,593	7.3	6,083	10.8	505	10.7	8,181	9.9	598	8.9	2,830	10.6	472	10.4	3,900	10.3			3,199	10.2	3,199	10.2	7,099	10.2	15,280	10.0		
合 計	21,879	100%	56,202	100%	4,730	100%	82,811	100%	6,712	100%	26,745	100%	4,533	100%	37,990	100%	282	100%	31,241	100%	31,523	100%	69,513	100%	152,324	100%		

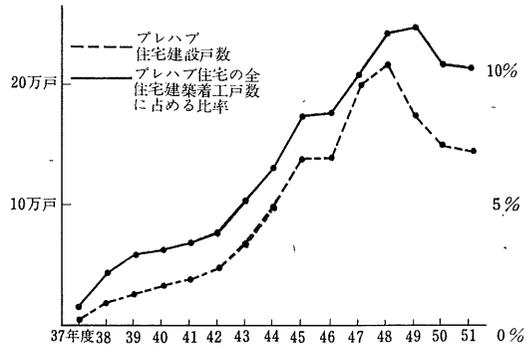
プレハブ協会調べ

PC工法の64.6%減が大きく響いている。

このように全体的に不調なプレハブ住宅のなかにあるもののコンクリート系中高層の大幅な減少と一戸建住宅の持ち直し傾向、そして低層集合住宅の大幅な伸びというバラツキをみせているのがプレハブ建設業界の現状である。

こういったプレハブ住宅の動向によってシーリング材の出荷量も当然左右されるわけであり、現実に昭和48年のプレハブ住宅建設戸数のピーク時（21万8,600戸）まではシーリング材も順調な伸びをみせてきた。しかし近年の建築構法の変化および一戸あたりのスペースの拡大などにより、必ずしもまったく同じカーブをたどるわけではなく、プレハブ住宅の減少傾向よりもややゆるいものとなっているようである。たとえばコンクリート系中層住宅一棟（SPH・30戸、2DK）でのシーリング材使用量が0.8～1トンであったのに対し、近年の居住空間の向上化にともない3DK、3LDK化されると10%近い量的な伸びとなる。また一戸建住宅の中でもシーリング材使用量の多いコンクリート系だけは伸びを見せているなど好材料もある。

大ざっぱな計算ではあるがプレハブ住宅一戸あたりのシーリング材使用量を試算してみると、鉄骨系一戸建プレハブが一戸あたり20kg平均として5万6,202戸(51年度)で1,124トン、コンクリート系一戸建が25kg×4,730戸



図一 8 プレハブ住宅15年の歩み (建築統計年報より)

(同)で118トン、中高層PCが27kg×27,600戸(同)で745トンとなり、これだけで1,987トンとなる。このうちシーリングの種類は二成分型ウレタン系が7割程度を占めている。残りはポリサルファイド系、一成分型ウレタン系、シリコン系、SBR系、油性系などとなっている。この数字は特にウレタン系にとって大きな意味を持ち、昭和51年を例にとってみると建築用総出荷量(2,160トン)の7割がプレハブ住宅関係であるということになり、プレハブ住宅の動向が大きく注目される。

昭和52年度に入ってからプレハブ住宅の販売戸数はまだ集計されていないが、新設の全住宅に占める現状のプレハブ化率(10%前後)から類推すると、全時点の推定で52年度の全住宅建設戸数がほぼ前年度並みの154万戸(見込み)になることから、プレハブ住宅もほぼ横ばい

表一 7 昭和51年度プレハブ住宅地域別販売実績 (プレハブ建築協会調べ)

一戸建	木質系	51年度	(51.4~9)	51年度	(51.10~52.3)	51年度計	対前年度比	参 考 (50年度)
		上半期	対前年同期比	下半期	対前年同期比			
		10,388 (386)	97.5% (102.1)	11,491 (365)	76.2% (62.6)	21,879 (751)	85.0% (78.1)	25,731 (961)
	鉄骨系	29,392 (3,679)	97.0 (143.2)	26,810 (3,223)	85.3 (93.6)	56,202 (6,902)	91.0 (114.8)	61,710 (6,009)
	コンクリート系	1,960	116.2	2,770	147.1	4,730	132.5	3,570
	小計	41,740 (4,065)	97.9 (137.9)	41,071 (3,588)	84.9 (89.1)	82,811 (7,653)	91.0 (109.7)	91,011 (6,970)
共 同 建	低層	3,232 (14)	907.9 (-)	3,480 (11)	158.8 (64.7)	6,712 (25)	263.5 (147.0)	2,547 (17)
	鉄骨系	11,848 (368)	227.9 (-)	14,897 (779)	159.1 (-)	26,745 (1,147)	183.7 (-)	14,557
	コンクリート系	969	47.1	3,564	92.0	4,533	72.8	5,932
	小計	16,049 (382)	210.9 (-)	21,941 (790)	142.2 (4,647.0)	37,990 (1,172)	163.9 (6,894.1)	23,036 (91)
中 高 層 建	鉄骨系	84	525.0 (150.0)	198 (16)	264.0 (21.3)	282 (40)	309.8 (43.9)	91 (91)
	PC工法	12,515	73.3	15,091	66.8	27,606	67.8	39,657
	PS工法	-	-	-	-	-	-	264
	HPC工法	1,762	36.7	1,765	34.2	3,527	35.4	9,956
	RPC工法	-	-	108	-	108	291.8	37
	小計	14,381 (24)	65.1 (150.0)	17,162 (16)	61.5 (21.3)	31,523 (40)	61.6 (43.9)	50,005 (91)
	共同建計	30,410 (4,06)	102.4 (2,537.5)	39,103 (806)	90.2 (876.0)	69,513 (1,212)	93.9 (1,122.2)	73,041 (108)
(A)	合 計	72,150 (4,471)	99.7 (150.9)	80,174 (4,394)	87.4 (106.7)	152,324 (8,865)	92.9 (125.2)	164,052 (7,078)
(B)	全着工新設住宅	808,386	112.5	722,089	101.8	1,530,475	107.1	1,429,000
	比 率 A/B	8.9%		11.1%		9.95%		11.5%

注) 全着工新設住宅は建設省着工統計による

と考えられる。

建設省の住宅建設5か年計画（第3期）第3年度にあたる昭和53年度は引き続き質の向上を配慮した公的住宅供給の促進に重点がおかれ、具体的には住宅規模の拡大、立地の改善などがはかれる予定である。また民間住宅建設の促進をはかるため住宅金融公庫の貸付戸数の拡大、貸付限度額の引き上げと償還期間の延長などを計画している。このような施策にもとづいて53年度は53万8,000戸の公的住宅建設を建設する予定である。なおこの内訳は公営住宅7万9,000戸、公庫住宅41万9,000戸、公団住宅4万戸となっている。

これにより53年度末での公的住宅の第3期5か年計画進捗率は公営住宅が50%、公庫住宅が60.8%、公団住宅が48.4%、全体で57.4%となる予定である。

民間の住宅建設では52年秋に行われた住宅金融公庫融資ワクの10万戸追加や住宅ローン金利の引き下げなど政府の必死の政策にもかかわらず、はっきりした回復の兆しをみせていない。

こうしたことからプレハブ住宅に関するかぎり見通しは決して明るいものではなく、53年もこの分野のシーリング材にとっては一進一退の状態が続くものと思われる。

7. 土木用シーリング材の動向

はじめに

土木建設工事は公共事業としての性格から景気に対しての顕著な需要動向は見られず、投資高に限れば年々着実な増加を見せているが、実質面では多少の落ち込みを見せているのが現状である。しかし、52年下半年からの景気対策では不況対策として公共投資へ力を注ぐ政府の意志が明らかで、すでに52年度上半期についてみても前年度を上回る着工実績である。現在のところ道路関係を中心に土木界は再び活況を呈し始めていることから今後の伸びは確実といえよう。このほど発表された「第8次道路整備5か年計画」の着手は53年度からであり、この計画の投資規模は7次計画の46%増である。また、53年度の建設省道路局・河川局、道路公団などの予算請求額は次のとおりで、緊縮財政の中スナリ決定をみると

いう楽観は許されぬが前年度よりの増加は情勢的にみて確実だろう。

土木関係のシーリング材として現在用いられているものは主としてアスファルト系で、その他にポリサルファイド系、シリコン系、ウレタン系、ブチル系などがある。これらの材料はシーリング材であるといっても、いわゆる建築用シーリング材とは強度、耐久性などの面で全く異質な性能が要求されているので、建築用シーリング材の土木用への直接の流用というのは全く考えられない。しかし、2成分型弾性シーリング材の特徴は接着性など非常に優れているので、以後、改質をはかれば需要面では有望な分野であろう。現段階ではポリサルファイド系、シリコン系、ウレタン系、ブチル系などのシーリング材は土木目地材としてはまだ開発段階、試験段階であるということが一般的な見方である。次に用途別の需要展望を行ってみたい。

道路目地材

一般道路ではここ1年の建設工事の95%以上がアスファルト舗装によるもので、コンクリート舗装は5%未満で傾向としては増加というより減少をたどっているのが現状である。コンクリート舗装が用いられるのは特殊な場合であり、気候の差、養生期間の問題、適当な原材料の購入不可能などの事情で採用されるケースが多く、一般的にはほとんどがアスファルト舗装となっている。また、建設大臣が管理する建設省直轄の国道の修理実績は総補修面積1,560万㎡のうち、コンクリート舗装とアスファルト舗装の比率が1.5対8.5で、アスファルト舗装道は今後もより多くなると思われる。

いわゆる目地材が道路建設で要求されるのはコンクリート舗装道の場合で、傾向としてはアスファルト道路が主流であるが、前述した特殊な場合のほかインターチェンジやバイパスなど比率としては少ないがコンクリート舗装の要求される場所も数多い。高速道路、有料道路についてはコンクリート舗装率は2%ほどで、これらの採用場所は前述のインターチェンジ付近や油漏れの多発する料金所、重量車の通行が頻繁で強度的な要求を持つところ、あるいは施工コストで（ジャリ、その他の資材が手に入れにくく）アスファルト舗装のほうが高くつく

いったところに用いられている。また、空港滑走路など油が多いえにジェット噴射による耐熱性をも要求される用途にはコンクリート舗装がなされ、ポリサルファイド系が主に用いられている。さらに耐熱性、耐候性の点でシリコン系の採用も検討されている。また道路用としては51年度、東北自動車道においてウレタン系およびポリサルファイド系シーリング材が試用されたが、耐久性の点で改良が求められている。

橋梁目地材

コンクリート造の橋梁では弾性系シーリング材が多用されている。最近コンクリート造の橋梁も比較的小規模の（歩道橋から2連線程度）ものがあり、これらには挙動に対する追随性という点からもアスファルト系よりも弾性系シーリング材が用いられているようだ。大規模橋梁に関しては従来のエポキシ樹脂とゴム系アスファルトがほとんどである。

共同溝シーリング材

現在、施工中である筑波学園都市の共同溝ではマッシュアップタイプの成形シーリング材が主として用いられている。試験段階ではあるが注目されているものにブタジエンゴム系のシーリング材があり、今後に期待されている。当学園都市は各省庁の仕様によっており、例えば建設省、文部省、通産省などである。電々公社、東京ガスなどが共同溝に用いている仕様も各省庁のもので、全体的にみるとウレタン系のものが指定されている場合もあるが、無溶剤タイプでグメがなく、歩どまりが良好なものが要求されている。こういった点では成形タイプのシーリング材が期待できると言えよう。これらの材料には止水的な要求がおかれているというのも1つの条件である。当地の共同溝では1ヶ所が7ブロックに分けられ、1ブロックが40mでその目地寸法は25×30cmであり大量な目地材が用いられている。

鉄道高架橋シーリング材

最近の土木関係シーリング材の中でもその伸び率が比較的高いのが国鉄をはじめとする鉄道高架橋関係のシーリング材である。特に追いつ込みの建設に入っている東北新幹線では、寒冷地であるための耐寒性と、雪害防止のための撒水に対する耐水性において、高性能な弾性シ

ーリング材が要求され、かなりの量が使用されている。今後とも東北のほか上越、信越新幹線の建設が進むにしたがってウレタン、シリコン、ポリサルファイドなど高性能なシーリング材の使用が増えるものと思われる。

農業用水路目地材

従来灌漑用水路にパイプラインが使われるのは畑地用が多かったが、近年は畑地灌漑のみならず、水田灌漑においても広くパイプラインが採用されつつある。農業用水路としてパイプラインが採用される理由として、①水路用地の取得難②大型耕作機械の走行の便③水質汚染問題④長距離輸送における効率の問題⑤開水路方式に比べて送配水の制御が合理化される——などである。

しかし水田灌漑の場合、イネの植生上の問題で、水田の水の取入口までパイプラインで配水するわけにはいかない。つまり、パイプラインで送った場合、水圧が高くなり、水が激しい勢いで水田に入ることになる。水田に水が入る段階では開水路式の圧力のかからない水がゆったり流れ込む方式が良いようである。

現在、農業用水路を建設するのは、①国②都道府県③団体（市町村、農協）の3者である。このうち国が建設するのは複数の都道府県が同じ水源から受水する場合、直径2m程度のパイプラインを設置する。都道府県は上記③の各団体の管理する部分まで設置する。

各団体が設置する場合、やはりまだ開水路式が採用されることも多いが、その目地材として使用されるのはエラストイトが多い。東京都の場合を具体的に述べると昭和49年から51年の間、東京都自身設置した例はない。都の管轄する区域での建設例についてみると、総延長・約9,000m。このうちパイプラインについては、八丈島、大賀地区の畑地灌漑で6,000m(道水2,200m、配水3,800m)。幹線部分は直径100mm、支線は75~50mmのパイプが使用された。一方コンクリートブロックによる開水路式は、八王子市の鎌水、宇津貫、府中市の下堰、八丈島の塚根、小振ヶ沢で合計約3,000mが建設された。各地区とも10~20mブロックごとにすべて厚さ10mmのエラストイトが目地に使用されている。

今後とも開水用式の灌漑用水路については、エラストイトが目地部分に使用されるようである。

東京都管轄地区における農業用水の設置状況

(49～51年)

方式	場所	長さ	径、幅
パイプライン	八丈島、大賀地区	送水 2,000 m	幹線 φ 100mm 支線 φ50～75mm
		配水 3,800 m	
		計6,000m	
開水路	八王子市 鍮水	630m	150cm
	八王子市 宇津貫	70m	150cm
	府中市 下堰	1,770m	150cm
	八丈島 塚根	444m	140cm
	八丈島 小振ヶ沢	170m	60cm
		計 3,084m	

なお東京都管轄区域内の開水路式用水路の建設は、以下の東京都、建設局土木材仕様書805、806に基づいて行われる。

[東京都、建設局土木材料(仕様書805目地板)]

1. 発泡体型のゴム、合成樹脂をおもな材料としてセメントコンクリートボード、擁壁、護岸などの継目に使用する。

寸法誤差	
厚さ (mm)	± 1
幅、長さ (%)	± 1

2. 品質

項目	規定
圧縮強さ (kg/cm ²)	2 以上
復元率 (%)	60以上
はみ出し量 (mm)	3 以上
吸水量 (%)	1 以上
空げき量 (%)	90以下

[東京都、建設局土木材料(仕様書806注入目地材)]

本品はセメントコンクリート舗装などの継目に使用する注入目地材で、次の規定に適合しなければならない。

1. 本品は低温においてもコンクリートに強く付着してはく離せず、また高温においても流れ出さず、長期間にわたって繰り返される伸縮に耐えるもので、きれつを生

ぜず、砂や、水の浸入によく抵抗し得るものとする。

2. 種類は表806-1のとおりとする。

表806-1

種類	
加熱式	コンパウンド型
常温式	マスチック型 乳剤型

3. 品質は表806-2のとおりとする。

表806-2

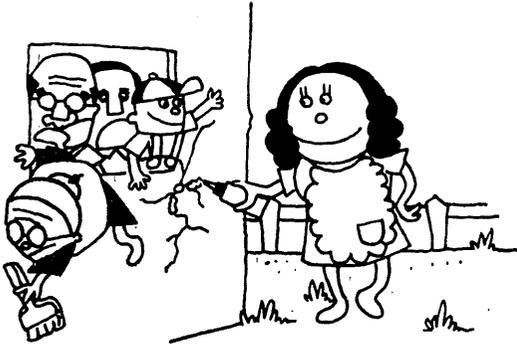
項目	種類	
	加熱式 コンパウンド型	常温式 マスチック型 乳剤型
流れ mm	5 以下	15以下 15以下
針入度 (コーン・25°C) 接着性試験 (-18°C)	90以下 合格	250以下 合格 合格
揮発分 (%)	—	20以下 35以下
注入温度 (°C)	200以下	— —

8. 一般家庭用のシーリング材の動向

今日の不況時において、ほとんどの消費市場は低迷下にあるが、その中でひとときわ光明を放っているのが、DIY/HIマーケット、すなわち日曜大工用品などを扱う産業である。これは不況によってもたらされた一般消費意欲の減退が「ものを大切に使う」「長もちさせる」ためのDIY/HI商品への消費転換となったからである。

そのDIY/HI商品の中でも、補修材として用いられるシーリング材は、百貨店、チェーンストアおよびホームセンターなどの売れ筋ランキングにおいて、表-8のような位置を占めており、従来そのほとんどがシーリング施工店などの専門施工業者に流れていたのに比べてここ2、3年の一般家庭への流れというものは、決して無視できない注目すべきものがある。

また補修材の中では①接着剤②木工接着剤③シーリング材④インスタントセメント⑤テープ類といった売れ筋商品ランキングになっており、セメント中心にこれに類する商品の伸びが目立っている。また、これを材料種類別に見ると浴槽や水槽などの防水充てんのために用いら



れるシリコン系がもっともめざましい伸びを示しており、52年には50~60トンにも達している。次いで、主として屋内壁のヒビ割れ補修・すき間の充てんに使用されるアクリル系が伸びており、逆にサッシ廻り目地、屋根



百貨店でもDIY商品は活発な売れ行きを見せている

瓦のかけ補修などに用いられる油性系は横ばいの傾向にある。

都内のある百貨店では日曜大工コーナーを設け、住まいの修理コーナーとして相談の多い修理事項を選び「水もれ」「汚れ」「はがれ」「ヒビ割れ」「破損」などの項目ごとに代表的な例とその修理方法をイラスト入りのPOPで説明している。その百貨店においても洗面所、浴室の補修に用いられるシリコン系のもが補修材全体の売り上げの80%近くを占めている。52年度の全体の売り上げも51年の120%、すなわち20%の伸びを記録してお

表一8 百貨店、チェーンストアおよびホームセンターの売れ筋ランキング

松屋銀座店	壁床	紙材	1	バビエバン フクビリウム	ロワテ 福井化学
	塗	料	2	水性ペイント0.7㍑	アサヒペン
	補修	剤	3	グイール用接着剤 シキイすべり	セイブ 山口技研
	組立家具		4	ボコ カラーアングル	山陽国策バルブ マンテン
	建築金物		5	ドアノック ちようつがい ドアノブ 金物小物類	西ドイツ直輸入品 鈴屋
グアイエ	建築金物		1	クギ類 小物金具 はりがね	グイエーPB
	壁床	紙材	2	アルコア ルネ ファミチャーシート	グイエーオリジナル(西ドイツ製) 兼特約インテリア 東京インハウス
	補修	材	3	流し台テープ 布粘着テープ 荷作りテープ	ニトムズ
	園芸用品		4	フラワープランター 培養土 ペランゲ用花壇 ジョウロ	
	荷作りセット		5	荷作りひも 小包セット	
ドイト	金物・工具		1	ドリル カナヅチ トンカチ ドライバ	マキタ、日立、ブラック&デック } 桜日本印、板利器 林屋商店
	カー用品		2	シートクッション 不凍液2㍑ アースターケーブル	ベスピアス
宇野店	壁床	紙材	3	ふすま紙 せんい壁材 Pタイムル材	光建産業 富士商会 三菱樹脂
	塗	料	4	水性ペイント0.7㍑ アクリル系ペイント2㍑	アトム化学塗料 アサヒペン
	接着補修剤		5	ボンド 50㍑ 150㍑	コニシ ヤ

(チェーンストアエイジニュース12-15号掲載)

り、53年もまた同程度の増加を期待している。

また、ある大手メーカーによれば、業務用としてシーリング工事店に流れるものがおよそ80%を占め、残り約20%が一般家庭、あるいは大工、板金店などによって消費されている。したがって一般家庭に流れるものは10~18%に過ぎない。しかしこの分野の売り上げは51年から52年へ20%強の伸びを記録しており、来年はそれ以上の増加が予想されるということであった。

以上のように一般家庭用のシーリング材の需要はますます伸びる傾向にあり、それに伴ってより短時間で硬化するなど素人でも失敗なく簡単に用いることのできる品質のもの、またある一定の使用方法で高性能を発揮するといったものよりも、むしろ家庭用としてはどの補修箇所にも用いても、ある程度の性能を発揮するものが望まれるであろうし、その観点から言えば今後シリコン系のもがますます伸びるであろうと思われる。

——いま話題の **ALCO** シーラント——

“1つの完成品”粘弾性シーラントALCOライン

特長

優れたゴム弾性をもち、日地の伸縮・たわみに追従でき、その持続性は半永久的で無溶剤型ですので硬化による体積収縮が全くなく耐候性、耐水性、耐寒性に優れ、又、施工後、降雨にあってもシーラントの流失は全くなく施工後即吹付塗装工程に移れます。

抜群の耐水性を誇る高級アクリル系シーラント——

MYシーラーMark II

特長

近年シーリング材の需要は著しく建築用においても新建材や新工法の使用に伴い驚異的な伸展をみせております。ALC用シーラントもその例に漏れません。しかし、従来のものにはいずれもモジュラスに今一つという感があり決定的なものが出ておりませんでした。MYシーラーMark II はそんな現状に答えるべく登場したすぐれた接着力と安定した品質を誇る理想的なシーリング材です。

イイダ産業株式会社

本社 名古屋市中区新栄 1-27-2 〒460 ☎(052)262-3951(代)
工場 愛知県西春日井郡豊山町豊場 〒480-02☎(0568)28-2262(代)

スターシール

T-27 ポリサルファイド系シーリング材
U-73 1液ポリウレタン系シーリング材
U-29 2液ポリウレタン系シーリング材
S-20 シリコン系シーリング材

スターコーキング

B-20 G 油性コーキング材
R-40 ブチル系コーキング材
Y-60 水性アクリル系コーキング材

フォートボンド

#100 #500 感光性接着剤

エッジシール

鋼入り板ガラス防錆ブチルテープ
(ガラスメーカー3社 全硝連 推奨品)

JIS表示工場 第567215号(JIS・A・5751)



明星チャーチル株式会社

本社 堺市浜寺石津町中1丁4-7
関西営業所 電話 堺(0722)44-7500(代表) テレックス 5374-743
関東営業所 横浜市神奈川区三枚町299-5
電話 横浜(045)383-4651(代表) テレックス 3823-253
名古屋営業所 名古屋市名東区一社3丁目90番地 チサンビル202号
電話 名古屋(052)703-2061(代表) テレックス 447-3639
九州営業所 福岡市博多区博多駅前4丁目26-11 鐘芳ビル
電話 福岡(092)472-2143(代表) テレックス 724-597
広島出張所 広島市比治山町5-1-2
電話 広島(0822)63-4461(代表) テレックス 652-414

シーリング材の価格動向

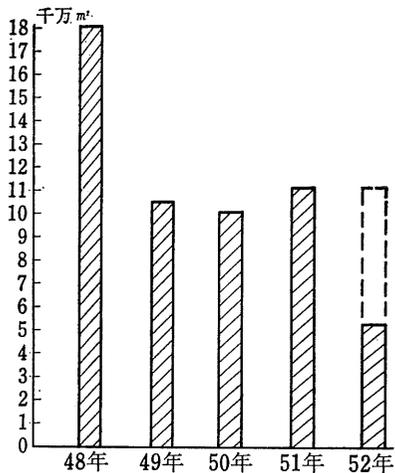
広報委員会

1. ま え が き

昭和52年における建築用シーリング材の取引量は、本誌冒頭の業界展望欄記載のように、弾性系はおおむね順調な取引量を確保し、塑性系は横ばいないしは微増にとどまり、油性は弾性系の伸びに反し、減少したものと推定される。ここ数年来、この新旧交代の傾向が続き、さらに、今後も引続き同様の傾向を示しつつ推移するものと思われる。

一方、建築用シーリング材の主用途である不燃建築の52年上半期（52/1-6）の着工統計（図-1）を見ると、前年同期比（51/1-6）で6.4%増、前期比（51/7-12）で13.9%の減となり、48年のオイルショック後のわが国経済の不況を反映し、大幅な落ち込みを示したまま容易に軌道修正を行なおうとしない。

最近における政府の景気刺激対策により公共建築物の新造は増大しているが、民間の不燃建築物はさえない。



注. 52年は1-6月分までは前年同期比6.4%増

図-1 不燃建築着工統計

総じて、立直りの気配を見せては、途絶え、上昇と下降を交互にくりかえして、上昇軌道への期待に一抹の不安を与えているが、幸に51/1-12の3F以上のSRC、RC、Sの着工床面積は前年比17%増となり、弾性シーリング材の増減につながっているものと推定される。

一方、建築用シーリング材の価格面を見ると、賃金その他の経費は上昇を続け、生産原価に影響して上昇の一途をたどっているにもかかわらず、殊に最近にいたり新造建築物不振の影響を受け、価格競争は激化し、一部では低落の傾向を余儀なくされ、材工とも厳しい環境の中に事業経営に暗い影を投げかけている。

2. 最近の価格動向

昭和52年度の基材別主要原料価格は、表-1の通り51年後半の値上り以来、おおむね横ばいを続けているが、他方、賃金その他の関係諸費は年々上昇の一途をたどっている。一方、シーリング材の販売価格、工事価格は図-2、図-3に示すように、依然として横ばい、微増な

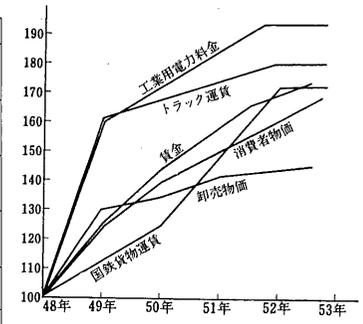
表-1 シーリング材の主要原料価格表

基 材 名		48年度=100				
		年 48	年 49	年 50	年 51	年 52
基 材 名	主 要 原 料					
ポリサルファイド	チオコールLP	100	160	160	195	195
シリコーン	金 属 硅 素	100	150	170	180	180
	メチルクロライド	100	180	180	180	180
ウレタン	ウレタンプレポリマー	100	122	122	134	134
	ポリオール	100	109	109	122	122
水性アクリル	アクリルモノマー	100	155	172	210	210
ブチル	インブチレン、イソブチレン共重合体	100	115	130	145	150
水性SBR	SBRラテックス	100	125	130	135	140
油 性	アルキッド樹脂	100	170	170	176	178

表一 2 建築用シーリング材参考標準設計価格

48年=100

		52.11.1 調査						
区 分	積算基準	目地寸法(巾×深さ)	材料価格	労務費	副資材	経 費	計	
油 性	1,100/ℓ	10%×10% _油	110	105	24	47	286	
		15 × 10	165	117	35	63	380	
		20 × 10	220	140	46	81	487	
		20 × 10	330	162	58	110	660	
ポリサルファイド	6,000/ℓ	5 × 5	150	303	105	111	669	
		5 × 6	216	303	105	124	748	
		10 × 10	600	346	140	217	1,303	
		15 × 10	930	396	175	294	1,785	
シリコン 1成分型	7,500/ℓ	5 × 5	186	303	105	119	715	
		10 × 7	525	346	140	202	1,213	
		15 × 10	1,125	396	175	339	2,035	
		20 × 10	1,500	455	221	435	2,611	
シリコン 2成分型	6,200/ℓ	5 × 5	155	303	105	112	675	
		10 × 7	434	350	129	182	1,095	
		15 × 10	930	396	175	300	1,801	
		20 × 10	1,240	455	221	383	2,299	
ウ レ タ ン	3,200/ℓ	10 × 10	320	350	140	162	972	
		15 × 10	480	396	175	210	1,261	
		20 × 10	640	455	228	264	1,587	
水性 アクリル	1,600/ℓ	10 × 10	160	303	140	120	723	
		15 × 10	240	350	175	153	918	
		20 × 10	320	396	210	185	1,111	
ブ ナ ル	1,500/ℓ	10 × 10	150	303	140	118	711	
		15 × 10	225	350	175	150	900	
水性 S. B. R	1,400/ℓ	10 × 10	140	303	140	60	643	
		15 × 10	210	350	175	147	882	
		20 × 10	280	396	210	177	1,063	

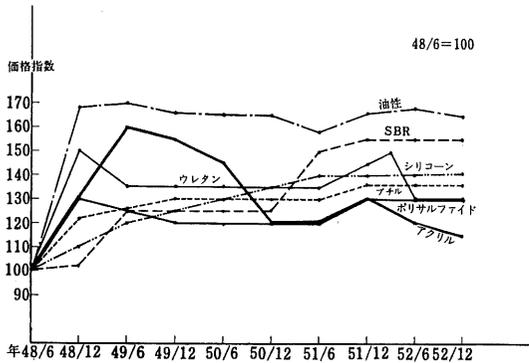


注. 資金指数, 52年は1~7月の間を前年同期比より算出

図一 4 関連経済指標

1. 本価格は目地延 500m 以上の場合とする。
2. ゴンドラ使用の場合は30%UPとする。

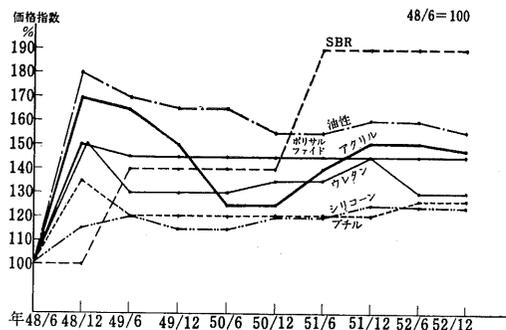
52.11.1 (日本シーリング工業会) いしは低落の傾向を示し, 48/6を100



図一 2 シーリング材販売価格年別推移(施工店渡価格)

とした場合の52/1の対照指数は表一 3 の通りである。

表一 3 に示すように, 他の経済指標(図一 4)に比し, シーリング材販売価格と施工価格が著しく低位におかれている。混迷する過当競争と利益確保のしわ寄せが, ともすれば, 力の弱い下請業者に寄せられる結果, シーリング材の材工価格低迷の大きな要因となっており, このことがメーカー および施工業者の経営を 圧迫し, 不振の最大のガンとなるにいたっている。



図一 3 シーリング工事施工価格年別指数推移

表一 3 関係指数対照表 (48/6=100)

区 分	本年度指数(52/11)
主要原材料販売価格平均指数	1 6 5
各基材販売価格平均指数	1 3 9
各基材工事価格平均指数	1 4 4
工業用電力料金指数	1 9 4
賃 金 総 合 指 数	1 7 4
国 鉄 貨 物 運 賃 指 数	1 7 2

3. む す び

さる50年10月 JIS A5757 (建築用シーリング材の用途別性能)の示すように, シーリング材の耐久性の向上が強調され, 目下進行中の JIS A5757 に基づく商品認定 JIS案の作成, J A S S 8 のシーリング工事の改訂など, 紆余曲折はあっても, 建築技術の革新に対応できるシーリング材の性能に目標を与え, それに伴う施工法の作成にある。

メーカー各社は過当競争と不況のさ中において, 不断の努力と研究を重ね, この新しい時代の要請に対応しようとしている。

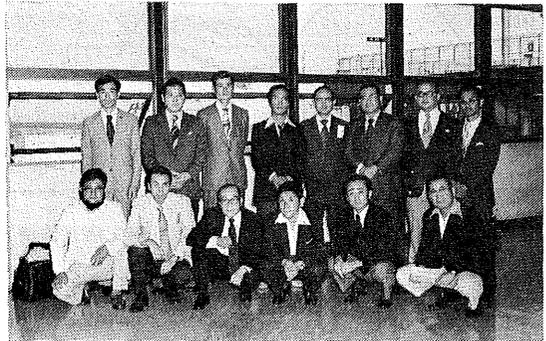
春の萌しとともに新しい芽を出してゆく路傍の雑草のように力強く生き続けてゆかねばならないが, シーリング材が混迷の中から, この新時代に正しく対応し, 新しい意欲をかき立てるには, まず, 第一に価格の回復と正しい評価がもっとも大切なことである。

業界自体の自制はもちろんであるが, ユーザー各位の深いご理解を切望してやまない。



目と耳と肌で感じたい

まだ暑さの残る9月12日東京国際空港を後に、北米に“何か”を求めて約2週間の旅をしてきました。今回の旅は「シーリングジャーナル」「防水ジャーナル」でおなじみの新樹社主催、全国防水工事業団体連合会後援によるもので、名称は昭和52年度「第1次北米建築・防水技術調査団」、団長はこの旅行中ワシントンで開かれた国際防水シンポジウムの冒頭「日本の防水事情」について講演された小池迪夫氏（東京工業大学助教授）ほか一行15名であります。メンバーは防水材・シーリング材のメーカーおよび工事店で構成されており、調査内容も防水材関係、シーリング材関係および住宅関係に分れています。訪問先は、羽田からサンフランシスコ～シカゴ～クリーブランド～トロント～ナイアガラ～ニューヨーク～トレントン～フィラデルフィア～ワシントン～ロサンゼルス～ホノルル～羽田と丁度北米の西側と北東を見た感じになります。北米について“何か”を話すには、日本の25倍という広大な面積をもつアメリカのほんの一部を見たに過ぎませんが、ビル建築に使用されるシーリング材の調査としては、一応全米No.1のニューヨーク、No.2のシカゴおよび西海岸の代表でNo.3のロサンゼ



出発前の調査団一行。（羽田空港で）

ルスまたカナダの代表的都市トロントが入っていることにより、ほぼ北米の一般的事情を網羅したといえるのではないかと思います。また「北米に何かを求めて」の意味は、すでに諸先生、諸先輩の方々が北米およびヨーロッパのシーリング事情について十分視察され、話されておりますが、長年このシーリング材に携わってきた一員として、実際に自分の目で、耳で、また肌で感じ確認したいということと同時に、何か今まで聞いたことより新しいことがあるのではないかと期待をこめております。また私の今回見てきたこと、聞いてきたことが幾らかでも、ユーザー並びにシーリング業界のために役に立てば幸と存じます。

1. サンフランシスコ

(1)フォスター市の住宅事情

サンフランシスコ市に入る前に、私たち一行は空港に

近い新興住宅都市「フォスター市」を視察しました。この市はサンフランシスコ郊外の海岸埋立地にベッドタウンとして建設されたもので、1960年より実施され現在完成に近づいているとのこと。建物としては1戸建、連棟住宅(4戸建)、マンション風などがあり、木造建築が主体でツーバイフォー(2×4)をとり入れていません。外装は木板またはリシン吹付ボード張りで、内装は石綿系ボードにクロス張りがほとんどです。ツーバイフォー構法では床および壁に接着剤を併用しており、その目的は構造強度というよりも、板のきしみを止めるためとのこと。住宅の価格は1960年(当初)では約3万ドルであり、現在では10~15万ドルの高級庭付1戸建て、20~30年の月賦払いとのことで、部屋数8~10室に高級家具および附帯設備付のすばらしい建物です。またこの住宅工事は専門職種別の流れ作業で3カ月で1戸完成するとのことであり、大工さんの工賃は35時間/週労働で約10~14万円/週とのこと。

(シーリング、防水職人の工賃は5~10万円/週)



フォスターシティの郊外団地の現場で。

(2)サンフランシスコの建物

サンフランシスコ市は北から流れてくる寒流のため夏でも涼しく、また冬はそれほど寒くなく年間の温度差が小さい所で、降雨量も日本の場位であり、建物の防水・シーリングにとって有利な環境といえます。そのため防水は簡単なアスファルト系砂付ルーフィングがほとんどで、またシーリング材に関しても見た感じではどこにあるのかわからないような状況であり、建物全体としては純粋なメタルカーテンウォールは少なく、PCカーテンウォールおよびRC造りが主体で、サッシはPCおよびRCにはさまれた縦および横の連層ものがほとんどです。従って、シーリング材にとって、あまりきびしい環

境にはないようです。

2. シカゴ

シカゴ市では全米でも一流の設計事務所スキッドモア・オーイングス・アンド・メリルを訪問し、北米におけるシーリング事情を入手することができました。また市内の高層建物の視察では建築に詳しい案内者によって視察を深めることができました。

(1)スキッドモア・オーイングス・アンド・メリル設計事務所のシーリング事情 (Skidmore Owings & Merrill)

この設計事務所は所員300名、ほかに大型プロジェクト400名がおり、クェート、エジプトおよびシカゴなどの仕事をしているとのこと。ここでは日本人所員が数人活躍しており、この人たちの案内で所内をくまなく見学することができました。

イ。保証については、屋根防水(ルーフィング)で10年間保証を仕様にしており、材料メーカーとの間にとりかわすとのことで、シーリング材については保証の仕様はないとのこと。ただし6~7年が部分補修を必要とするメンテナンスの時期と考えられており、この調査および管理は設計事務所の工事監理部門が行うとのこと。

ロ。現在使用しているシーリング材については、

- 1成分型ポリウレタンおよびモデファイドウレタン
- 2成分型ポリウレタン
- 2成分型ポリサルファイド
- 1成分型ポリサルファイド
- 1成分型シリコーン(低および高モジュラスタイプ)

があり、メーカーの技術データーを参考にして材料の品質を判断し使用しているとのこと。また使用後は工事監理部門のチェックにより設計部門にフィードバックされ、その使用経験にもとづいて再選定を行うとのこと。通常、外部の目地ではポリウレタン、ポリサルファイド、シリコーン(1成分型)のうち2種類以上の材料を部位別で使用しているとのこと。例えばインラッド・スチールビルにおいては次のようにシーリング材を使い分けています。

- PC目地………ポリウレタン
- メタル目地……横目地……1成分型低モジュラスシリコーン

縦目地……ポリサルファイド

◦床目地……ポリウレタン

◦ガラス目地……グレーシングテープおよびゴムガスケット（ただし、ガラス端部に不定型シーリング材を使用する。）

ハ、水密・風圧・耐震については特に一般的仕様として定めている基準はなく、各状況に応じて、そのつど決めていくとのこと。ただし、一般的に行われていることは次のようなフロリダテストであります。

温度条件、結露条件（二重ガラスの場合）、風圧条件、水密条件を決めて動的テスト（プロペラによる）および静的テスト（減圧装置による）を行う。

例えば、室内圧力100～150kg/m²（20～30ポンド/フィート²）で漏水しないこと（安全率1.5倍）。

構造テスト（強度テスト）はその地域の風力の最高および建築基準法によって決められ、体験データに安全係数を掛けているとのこと。

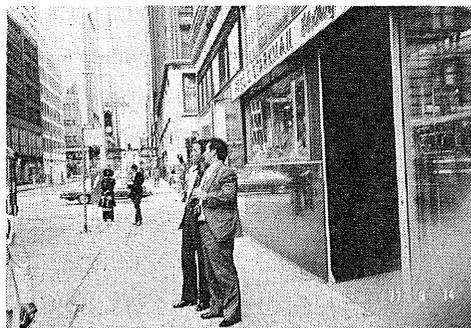
ニ、シーリング構法については、1次シール、排水装置（経路）、2次シールの ツー・シール・システムを採用しており、外壁もガラス廻りも同様の構法で、1次シールは雨水の進入を防ぐ役目ですが、入った場合には排水し、2次シールで気密および入った水の室内への進入を防ぐとの考え方です。また1次シールには不定型シーリング材およびガスケット、グレーシングテープを使用し、2次シールは全て不定型シーリング材とのことでもあります。そして外部側オープンの場合も内部には不定型シーリング材を使用しており、その例としてはシカゴプラザビルとのことです。

(2)アスファルト防水材メーカーによる説明

シカゴでは、アスファルト防水材メーカーのユニロイヤル（Uniroyal Construction Products）とコッパーズ（Koppers Architectural and Construction Materials）のスライドによる説明を聞きました。全米ではアスファルト防水が90%でほとんど断熱構法とのことです。

(3)シカゴの建物

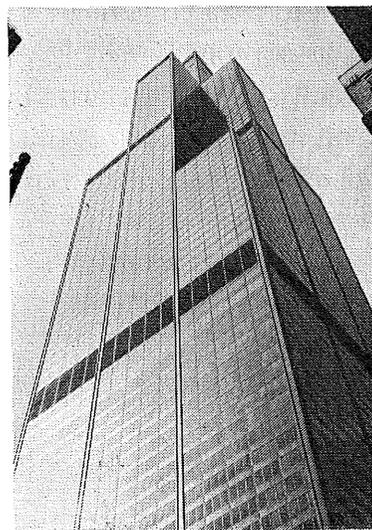
シカゴ市はニューヨーク市に次ぐ全米第2の都市だけに高層ビルも多く、また高さにおいても世界No.1のシアーズタワービル（443m110階建で世界貿易センターより少し高い）、No.4のスタンダードオイルビル（346m80階建であるが階高が大きい）No.5のジョンハンコックビル



シカゴ市街地の視察をする筆者（右）、左は操上弘昌氏（マサル工業）。

（100階建）などがあり、スチールカーテンウォールが目立ちました。

大理石張りカーテンウォールの代表としてはスタンダードオイルビルの白亜の塔があり、PCコンクリートカーテンウォールの代表はファーストナショナル・バンク・オブ・シカゴビル（225m約60階建）で



世界 No.1 のシアーズビル（シカゴ）

低層部の裾が広がっている所は、新宿の安田火災本社ビルと同じであり、他にも円型2棟建の多目的ビルであるマリナー・シティ・ビル（PCカーテンウォール60階建）また変則円型のレイク・ポイント・タワービル（70階建ガラスと鋼鉄のビル）があり、バラエティーに富んだ現代建築群であります。ジョンハンコックビルでは、狭い目地（8～10%）の中でシーリング材が切断しているのが観察されました。シカゴ市の環境は、ニューヨーク、トロントと同様に過去200年の間地震がないとのこと。建物の構造設計においても耐震をあまり考慮する必要がないことです。また気温は低温側がきびしく、夏は涼しい位ですが、湖から吹き上げる風雨にさらされています。アメリカの Federal Spec（フェデラルスペック）はシカゴ、ニューヨークの環境をもとにつくられていると推察されます。

3. クリーブランド

(1) トレムコ社訪問

トレムコ社はクリーブランド市に本社を置く防水材・シーリング材の専門メーカーで、シカゴ、ニューヨーク、カナダ(トロント)など北東部に市場をもち年間売上200億円を越す全米でも有数のトップランクメーカーとのことです。

イ. シーリング材についての説明

① シーリング材の歴史

1930年代はガラスパテなどが中心に使用されていましたが、1940年からシーリング材の研究が発達し、現在約20種類のシーリング材が存在しています。またアルミカーテンウォールの出現により部材間の動きが大きくなったため、ゴム状シーリング材や定型のグレージングテープをより必要とされ、グレージングテープの例では、ロイヤル・バンク・ビルのゴールドガラス、ミラーガラスの廻りに使用され、風洞テストで71m/secの風速に耐えることが実証されています。現在では、各種シーリング材が被着材および部位別に使い分けられ、構法もツースीलシステム(レインスクリーン構法)が通常であります。

② シーリング材の一般的性状

a) 温度条件は物性の劣化に対して非常に大きな影響を与える要素である。

b) 紫外線はシーリング材の表面のみに影響を与えるが、動きのあるジョイントでは、これからクレツに発展し、長期間の動きの繰り返しによってクレツは深くなっていく。ただしガラス越しの紫外線に対する接着性への影響は大きい。

c) オゾンはポリマーコンテンツが低いと影響が大きく、ハイコンテンツでは少ない。またオゾンのクレツは応力の方向に対して直角に生じる。

d) シーリング材に対する動きの影響が大きいのは圧縮応力の方向であり、剪断応力の方向が最も小さい。

e) 低モジュラスシーリング材は界面に与える応力が低いため接着不良を生じ難く、動きに対しては追従し易く、疲労も小さい。ただし低ポリマーコンテンツでは別の問題を生じる。

f) 動きの大きい目地では、独立気泡のポリエチレンスポンジをバックアップ材として使用し、必ず30%圧縮して使用しなければならない。それは硬化中の動きに

対して追従性を維持するためである。

③ 一般に使用されている各種シーリング材の性状

a) アクリルシーリング材

溶剤タイプとラテックスタイプがあり、プライマーのいないシーリング材である。溶剤タイプは難しい被着面に対してもプライマーなしで良好な接着性を示す。このシーリング材の長期許容伸縮率は $\pm 7.5\sim 15\%$ で配合によって異なる。1959年に市場に出て以来、世界でも多く使用されており、主な用途は窓廻りのコーキング(サッシ~コンクリート)、ガラス廻りのシーリング(サッシ内部のガラス端部におけるシール)および室内外のエアーシール、固定サッシ間のジョイントなどである。

b) ポリサルファイドシーリング材(2成分型)

アメリカで造られた最初の合成ゴムで、1950年に建築業界に導入された。このシーリング材は $\pm 25\%$ の動きに追従でき、ガラス、メタルに良く接着し、コンクリートにもプライマーの使用によって良好である。1成分型は数年前からよく使用されており、それは混合しなくてよいことのためである。しかし1成分型は硬化が遅く、初期の皮膜形成を早めるために散水または濡れ仕上げが必要とされ、またこの問題は大きい商業ビルでは動きの許容性が2成分型より悪いために、1成分型の使用をさまたげている。

c) シリコンシーリング材(1成分型)

シリコンシーリング材は1950年以後に導入されているが、建築マーケットでは比較的新参者である。しかし低モジュラスシリコンの導入により過去3年の間に多量に使われるようになった。そしてこの低モジュラスシリコンは接着性が改善されてアルミ、ガラスに対してプライマーなしで良好な接着性を示す。しかしながら石造建築の被着面に対してはプライマーを使用しても問題が残っている。動きに対しては $\pm 25\%$ あるいはそれ以上の許容性がある。シリコンはガラス~ガラスのシーリングでは最もよく使用される。そしてガラス周囲のシーリング材として、またメタル~メタルのシーリング材として使用されている。シリコンについての良いところは、大抵の温度条件で使用できることであるが、一般的には他の弾性シーリング材より高価で、また大抵の被着面にプライマーを必要とする。仕様に決められているため、シリコンシーリング材を選択する場合には注意し

て着手すべきである。

d) ウレタンシーリング材 (2成分型)

ウレタンは過去5年の間によりポピュラーになったシーリング材で、性質は配合によって非常に広い範囲で変化することができる。これらは丈夫で耐摩性のよいゴム状シーリング材で±25%以内の範囲で動きに追随でき、窓およびカーテンウォールの使用に選定する時は、ガラスを含む使用では注意しなければならない。配合によってはガラス越しの紫外線によってガラス面の接着性が低下する。

e) ブチルシーリング材

ブチルシーリング材は溶剤の揮発によって硬化する。そして小さな動きのジョイントにシールされる。1成分型のシーリング材で木、メタル、ガラス、コンクリートにプライマーなしで良好に接着する。しかし収縮が大きいことを知って使わなければならない。主な用途は固定メタルジョイントのシール、ネオプレンまたは他のガスケットと接触するジョイントに併用する。ブチルはネオプレンとよく密着する。

f) ポリエポキシサイドウレタン (2成分型)

このシーリング材はエポキシの接着性とポリウレタンのゴム状性質を組み合わせたもので、低モジュラスシーリング材である。1966年に初めて導入されており、このポリマーの長所は低層から高層までの建築物に広く受け入れられていることである。このシーリング材の特徴はプライマーなしで各種被着面に接着し、圧縮セットが小さく、圧縮25%～伸長40%の動きに追随できることである。

註1) ±25%の動きに対して追随できるとの表現はFederal Specの繰返しテストの±25%に対応できるからとの理由によっており、実際との関連については明らかでない。

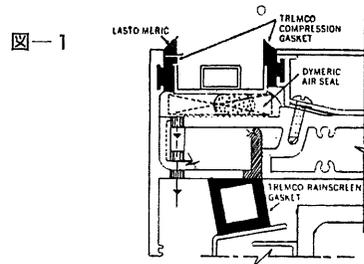
註2) プライマーなしで良く接着するとの表現はアメリカにおける判定規準であり、日本の判定規準と有意差がある。

④ ツーシールシステムと実際例

ツーシールシステムとは1次シール(外部シール)と2次シール(内部シール)の空間は外部の圧力と等圧にすべきであるとの理論に基づいており、2次シールによって気密(エアータイト)を保持するとの構法である。1次シールは排水穴を持っており、レインスクリーンと呼び、2次シールはエアースクリーンと呼んでいる。

実例としては、ニューヨークの世界貿易センタービル(110階建, 109階建)をあげることができ、外部はガス

ケット、内部はシーリング材である。またシカゴのスタンダードオイルビルはツーシールとワンシールの使い分けで、大理石～大理石および大理石～アルミサッシはワンシステム、ガラス～サッシはグレーディングテープ、ガスケットとシーリング材とのツーシステムである。



トレムコ社のパンフレットによるツーシールシステム。上は「ラストメリック」、下は「ダイメリック」のもの。

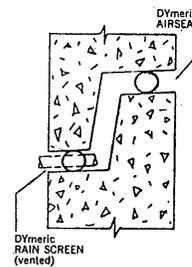


図-2

4. トロント

トロントはカナダ第2の都市で高層ビルも多く、さらに世界一高いCNタワーがあります。

(1) CNタワーについて

このCNタワーは1815フィート(約540m)の高さで、展望台の位置でも東京タワーのトップより高い所にありカナダ国鉄、カナダ大平洋鉄道、カナダ放送の共同にて建設されており、シーリングについてはセンチネル・アルミ会社とトレムコ社との共同にて進められた。ガラス目地、サッシ目地ともツーシールシステムで、事前に各種の試験が行われた。

イ. 風洞試験はフロリダにある北米最高の建築研究所で動的、静的試験が1973～6年までの間継続して行われた。風圧は過去200年の最高である190マイル/アワー(88m/sec, 500kg/m²)で行われ、水密試験も併行されたが漏水を生じなかったとのことである。また耐震試験は行われず、スイスの専門家の診断では、ジャンボジェット機が衝突してもタワーは倒れないとのことである。

ロ. 断熱構造としては金属構造体も二重構造で、結

水しないように設計されており、窓ガラスは外側熱線吸収ガラス使用のインシュレーショングラスである。

ハ、その他の設備としては、

- ①窓ガラスの自動洗浄機
- ②鳥害を防ぐための電波発信装置
- ③アイシング装置
- ④耐火装置
- ⑤エレベーター故障時の非常階段
- ⑥自殺防止装置

などがある。

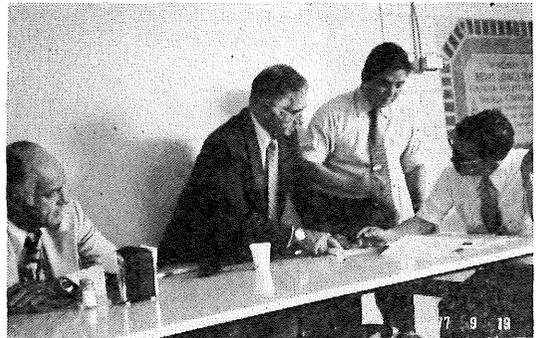
5. ニューヨーク

(1) ニューヨークの建物

ニューヨークでは建物の視察が中心で、特に世界貿易センター、国連ビルなどを訪問しました。さすがにニューヨークは全米No.1の都市だけに高層ビルが多く150m(約40階)以上のビルが約80棟あるとのこと、特にきわだっているのは、世界No.2, No.3の世界貿易センタービルであり、その次が昔の世界No.1であるエンパイアステートビル(現在No.6)であります。全体としては高層ビルの約半分はRC造りおよび石張りの古い建物であり、残りの半分のまた約半分がPCカーテンウォールでその残り全体の1/4がメタルカーテンウォールとみることができます。またメタルカーテンウォールもサッシ以外は全てガラスであり、ガラスカーテンウォールといった方が合うかも知れません。世界貿易センタービルは110階と109階の2棟からなり、いずれもアルミカーテンウォール(低層部分はステンレス)であります。アルミ柱の伸縮部分にはシーリング材が見あたらずオーバーラップ(重ね合せ)になっているようです。ただし、この柱は3フロア接続してあり、接続部は固定目地で工場施工のポリサルファイドシーリング材を観察することができました。しかし固定目地であるため目地幅は10~12%位と思われませんが、異常はほとんど認められません。低層部のガラス目地には、ポリサルファイドらしきものがマスキングテープなしで施工されたため、きたない仕上げが目立ちましたが、他のガラス目地は内外ともグレーニングガasketが使用されておりました。またニューヨーク市内で建築中のビルが2棟ありましたが、全体的には今後、ビルの立つ見込みがない感じです。2棟のうち1棟はメタルカーテンウォールの60階建もう1棟は



トレムコ社主催の歓迎レセプション



チオコール社で担当者とディスカッション



ニューヨークの超高層ビル群があるマンハッタン

PCカーテンウォールであります。メタルカーテンウォールは低層ガラス目地およびサスペンションガラス目地に1成分型シリコーンを使用していましたが、アルミパネル目地には縦横目地ともシーリング材は充填されず、オープンジョイントのように観察され、PCカーテンウォールでは、PC板にあらかじめ粘着ブチル付スポンジの2次シールが貼り付けられており、日本の場合と同様と観察されました。

6. トレントン

(1) チオコール社訪問

イ、チオコール社によるシーリング材の説明

①各種シーリング材の許容伸縮率

()内はトレムコ社数値

ポリサルファイド 1成分型	±25%
" 2成分型	" (±25%)
シリコーン 1成分型	" (±25%以上)
シリコーン 2成分型	" (±25%以上)
ポリウレタン 1成分型	±20%
" 2成分型	" (±25%以内)
ポリメルカプタン	±15~20%
アクリル	±10%(±7.5~15%)
ブチル	±5%
油性コーキング	" (±5%)
グレージングコーキング	" (±5%)

②各種シーリング材の区分

a) 動的追従性が±7%以内のもの

タイプ: 油性コーキング, 瀝青質系, ポリブテン系
 ビニール系他

価格: 2~4ドル/ガロン

規格: FS TT-C-598b

用途: 窓, ドアの内側, 低層の集合住宅
 一重窓ガラスのうめ込み

b) 動的追従性が±15%以内のもの

タイプ: ブチル系, アクリル系, ネオブレン系, ウ
 レタン系他

価格: 4~6ドル/ガロン

規格: FS TT-S-001657 ブチル

19GP16 アクリル

19GP5 " (ブチル)

19GP15 ウレタン

用途: 表面に出ないかくされた目地, 空げき充填
 材として, 小さい動きの内部シール

c) 動的追従性が±25%以内のもの

タイプ: ポリサルファイド, シリコーン, 一部ウレ
 タン

価格: 9~15ドル/ガロン

規格: ANS I 116 1a }
 FS TT-S-00227 } 2成分型用

FS TT-S-00230 (All Type) 1成分
 型用

19GP9 シリコーン

19GP15 ウレタン

FS TT-S-001543 シリコーン

19GP13 ポリサルファイド

19GP3 " (ウレタン)

用途: 動きの大きい目地 (ワーキングジョ
 イント) = プール, 二重ガラスのシール (ポリ
 サルファイド) 窓廻りシール, 歩行用目
 地 (ウレタン)

③北米におけるシーリング材の市場占拠率について

ポリサルファイド...35%
シリコーン...20~25% (ただし, 2成分型は
 ほとんど使用されていない)

ポリウレタン... }
アクリル... } 40~45%
その他... }

④良好なシーリング工事のために不可欠の条件

- a) 下地の状況
- b) 設計条件
- c) 技術データ (材料の)
- d) オーナー, 設計, GCなどのチームワーク

7. ワシントン

(1)全米住宅建材センター (NAHB) 訪問

このセンターは住宅建設業者 (大半は中小企業), 住
宅ローン業者 (金融), 建材業者, 住宅機器業者から構成
されており, 年間約150万戸の1戸建木造住宅を建設し,
土地の開発, 造成も行っているとのことです。住宅防水
については, ホームビルダーがアスファルト系シングル
防水, フラッシング, コーキング, 地下防水など行って
おり, またハウスの断熱については, ファイバーグラス
約9cm厚を使用しており, ガラスはストームガラスまた
は断熱ガラス (二重ガラス) とのことです。1戸建に木
造がほとんどなのは木造を好むからで, 例えば日本で使
用されているPC造りでは, さらに内装に二重に木造を
必要とするため使われないとのことであります。構造物
は10年間の保証付で, ビルダーが保険によって保証して
おりその他の部分は1年間の保証, 屋根防水はシングル
の製造業者が保証しているとのことです。ここでの1戸
当りの価格は4万5千ドルが平均で, ワシントンでは6
万ドル以上とのことですが, 先のサンフランシスコのフ
ォスター市の10~15万ドルの高級住宅よりは大部普及品

ということになります。

(2)国際防水シンポジウムへの参加

このシンポジウムは、防水に関する現在までの最大規模の会議とのことで、世界30余カ国から約600人の教授、建築家、防水業者が集合し、3日間にわたって発表や質疑が行われた。小池団長は第1日目の2番目に講演をされ、盛大な拍手を受けた。会議の内容はほとんどアスファルト系防水が主体で塗膜防水についてはわずかしが触れられていない。このシンポジウムでは、特に開催者側の好意で日本語の同時通訳が行われました（通訳は同行の藤丸氏）。

(3)ワシントン市内の防水現場

米国有数の防水業者プロスペクト社（Prospect Industries）の案内で、憲兵隊オフィスの屋上防水（アスファルトフェルト3枚鎧張り）と動物園の地下駐車場屋根防水（アスファルト冷工法）の2つの現場を視察しました。規模がそれほど大きなものではありませんでしたので、残念ながら機械力を駆使した、いわゆるアメリカ的な現場の様子は見るできませんでした。

8. ロサンゼルス

(1)ロサンゼルスの建物

ロサンゼルスはニューヨーク、シカゴに次いで高層ビルが多い方といえます。しかしここでは訪問予定がないため、技術的情報があまり得られなかったのは残念であり、特にアメリカにおいて地震があるのは西海岸側（ロサンゼルスなど）であるので、耐震テスト関係の情報を知りたかった所であります。

9. ホノルル

(1)ホノルルの建物

ホノルル市の建物およびワイキキ海岸の建物なども高層ビルですが、ほとんどがRC造りで、PCカーテンウォールはわずかしが見当りませんでした。

考察的まとめ

今まで各地区の建物の様子および設計事務所、シーリング材メーカー、原料メーカーなどの説明について書いてきましたが、最後にアメリカのシーリング事情についての考察的まとめを行いたいと思います。

北米におけるシーリング材およびシーリング構法を考察する時、常に念頭に置かなければならないことが2つあります。1つは北米と日本との環境の違いでありま

す。それは、日本は地震、台風、多い雨量、大きい温度差など4つの条件が非常にきびしい状況であり、北米では地震がある所は気候温暖で雨量は少なく、また温度差があつて風雨がある所は地震がないというように日本よりは常にゆるやかな条件にあることです。もう一つは工事をあまり信頼していないということです。これは、北米の職人組合であるユニオンショップ制度のためと、職人の人種の問題とも関連しているようです。したがって工事があまり信頼出来ないため、シーリング材としては2成分型より1成分型の方向へ、また2成分型でも混合し易い材料へと移行し、一方接着性においてもプライマーを塗布しないで済むシーリング材、すなわちプライマーなしの接着性の向上をねらっています。今までの説明の中で2成分型シリコンが出てこなかったのはこのためです。またアメリカから輸入された製品がプライマーなしで接着すると書いてあるのもこのためです。しかし日本の現在の接着性判定規準では、アメリカがよしとしている接着性程度では通用致しません。それは考え方の違いでもあり、またプライマーなしの接着が長期間の耐久性を維持するのはいかに難しいかを物語っております。したがって、アメリカでは工事が信頼できない、接着性はある程度しかないということで、外部の1次シールだけに頼るのではなく、排水装置プラス2次シールという構法がより必要であったということがいえます。

では、日本はどうかと振りかえりますと、シーリング材料および工事に100点が要求されています。確かに日本は北米に比べれば、プライマーの研究もシーリング工事の能力も非常に高いレベルにあります。これは北米の間人も認めている所です。しかし、現在の環境の中で常に100点をとれるとは限りません。もちろん材料も工事もまた環境（設計条件および現場条件）も常に改善する努力が重要であり、外部1次シールで出来るだけ長期間維持するのが理想ですが、一方北米におけるツーシールシステムの合理性を見習って行かなければならないと感じた次第であります。

後記 最後に調査団長の小池先生、同時通訳兼引率者の藤丸氏、主催者の新樹社および訪問先のトレムコ社、チオコール社他各社に誌面をかりて感謝の意を表する次第であります。

建築用シーリング材の標準色決定について

建築用シーリング材の色は従来統一されておらず、建物の設計者あるいはシーリング施工工事の発注者が主として建物全体の外観を損わないように、各シーリング材メーカーが標準化している製品の中から、あるいは必要に応じて特注色という形で選定され、使用されてきた。

しかし、メーカーのきめている標準色は、品質、性能が十分検討されたうえで設定されているが、シリコン、ポリサルファイド、ウレタンといったシーリング材の種類によっては、技術的な面からも色の選定は制限され、さらに使用者の側からみれば各メーカーにより色及び呼称の不統一からくる色の選択の不便があった。また、メーカー側からすれば、色を統一することにより、品種の統合整理、生産の効率化、品質管理の維持向上が可能となる。

こういった現状を踏まえて日本シーリング工業会では、現状の技術レベルで可能な範囲での各素材共通の標準色を設け、色と呼称の統一を計る目的で昭和49年に表1に示すような現状調査を行った。また標準色以外の特注色は全体の5%と推定された。

この結果をもとに日本シーリング工業会では、日本色彩研究所の応援を求め、加盟各社の標準色を解析し工業会としての基本色を定め、各社での十分な検討を経て、今回表2に示す標準色及び限界色の基準値を設定するに至った。

標準色はJIS Z8721にて解説されている通り、「色調」「明るさ」「あざやかさ」の三つの属性を表わす「色相」「明度」「彩度」をそれぞれ記号化し、色相、明度、彩度の順に、例えばブラウンの場合、7.5Y R4.5/3.5と表示されている。建築用シーリング材の色には当然、ある範囲で色の変化が許容されるので、実用上支障のない範囲で表3に示すように限界値が設定された。

日本シーリング工業会では会員各メーカーの準備およびユーザーへのPR期間を半年間と定め、実施開始を昭和53年4月よりとしている。

今後ユーザーの御協力を得ながら建築用シーリング材の標準色の設定を通じて、品質の維持、向上及び生産の効率化を計って行く計画である。

表1 建築用シーリング材の色と比率

色	販売高比率%
ブラック	15.0
グレイ	36.6
ブラウン、アンバー等	21.6
ホワイト	13.0
クリア	3.3
アイボリー、クリーム他	4
シルバ	3.2
赤 他	3.2

注) 昭和49—9日本シーリング工業会調査

表3 標準色および限界色の基準値

色名	標準色	限界色		
		色相	明度	彩度
ブラウン	7.5Y R4.5/3.5	±1.0	±0.5	±0.5
ダークブラウン	7.5Y R3.0/1.5	±1.0	±0.5	±0.5
ホワイト	N9	±1.0	-0.5	1以下
グレイ	N5.5	±1.0	±0.5	1以下
ブラック	N1.5	±2.5	+1.0	1以下

表2 共通標準色及び基材別標準色

呼称(色名)	ブラウン	ダーク ブラウン	ホワイト	グレイ	ブラック	クリア	アルミ グレイ
標準色(注)2 (記号)	7.5Y R 4.5/3.5	7.5Y R 3.0/1.5	N9	N5.5	N1.5	注)2 —	注)2 —
ポリサルファイド	○	○	—	○	○	—	—
シリコン	○	○	○	○	○	○	○
ウレタン	—	—	—	○	○	—	—
水性アクリル	—	—	○	○	—	—	—
水性SBR	—	—	○	○	—	—	—
ブチル	—	—	—	○	○	—	—
油性	—	—	—	○	—	—	—

注)1 JIS Z8721の三属性表示記号による

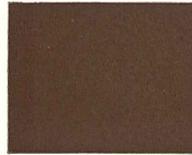
注)2 クリア、アルミについては別途基準を定める

建築用シーリング材標準色

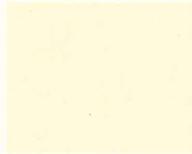
ブラウン
7.5 YR 4.5 / 3.5



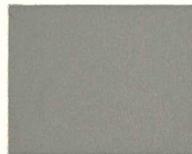
ダークブラウン
7.5 YR 3.0 / 1.5



ホワイト
N 9.0



グレー
N 5.5



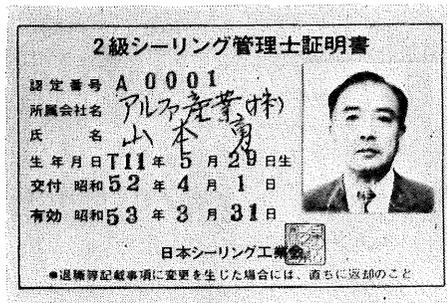
ブラック
N 1.5



シーリング管理士制度について

梅本 禎 治

日本シーリング工業会が、昭和47年より発足させたシーリング管理士制度は、適切な材料研究と道義心にもとづく工事管理の取組などの必要教育を受け、厳選され、毎年新知識の講習をくりかえし、現在434名が各地のシーリング防水工事の第一線で、施工管理の重責を担い、日夜奮闘されていることは誠に心強い次第であります。JASS（日本建築学会、建築工事標準仕様書）8防水工事、4節シーリング工事においても、この管理士による工事管理の必要性をのべられていることは、よろこばしいことであります。



2級シーリング管理士証明証（第1号）

有資格者は必ず常時携行することになっている

当工業会といたしましては、会員メーカーから市場に供給される各種シーリング材が適所に正しく使用され、期待されている防水性能を発揮するためには、設計段階においては、ジョイントとシーリング材の相関性の検討を始め、適材の選択を経済性より優先されるよう願うも

のであります。

従来、施工はシーリング材製造業者の工事部門として発足した経緯をたどり、現在では製造業者と分野を分け専門の地位を確保しています。設計段階で十分なる品質性能が評価され「適材」として採用されたとしても、施工段階で性能発揮のための工事管理がなごりにされた場合におこるトラブルはシーリング材への信頼をいちじるしく低下させるとともに、関係者に大きなご迷惑をかける結果となります。

当工業会が認定する「シーリング管理士」の評価は、年を経るとともに高まり、現今では官公庁関係工事、著名建造物工事契約における必要資格となっていることは、その重要性が認められていると言っても過言ではないといえます。当工業会としては、建造物の高層化と部材の多様化に対処するため、本制度のより充実と質的向上をめざし、本年度より従来のシーリング管理士を「2級」とし、改めてより高度で広範囲な管理能力を具備した「1級シーリング管理士」を養成し工事管理に万全を期すべく諸準備をすすめています。

「1・2級シーリング管理士」が高い道義心のもとにすぐれた知識をもって工事管理に、メンテナンスサービスに奉仕することによって、ひいてはシーリング業界の地位向上と発展に寄与することを信じて疑わないものであります。施工技能面では労働省職種認定による「シーリング防水技能士」が、昭和54年に誕生するのと相まって、シーリング工事はより充実し、質的發展をとげるものと期待しています。

「シーリング管理士」に関する規約および解説

第 1 条 (目的)

「シーリング管理士」は、水密・気密保持に関するシーリング材の重要性にかんがみ、設計施工を通じた技術の向上に併せて、業界の地位向上を図る目的のため、日本シーリング工業会（以下工業会という）が設けた資格制度の一つである。

当工業会は、会則により、業界振興のため各種の事業を行なうことになっており、この制度もその一環であり、本項は「シーリング管理士」制度の目的と根拠を明示している。

第 2 条 (シーリング管理士の種類と職務)

「シーリング管理士」は、「1級シーリング管理士」ならびに「2級シーリング管理士」の2種類とする。

「1級シーリング管理士」は、現場施工管理能力を有し、シーリング材の性能・品質・施工方法に十分な知識ならびにシーリング材工事において、技術指導能力をそなえた者である。「2級シーリング管理士」は、シーリング工事において、技術指導能力を有し、シーリング材の性能・品質・施工方法について必要な知識をそなえた者である。

本条項でシーリング管理士を1級シーリング管理士および2級シーリング管理士の2種類とし、それぞれの職務分掌を明確にしている。

シーリング管理士を2種類設けたのは、本来シーリング管理士は、相当高度の現場施工管理能力と、施工能力を兼ね備えたものでなければならないが、また全般の施工技術の向上のためには、できるだけ多くのシーリング技能士に、技術知識修得の機会を与えるためである。現場の施工管理とは、施工前の段取り、工程管理、資材管理、安全管理など直接施工以外の種々の仕事である。シーリング工事の技術指導とは、現場条件と使用材料の適否のコンサルタントを意味する。

すなわち、各種材料の特徴に精通し、適材を適所に使われるよう設計者にアドバイスできなければならない。なお、能力があっても実行する意志の弱いものでは適当でないことはもちろんである。

第 3 条 (シーリング管理士の認定)

シーリング管理士検定委員会（以下検定委員会という）は第2条に基づき講習ならびに検定試験を毎年1回実施し、これに受講、合格したものを工業会はシーリング管理士として認定する。

シーリング管理士検定にあたり、工業会の組織の一部として、シーリング管理士検定委員会を設置し、この委員会は、工業会の内部のみならず、広く外部の方々も含めて構成し、シーリング管理士制度を権威ある充実したものにするを目的とする。

検定委員会は講習のカリキュラム、検定試験問題の作成、講習ならびに検定試験の推進、シーリング管理士の合否の判定を行なう。資格を与えられる者の条件として、検定委員会が行なう講習を受けることと、試験に合格することの二つが絶対条件である。

第 4 条 (受験資格)

受験資格者は、日本シーリング工事業協会会員会社に属し、人格識見を有するもので所属する会社代表者の推薦を必要とする。

1級並びに2級シーリング管理士の受験資格は下記とする。

第1項 1級シーリング管理士受験資格

- (イ) 実務経験年数7年以上または2級管理士資格取得後3年以上の経験を有する者
- (ロ) 年齢は25歳以上の者
- (ハ) ゴンドラ運転の特別教育修了証所持者、特定化学物質等作業主任者の資格を有する者

第2項 2級シーリング管理士受験資格

- (イ) 実務経験年数3年以上を有する者
- (ロ) ゴンドラ運転の特別教育修了証所持者

とくに本条において、受験資格者を日本シーリング工事業協会会員会社に所属するものと規定した理由は当工業会は同協会を唯一のシーリング工事業団体と認め、同協会の自主認定制度が確立するまで当分の間、シーリング管理士制度を通じて同協会会員各社の中堅指導者を養成しようとするもので、特に対象者を同協会会員会社に所属するものに限定する。

また本条で人格識見を規定にうたったのは、推せん者が最も判定しやすい位置にあることにより推せんの責任を促している。本条第1項および第2項で第2条に基づく1級および、2級シーリング管理士の職務遂行に必要な基礎的な資格を定めている。今後の問題として、国家認定の防水技能工が誕生した場合、防水技能士との資格調整のため本項に追加修正せられるべきものと考えられる。

第5条 (資格の限定)

「シーリング管理士」は、日本シーリング工事業協会会員会社に所属するものに限り、この名称を使用することが出来る。

本条はシーリング管理士の資格呼称の限界を示している。

第6条 (資格の更改)

シーリング管理士は2年毎に資格の更改を行なう。

更改に際しては、検定委員会で定める技術向上を目的とする講習を受けねばならない。

講習に不参加であったものは、年間資格を停止し、次年度の講習を受けその資格を復活できるものとする。資格停止者は速やかにシーリング管理士証明書を工業会に返却しなければならない。

資格停止者が次年度に講習を受けなかった場合は、その資格は取り消される。

本条は資格取得後の技術修得を義務づけている、年々進歩する高分子化学技術に追随しなければならない。しかし資格取得者がやむ得ぬ理由により更改のための講習に受講できなかった場合の救済として次年度の受講によって資格復活の道を開いている。

第7条 (シーリング管理士証明書の返却)

シーリング管理士が所属する会社を退職する場合は速やかにシーリング管理士証明書を工業会に返却しなければならない。

第8条 (シーリング管理士証明書再交付申請)

第7条によりシーリング管理士証明書を工業会に返却したものが、新たにシーリング管理士の証明書の再交付を希望する場合は、改めて所属会社代表者の推薦書を付して工業会に申請する事ができる。

第 9 条 (シーリング管理士証明書の再交付)

シーリング管理士証明書再交付申請を受けた場合、工業会は所定の審査の上再交付する。

前7, 8, 9条は、シーリング管理士制度運営について特に証明書の取扱いを具体的に定めている。この制度における資格は、個人のものか否かについては、多分に疑惑をはさむものも多いと考えられるが、制度そのものが当工業会の責任において行われるものである限り、工業会の趣旨に賛同する日本シーリング工事業協会会員会社に所属するものを対象としており、それをはなれた場合は、この資格を行使する権利はないものと解釈している。

なお第8条の推せん者は、日本シーリング工事業協会会員会社代表者であることは当然である。

第 10 条 (資格の取消し)

「シーリング管理士」が不法行為などにより著しく体面を汚した場合はその資格を取消することができるものとする。

本条は、資格剥奪について定めているが、不法行為とは次のようなものをいう。

- (イ) 管理士の資格を行使して、管理士にあるまじき不法行為（例えば明らかな本人の技術上のミスおよび怠慢などによる欠陥作業、施工基準、安全基準などを無視した行為）などにより第三者に損害を与え、あるいは工業会に迷惑をおよぼした場合。
- (ロ) 精神的、肉体的欠陥などにより準禁治産または禁治産者などの宣告をうけた場合。
- (ハ) 反社会的行為などにより、法律に違反して起訴され、罰せられた場合。

体面とは、工業会が制定したシーリング管理士としての体面をいい、ひいては工業会全体の体面をいう。

第 11 条 (資格者への特典)

シーリング管理士資格者は工業会が発行する「シーリング誌」その他に掲載し、シーリング関係業界にPRを行なう。

本条は資格者への特典として工業会が、シーリング関係業界に種々の機会をとらえ、シーリング管理士制度のPRを行ない、シーリング管理士が有利になるよう努める。

日本シーリング工事業協会ならびにシーリング管理士所属事業主もシーリング管理士にふさわしい権限と特典を与えられることを希望する。

第 12 条 (その他の事項)

前各条の外、運営上必要な細部事項については別に定める。

本項は、工業会における本制度運営に必要な細部基準を内規で定めることにしている。内規の内容はおおむね次のようなものである。

- (1) テキストの作成に関するもの。
- (2) 講習会に関するもの。
- (3) 試験に関するもの。
- (4) 認定書、証明書、バッジに関するもの。
- (5) 受験申請に関するもの。
- (6) 管理士名簿（台帳）に関するもの。
- (7) 管理士再訓練に関するもの。
- (8) 管理士の公報に関するもの。

追補 新規約発効と同時に従来シーリング管理士は新規約による2級シーリング管理士にこれを切替える。従来シーリング管理士でゴンドラ運転の特別教育修了証を所持しないものは、新規約発効後1年以内に取得すること。

従来シーリング管理士資格の有効期限は、昭和52年3月31日までとする。

本規約は昭和52年4月1日より発効とする。

2級シーリング管理士名簿

東京地区

会 社 名	氏 名
アルファ産業(株)	山本 勇, 宮代 博, 奏 達也, 五十嵐男, 大滝満夫, 宮下勝正
伊藤建材(株)	島村初義
石黒建材社	石黒一司, 石黒勝己
臼倉建材工業(株)	臼倉基祐, 小田垣春次, 牧野喜久雄
協和シーリング工事(株)	手塚 透, 手塚 功, 安達定雄
木元工業(株)	木村元保, 川又善行
(株) 栗崎工業	栗崎堅司, 栗崎 守, 池田宏造
グローリー防水工業(株)	鈴木秀世, 吉楽盛久, 武藤彰啓
光栄工業(株)	内田鴉鳩, 工藤幸男, 富永和徳, 生野好美, 工藤富男, 竹田剛士, 富永亀朝, 西守義治, 久松 昭, 刑部孝造, 甲斐廣昭, 川端徳重
興進工業(株)	五十嵐志郎, 近藤 護, 山村辰志
(株) 工業技術研究所	鈴木裕二, 桜井広英
山栄工業(株)	宇山松年, 栗田達明, 柏瀬謙一, 横田秀清, 金子博美
三和工業(株)	土田善登
(株) 新 堂	玉木一雄
(株) シーラント	三上正道, 中山 昇, 菅原廣志
清起工業(株)	柳沢英雄, 柴田 直, 橋本 東, 大和 博, 柴田 裕, 戸崎 進, 小淵信夫
セメダイン建設工事(株)	中里見昭義, 倉田吉三, 西瀧秀男, 小日向日出男, 伴野時男, 中野 茂
(株) 大栄興業	五味作之助, 渡辺和夫, 石垣政見
大和興業(株)	淵上 正, 坂元久光, 児玉 勝, 米満節夫
高萩興業(株)	宮崎 勲, 田幡健一, 佐川保嗣, 石井正夫
第一建材工業(株)	青島邦光, 富岡茂夫
中央建材工業(株)	渡辺昭悟
東邦シール(株)	須摩哲朗
東邦防水総業(株)	広瀬忠夫
細田工業(株)	山田 猛, 平 安男, 新野良樹
(株) 丸福産業	福間繁芳
マサル工業(株)	中村允彦, 木村芳孝, 山田明宏, 佐藤寿宏, 村山美二, 塚本 弘, 中沢文隆, 宮川文雄, 雪入 毅, 佐藤義政
(株) マツダパラウォータ	福山政隆, 松田和彦, 田爪千明, 重松清木, 鈴木芳夫, 山本信春
(株) 山形防水	下之菌修
大和工業(株)	佐藤 功, 志田大三, 横山健人
理建シール(株)	広瀬啓二, 室井幸雄, 室井義春, 木村正一
瀝青建材(株)	折内 元, 嶋崎裕一
鹿住防水工業(株)	中島賢吉
東都シール(株)	弾塚省吾
(株) 日本コーキング	北原寧久, 吉無田泰長
三矢興産(株)	塚越利和, 原田俊二, 能登 始
(株) 田代工業	田代秀士, 田代正明, 田代留雄
平沢コーキング工業(株)	平沢敏男, 平沢哲雄, 石田 実, 水越茂雄

名古屋支部

会社名	氏名
(株)朝日コーキング	石田 隆, 吉田久由, 道家 諭
石動コーキング(株)	三浦 忠, 佐藤富士男, 安川敏雄, 萱原 寛, 仁村 孝
エイト工業(株)	岡 智康, 大久保安伸, 木村次郎, 木村龍雄
(株)栗原	栗原 弘, 毛利邦彦, 池田茂夫, 今村邦夫, 山下晴夫
三信建材工業(株)	久米修己, 竹下麻男
(株)志水化工	小川雅也, 栗戸 裕, 石川富夫
(株)清谷商店名古屋	清谷貞行, 川口輝男
ソフランシール(株)	渡部 将
隆志建工(株)	大野隆正, 尾藤 勝, 加藤隆夫, 大沢弘実
中央建材工業(株)	伊藤 篤, 児島正宜
大信工業	宮崎 進, 徳永治夫
朝日建物(株)	朝倉英心, 梅村 浩, 石村静夫
丸協ガラス	大田敏明, 藤島陽治, 高野光男, 見角 弘, 吉野憲一, 北村憲三
津田硝子(株)	竹田正始, 林 隆英, 竹田久次郎, 野村慎哉, 滝上次一, 老松啓二
(株)名岐	西垣 栄, 早矢仕修, 平山 勲, 浅井末義
フジ工業(株)	豊島秀雄, 小林哲錕, 河原昇一, 川合久雄
(株)ビルメン	岡 志朗, 五島政美, 伊藤 栄, 山崎清孝, 守山彰治
森建材商行	森 哲夫
中村コーキング店	中村一音, 笹野達臣, 笹野伸也, 中村 武
石渡産業(株)	百瀬秋彦, 山岸 潔
名古屋日本化成(株)	山口孝志
ムラセ工業(株)	村瀬光雄, 村瀬 守, 植村 覚, 柴倉 誠, 蓑島豊作
(株)仙嶺	井戸田勇, 五島 一, 小沢保明, 吉川 満, 五島稔勝, 井戸 清
不二興業(株)	岡本幸男, 宮本宗勝, 大滝幸雄
不二化成品(株)	望月啓司, 野末不二男, 小田勝久
(株)静岡コーキング工業	堀川信明, 大木勝実, 太田廣道

大阪支部

会社名	氏名
相田シーリング工業所	相田 修
安芸工業(株)	安芸増雄
イサム商会	溝渕 勇
エマール工業(株)	赤井和男, 坂中俊彦
大阪アルファ産業(株)	内田勝久, 西原恵二, 沢田亮平, 寺岡 保, 秋山 哲
(株)大阪シール	阪井敏夫, 田井 修, 上野幸二
(株)大阪防水工業所	佐伯忠雄, 水口峰彦
大阪ユニロン(株)	伊藤昌宏, 山本 勇, 藤原彦久, 金山満昭, 菱田 稔, 佃 尚亮, 藤原義彦
勝友商会	岸 勝美
(株)京都シール	竹田征司, 佐藤幸保, 小西睦男
共立産業(株)	松山駿三, 妻藤秀光
建和産業(株)	津川忠義, 小西秀夫
(株)高分子工材	大西孝典, 益田憲司, 松川光雄, 西中一幸, 山本武雄, 矢野照典, 矢野光男
神戸建設(株)	高木 修
興和工業(株)	近藤次男
三大工業(株)	大西利昭, 矢野健三, 間瀬啓三
三幸物産(株)	横谷興彦

三洋建材(株)	木村 優, 木村浩三, 木村 隆, 工藤末喜
椎名コーキング商会	歳川 博
嶋沢シーリング商会	北川和弘
昌栄建材	和田司朗, 緒方 隆, 亀井一身, 柳田喜世志
昌光産業(株)	松本文雄
城内商店	城内光男, 古市正臣, 牧野昌之
摂津シール	樋屋邦夫
(株)大一防水工業	上田三朗, 上田正義
(株)大協建材	吉田 功, 林 忠雄
大信防水工業(株)	今井 知, 相原義徳, 板東正広, 堀川剛光, 山崎俊介
(株)大日建産	大畑 稔, 田中 健
(株)テンジョウ	秋田隆男, 橋本建造, 藤倉謙二
(株)東光商会	岡田城治, 王 春彦, 志水利達
(株)東洋防水	長谷部健, 大田健治, 横道哲幸, 谷口忠文
日建瀝青工業(株)	白髭 稔, 新谷高雄
日添工業(株)	岡部哲夫
日東工業(株)	上田 弘
日本化成工業(株)	山村博司, 戸田隆司, 三谷孝一, 岡田良平, 飯田一己
日本三立産業(株)	佐々木勉
日本シーラント工業(株)	丸尾光弘
(株)ノゾエ技研工業	野添博司, 山本数人
白洋建材(株)	竹永郁二, 西川英雄, 松本俊大, 天笠 靖, 足立孝男, 井上信夫
播磨商会	前垣内和年, 嶋沢祐掖, 杉野輝行
パンボー工業(株)	原 良一, 西村正二
美星工業(株)	竹井 武
富士化成工業	西元照蔵, 森田武司
藤川商店	押川正利, 山下正三
富士防水工業(株)	宮本悦宏, 宮本憲一
(株)豊栄シール	紀の川進, 山本正義, 藤永典弘, 笹崎幹雄, 梅本 勇
松下防水工業所	松下明男, 松下文吉
美作工務店	小林三千勝, 橋本富美雄, 小谷英昭, 小坂田敬三, 万代日出夫, 森田敏信
八尾コーキング	安野紘昭, 中元幸弘
(株)山建	山本五郎, 山本雄志, 堀川博節, 平山正俊
(株)吉川美装商事	吉川博康, 岩崎幸一
加賀屋工業	能沢正弘
松田商店	藤本利喜也

福岡支部

会社名	氏名
大阪アルファ産業(株)	篠原隆治
大栄(株)	井手尾靖彦, 佐藤清春, 時吉勝也
九州特殊工事(株)	竹下邦友, 松村光章
昭栄工業(株)	河野誠剛, 木下一隆
昭和日本化成(株)	高津猛比古, 田口良孝, 吉川繁満, 村山敏雄, 嘉村 昇, 村田安利, 福島則義
テイバ化工九州販売(株)	富永 広 青野隆明, 青野博文, 内布 汎, 米坂和義

日本シーラント工業所 (株)野田工業所 (株)南九州エービーシー商会 (株)ムトウ 山崎工業(株) (株)山崎商会	竹内聖二, 中村 碩 竹ノ畑靖彦, 野田恒忠, 諏訪憲雄, 荻野高美, 江藤音輝 浅谷二郎, 洲脇修身, 大野末雄 武藤 貞, 橋原征雄 迫田睦男, 浜村清男 山崎 一, 藤谷善継
--	---

広島支部

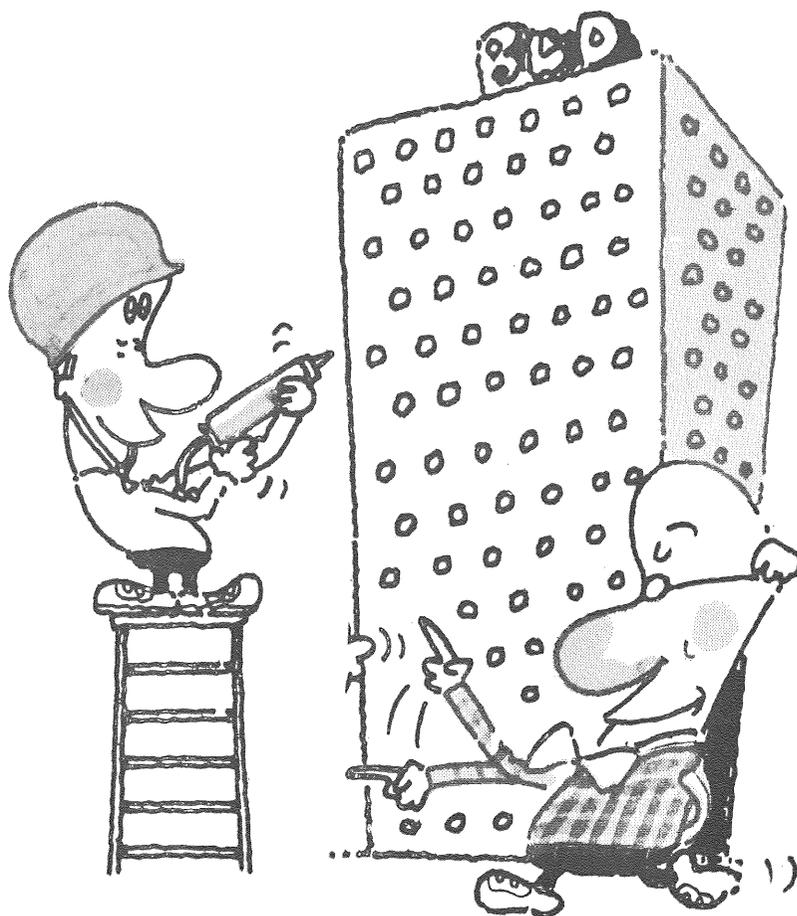
会社名	氏名
(株)青山工業	青山 巖
青盛建材(株)	阿村正昭, 月本満俊, 森 清勲
(株)サンゼオン防水工業所	佐々木守
日化工材(株)	宇治邦彦
昭和工業(株)	岡 実, 舛田久夫, 川本和敏
東中国防水工業(株)	小野田毅, 加藤 孟
(株)マルエス工業	澄川 昇, 小野田真治, 原 俊之
中国特殊防水産業(株)	海部 肇, 海部信章, 勝代伝三郎
(株)三洋技研	上川源治, 谷岡卓爾
(株)高知防水センター	神崎勲男
三和防水工業(株)	久保正男
大阪アルファ産業(株)	林 利明, 高山寿男
旭建材工業(株)	米今達雄
大和防水(株)	平川宜明, 平川典明, 山尾 巖, 石井弘幸
アイシン工業(株)	土居通雄
丸福建材工業(株)	長嶋隆良
青森建材(株)	馬場吉光, 福原克彦
三和防水工業所	木村敦兆

北海道支部

会社名	氏名
北海道タイホー(株)	岡 輝夫, 佐藤健一郎, 太田靖彦, 鳴海忠義, 長尾忠幸, 加藤 忠, 鈴木忠利
(株)シーリングサッポロ	堂野寿昭, 堂野雅穂, 長谷川良三
(株) 浜 建	下井 守, 佐藤俊和, 加藤隆弘
東洋防水工業(株)	小野寺寛
北海コーキング(株)	斉藤浩一
佐藤研究所	船瀬隆雄, 佐藤和夫
(株)北日本コーキング	栗林 弘, 池田博介

シーリング材をひっさげて
構造物の水密・気密に挑戦する

ニットーポリマー



日東ポリマー工業株式会社



本社 ☎660 尼崎市琴浦町 75-1 ☎(06) 418-7421
本店・営業所 ☎553 大阪市福島区吉野 1-41-2 ☎(06) 448-7421
東京営業所 ☎135 東京都江東区平野町 1-6-1 ☎(03) 643-5146
尼崎工場 ☎660 尼崎市大浜町 2-5-1 ☎(06) 417-7421

シーリング材にも「適材適所」

- 耐久性が抜群のトーレ・シリコン建築用シーラント。
用途に応じてお選び下さい。

ガラス回りに、サッシ回りに……

SH780
SH781



カーテンウォール等、深目地に……

SH790
SH792



類をみない追従性と接着安定性にご注目ください。

品 種	SH780	SH781
成 分 型	1成分型	1成分型
反応タイプ	無酸タイプ	酢酸タイプ
特 長	酸を発生しないので腐食性がない。タックフリー時間が長い。	接着力大。タックフリー時間が短い。
用 途	ガラスまわり、サッシまわり、コンクリートモルタル、プレコン、大理石などの石灰質、木材、鉄、銅など。	ガラスまわり、サッシまわり、ガラス、タイル、ホウロウなどや酸におかされない金属類などの表面のなめらかなもの

品 種	SH790	SH792
成 分 型	1成分型	2成分型
反応タイプ	無酸タイプ	無酸タイプ
特 長	低モジュラス、接着力大。	低モジュラス。
用 途	カーテンウォール目地など、大きな動きの目地。	動きの大きな目地。また深目地に最適。

★色数も豊富にそろっていますから、ご自由にお選びいただけます。



トーレ・シリコン株式会社

本店・東京営業所 東京都中央区日本橋室町
2-8 (三井ビル6号館)
TEL 03 (243) 1551代表
大阪営業所 TEL 06 (373) 6801代表
名古屋営業所 TEL 052 (563) 3951代表

九州営業所 TEL 092 (712) 6158代表
仙台営業所 TEL 0222 (27) 9528代表
広島営業所 TEL 0822 (49) 7811代表
北陸営業所 TEL 0762 (23) 1585代表
千葉営業所 TEL 0436 (22) 5743代表

資料
請求券
S15.78.1

職業訓練技能検定制度の

現況と今後の推移について

(その2)

山 本 勇

1. 防水施工科技能検定制度の 経過概況

昨年本誌第14号では、防水施工科の職業訓練および技能検定制度の意義とその概要ならびに当日本シーリング工事業協会（以下日シ協と省略）の本制度に取り組む姿勢現況などについてお知らせ申しました。今回は私どものシーリング防水施工科の技能検定制度準備状況の推移を中心テーマとして報告させていただきます。

昭和52年2月アスファルト防水業種の第1回技能検定制度が終了、3月にはわれわれ防水業界では引続き、おなじ面防水系統ということで、塗膜防水（ウレタン防水）、シート防水（合成ゴム系、塩ビ系の2種）の2防水業種の技能検定制度実施を内示、52年8月末に省令第26号をもって上記2業種の実施が正式に官報に告示されました。したがって塗膜、シートの両業種は52年11月下旬実技試験が実施されることになりました。この間、当日シ協としては、全防連協力のもとにモルタル防水業種とともに労働省技能検定制度課に対し、シーリング、モルタル両業種の技能検定制度実施推進方を懇請し、52年8月やっと上記業種とも53年後期（表-1参照）実施の決定すとの内示を受けるにいたったのであります。顧みると足掛3年、待望の知らせとなったわけです。

2. 技能検定制度受験準備の概況

1) 日シ協技能検定制度委員会の準備状況

日シ協は全国組織（東北地区を除く）6支部制で、各支部に本委員会が組織されており、技術委員会と協力して本部指導のもとに受験体制の準備を推進しています。

日本シーリング工事業協会会長

表-1 経過の概況

年 月	備 考
52年1月～4月	全防連技能検定制度委員会、日シ協同委員会にて試験基準とその細目の原案作成（シーリング防水、モルタル防水）
52年5月	上記基準とその細目案を検定制度課に提出、検討を願うとともに受験準備状況の説明を行う。
52年6月	①シーリング防水（池袋開発センターサンシャインビル）モルタル防水（赤坂某ビル）にて検定制度官立会の実技現場検討会を実施 ②板橋職訓校にて塗膜、シート両防水業種の労働省主催により試行試験が実施された。
52年7月～8月	労働省中央審議会にてシーリング、モルタル両防水業種の昭和53年度技能検定制度実施の可否が検討され、上記のごとく実施決定となった。

主な委員会の活動内容は次のようなものです。

- (イ) 技能検定制度試験基準範囲とその細目の衆知徹底
 - (ロ) 1, 2級実技, 学科問題の内部研究会, 講習会の実施
 - (ハ) 地方自治体, 検定制度協会, 同業団体間との連絡と協調
 - (ニ) 都道府県別受験者数の把握と整理, および試験実施方法の具体案の作成, 実施のための予算措置
 - (ホ) 支部管轄内, 技能検定制度推進実行委員会組織の結成および指導
 - (ヘ) 本部専門調査委員の選出
- 2) 実技問題案の準備状況

日シ協では、後日選出を依頼されるための準備として52年6月専門調査委員準備委員会を発足されました。（委員長以下9名の構成である）委員中実技担当委員の検討により作成した実技問題第1次案を52年9月労働省検定制度課に提案し、保管の意見を聴取、再々度にわたり修

正し、現在最終案を作成中で、その内容の骨子は次のときのものである。

- (イ) 労働省検定課の指示による予算内で実施しうる試具とすること。
- (ロ) 1, 2級の技能格差の評価が明確であり、評価方法が公平かつ公正になしうる内容の問題であること。
- (ハ) 施工所要時間は1級で2時間～2時間30分、2級で2時間以内の問題とすること。
- (ニ) 被着体、充填材料はなるべく実際現場状況に合致すること。案としては、被着体はアルミ（金属）ガラス、コンクリート系、石材系とし、使用材料としては、2成分型よりポリサルファイド、1成分型よりシリコーンおよびアクリルの3種のシーリング材を採用した。

3) 学科問題準備状況（内部講習模擬テスト用）

52年8月、日シ協技能検定委員会において作成した。試験の範囲基準および細目案を労働省検定官に提出、検討審議をお願いした。52年9月同案が修正返戻され、専門調査準備委員会で再検討、52年10月再度労働省側に提出、一応了承受理され、後記する正式専門調査委員会に附されることとなった。

上記基準案は学科訓練の基本内容をもつもので、準備委員会では直ちに内部講習用学科問題作成作業に入り、52年12月これが完成、傘下各支部技能検定委員会に講習資料として配布を完了した。その内容の骨子は下記の通りであります。

- (イ) 労働省認定防水施工教科書および試験基準の範囲およびその細目案に準じた全ての内容がもうらされていること。
- (ロ) 試験基準の範囲の1項目に対し、3問以上作成し数回テストできる内容としたこと。（評価について専門家の指導をいただいている）

4) 専門調査委員会組織の発足

専門調査委員とは労働大臣の諮問機関である職業訓練中央審議会内におかれ、職業訓練基本計画および職訓、技能検定に関する専門的事項を調査する役割を担当する。労働大臣の任命で非常勤国家公務員として任期は一応2カ年とされている。

具体的には前記した試験基準案と細目を検討して、実

施のための官報告示を発令するまでの作業を担当するわけです。

52年9月27日労働省職訓局長名をもって全防連を通じ、日シ協に対し技能系専門家として6名の選出依頼があり、52年10月20日前記専門準備委員中より、6名を委嘱選出しました。

53年1月以降本作業に入り、試験実施期には試験検定官として委嘱されるようである。

5) 今後のスケジュール予定表

予 定 年 月	実 施 項 目
53年1月～3月	実技問題内部研究テスト（検定官同席）
5月～6月	実技問題試行試験（労働省検定課主催）
6月～8月	実技の再検討（評価方法、テスト方法ほか）
9月中旬	技能検定試験の公示（53年後期、各地方自治体）
10月下旬～11月上旬	技能検定受験申請の受付（53年後期各地方自治体）
11月中旬	実技問題の公表（53年後期、各地方自治体）
11月下旬	実技試験施行（1, 2級共、53年後期、各地方自治体）
54年2月中旬	学科試験施行（1, 2級共、53年後期、各地方自治体）
3月下旬	合格者の発表（1, 2級共、53年後期、各地方自治体）

3. ま と め

昭和52年度は昨年に続く建築産業の不況に伴う材工価格の悪化を招来し、当日シ協会員は全国的に悪戦苦闘を続けております。支払い条件の低下は、さらに企業の存続をもおびやかさんと迫りつつあります。技術的にはシーリング工事の漏水保証問題が大きく提起され、今後の対策をいかにすべきか、53年度におけるわれわれに課された重要事となることと思ひます。

しかし保証の真の意義を考えた場合、帰するところ、技能と技術の開発向上に熱心に取り組んでいくことが、われわれを守る一番の鍵であると感ずる次第であります。

本制度実施にはご了承いただけると存じますが、担当の経済的負担が必要とされます。われわれ日シ協会員が技能技術の両面向上に傾ける情熱と努力を多とされ、関係業界の皆様方に深いご理解と力強いご支援ならびにご協力を心よりお願い申し上げます。

東日本シーリング工事業協同組合の 現況について

福 間 靖 明

東日本シーリング工事業協同組合を昨年の6月に結成し1年半を何とか経過してまいりました。

日本シーリング工事業協会東京支部より独立して、当初より参加していただいた20社の組合員でスタートいたしました。

その後、組合員も増加して現在では50社の組合員を擁するほどに成長いたしました。

結成当初、事業計画を立て各事業ごとに委員会を設けました。委

員会とは、受注、購買、金融、技術、保険、職訓技能、総務と7委員会を組織し、各委員会に担当理事、委員長を置き、各組合員とも必ず7委員会の1つに属し、委員長を中心に事業活動の活発化を計ってまいりました。特に保険委員会は、防水、シーリング業界初のシーリング賠償責任保険を保険会社とタイアップして作り、建設業界にPRし、また組合員により多く活用してもらうように頑張っても

らっております。

今までの組合の経過を見てみると、まだ親睦の枠を脱し切れないうちにみえます。また組合員の、組合そのものに対する理解がなされていないように思われます。これはシーリング材料メーカーおよび販売店の皆様にも同じように言えることであります。

今後はシーリング業界の発展のためにも組合の長所・短所をよく研究し、みなさま方に理解をしていただくためにも話し合いの場を多く持ち、組合がよりよき方向に前進するよう、みなさまのご協力をお願い申し上げます。

(東日本シーリング工事業協同組合理事長)

東日本シーリング工事業協同組合

〒135 東京都江東区深川2-15-23 小泉ビル2階 204号
電話 03 (641) 9 5 6 1 ~ 2



組合員は、シーリング材料の特質を生かします。
組合員は、設計を尊重します。
組合員は、本物のシーリング施工を致します。
組合員は、施工について損害保証を行います。

＝役員＝

理事長 福間靖明
理事 山本勇
理事 水上洋
理事 水谷勝
理事 苅谷正雄
理事 堀江正雄

理事 内田鶴
監事 栗崎堅司
監事 細田直司
専務理事 峰岸常雄

◆建築用シーリング材市販製品一覧表◆

ポルサルファイドシーリング材

一般にポリサルファイドシーリング材は1成分型と2成分型とに分けられるが、新JIS A 5757では2成分型を対象に規定している。これは我が国では、一般に建築用ポリサルファイドシーリング材は、大部分2成分型が使用される現状に基づいたものである。

2成分型ポリサルファイドシーリング材は、主剤および硬化剤からなり、主剤は液状ポリサルファイド、充填剤などを主な原料とし、硬化剤は金属酸化物などを主な原料とし、それぞれよく練り混ぜて均質にしたものである。

主剤および硬化剤の混合割合はメーカーにより異なるので、使用時は指定された混合比になるように正確に秤量しないと硬化が早過ぎたり、硬化しなかったりする。通常ほとんどの製品が秤量の手数を省くために、2液をそれぞれ適量づつ缶入りにして組合せ、使用時に全量を混合すればよいようにしている。

〔特徴〕

- ・耐水、耐酸性、耐老化性にすぐれている。
- ・耐熱性はポリウレタンとシリコンの中間的な性能を有する。
- ・引裂抵抗性が大きい。
- ・プライマーの使用により、多くの建築材料に接着可能である。
- ・施工時の環境温度により可使時間、硬化速度が変化する。
- ・石材に対し汚染の危険のあるものがある。

〔取扱い上の注意〕

- ・2成分型の場合、混合比はメーカーにより異なる。事前に確認して、指定された混合比で混合する。
- ・メーカーによっては可使時間を季節により変更している場合があり、使用時に確認する。特に季節の変り目に注意が必要。
- ・貯蔵期間は通常6カ月である。貯蔵期間を過ぎたものは使用をさけた方がよい。また貯蔵は冷暗所で行ない、高温、直射日光はさける。
- ・混合時シンナーなどの添加はしない。
- ・低温5℃以下の施工はさけること。
- ・プライマーは必ず使用すること。プライマーの選定は慎重に行なう必要がある。

会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考
アサヒボンド工業(株)	101~108	グレー、黒、白、ブロンズ、ライトブロンズ、アンバー、ライトグレー	5kgセット	10:1	1.70	
(株)エーピーシー商会	チオコーク	グレー、他4色	3.5ℓセット缶 14ℓセット缶	10:1	1.54	JIS指定製品
カネボウ・エヌエスシー(株)	KBK P-5000	ブラック、グレー、ブロンズ、クリーム、ブラウン、アンバー	5kgセット	10:1	1.62	
関西パテ化工(株)	ハイトシール	グレー、ダークグレー、アンバー ブロンズ #1 ブロンズ #2、黒	セット丸缶入 4kgセット	10:1	1.60	

ポリサルファイドシーリング材

会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考
鐘紡合成化学(株)	ゴレックス P-5000	グレー、ブラック、 ブロンズ	基剤 10kg 硬化剤 1kg 基剤 5kg 硬化剤 0.5kg	10:1	1.62	
	ゴレックス P-5200	黒	基剤 23kg 硬化剤 2.3kg			
コニシ(株)	ボンドシール #10	白、グレー、黒、 アンバー(1~5)	5kgセット	10:1	1.60	
サンスター 化学工業(株)	ベタシール #169	グレー、他5色	5kgセット	10:1	1.65	JIS指定製品
三英ポリマー工業(株)	リバーシラー	グレー、白、黒、 アンバー	5kgセット	10:1	1.55	
三洋工業(株)	スリーコール	グレー、ブラウン	5.5kgセット	10:1	1.54	
昭和石油 アスファルト(株)	フジチオコール	各色(6色)	4ℓ	10:1	1.60	
住友スリーエム(株)	ウェザーバン ビルディング シーラー	黒	3ℓ IN 4ℓ	100:12	1.53	
		グレー		100:7	1.68	
世界長(株)	セカイチョー シーラーTH	グレー、他7色	5kgセット	10:1	1.57	SM-I-A-N
セメダイン(株)	ポリシール	グレー、黒、ブロンズ アンバー3色	3.25ℓセット	10:1	1.35	
大和高分子工業(株)	ダイワシール #700	グレー、他4色	基剤 5kg入 硬化剤 0.5kg入	10:1		主剤 1.55 加硫剤 1.96
テイバ化工(株)	ボニーシーラー PS-2000	グレー、ブロンズ、黒	3ℓ缶	100:8	1.50	JIS指定製品
(株)東京ボース工業社	ボースコークPS	グレー、アンバー	2kgセット 5kgセット	10:1	1.50	
日本添加剤工業(株)	ファインシーラー #300	グレー、ブロンズ、黒 白、アンバー、他	5kgセット	10:1	1.54	S.MCG-I-A-N
(株)日興社	ニッシール	白、グレー、ゴールド アンバー、ブロンズ、 黒、ライトアンバー	ガロン缶	10:1	1.51	
日東ポリマー工業(株)	ニッターコーク #300S	グレー、アンバー、 ブラウン他	5kgセット	10:1	1.4~1.5	
日本ベルノックス(株)	ビスコール A-40	{グレー、ブロンズ、 アンバー、黒 グレー グレー	5kgセット	10:1	1.60	セルフレベリング セルフレベリング
	ビスコール A-150			100:15	1.30	
	ビスコール A-160			10:2	1.55	
日本シーカ(株)	シーカジョイント PS	グレー	①4kgセット缶 ②10kgセット缶	93:7	1.55	
日東化成工業(株)	ブラシールT-BG	グレー、アンバー他、 全15色	5kg丸缶 4ヶ入段ボール	10:1	1.48	
ボスチックジャパン (株)	ボスコシール #700	グレー、アイボリー、 ブロンズ、アンバー、 ブラウン、黒	5.5kgセット	10:1	1.50	S.MCG-I-A-N
	ボスコシール #1000		3ℓセット	10:1	1.57	
三星産業(株)	三星シール PS	グレー、アンバー、黒 ブロンズ	5.5kgセット	10:1	1.50	
明星チャーチル(株)	スターシール T-27	グレー、アイボリー、 ブラウン、アルミ他	5.5kgセット 1.1kgセット	10:1	1.50	
モルナイト興業(株)	チオシール	グレー他各種	4kg缶	10:1	1.20	
横浜ゴム(株)	ハマタイト SC-500-HT他	グレー他5色	5kgセット	100:5	1.63	JIS指定製品
(株)日本化学研究所	チオシールニッカ	グレー、ブロンズ、白	4kgセット 5kgセット	10:1	1.40	
シャープ化学工業(株)	シャープシールT	グレー、ブラウン	5kgセット	10:1		
(株)ノーベル樹脂化学	ニューコーク #501	グレー、アンバー	5kgセット	10:1	1.45	
ソニーケミカル(株)	ソニーシラント L 6105	グレー、他	5.4kgセット			

シリコンシーリング材

シリコンシーリング材には、1成分型と2成分型の2種類があり、1成分型は硬化時に酸を放出する酸型、酸を放出しない無酸型がある。

1成分型シーリング材は、大気中の湿気と反応して、酢酸などの反応副生成物を放出しながら表面から硬化が進むタイプで、その反応副生成物の種類によって酢酸型、オキシム型、アミド型、アルコール型などに区別され一般には酢酸型を酸型、オキシム型などを無酸型と呼んでいる。硬化速度は温度と湿度に左右され、実際には-20°C程度の厳寒期でも十分硬化する。酸によって腐食される被着体に酸型のものを用いる場合には、とくに適切なプライマーの選定を行ない、被着体を十分に保護しなければならない。1成分型はいずれもオルガノポリシロキサン・架橋剤・硬化促進剤・補強充てん剤・顔料などの原料をよく練り混ぜて均質にしたもので、カートリッジなどの密封容器に充てんされている。

2成分型シリコンシーリング材は、主剤と硬化剤からなり、両者を混合することにより均一に硬化する。基材は末端に官能基をもつオルガノポリシロキサン、多官能性架橋剤、充てん剤、硬化剤などが使用されている。

〔特 徴〕

- ・耐候性、耐久性がすぐれている。
- ・耐熱、耐寒性にすぐれ、温度による物性変化が少ない。
- ・耐オゾン、耐紫外線などによる劣化が少ない。
- ・低温での施工性がよい。
- ・取扱いが容易で、毒性がない。

〔種類と長所/短所〕

種 類		長 所	短 所
1 成 分 型	酢 酸 型	ゴム強度大・透明性にすぐれる・硬化が早い	生成する酢酸による刺激臭、金属腐食性
	オキシム型	臭いがほとんどない	銅などの特殊金属の腐食
	アルコール型	無臭・毒性なし・腐食性なし・モルタルへの接着性良	硬化がやや遅い
	アミド型	モルタルへの接着性良	アミド臭
	マスチック型	プライマー不要・接着力良・後塗装可能	溶剤による肉やせ
2 成 分 型	低モジュラス・高引裂き・接着性大	高温時の硬化不十分	

〔取扱い上の注意〕

- ・貯蔵期間は通常6カ月である。
- ・酢酸1成分型は未硬化の状態では刺激があるので、眼に入れたり皮膚に長く付着しないように留意する。

会 社 名	商 品 名	色	容 量 ・ 荷 姿	混 合 比	比 重	備 考
(株)エービーシー商会	ABCシリコン	ホワイト, 他4色	3ℓセット缶	10:1	1.30	
鐘紡合成化学(株)	ゴーレックス P-7000	グレー, ホワイト, ニュートラル, アンバー	4ℓ缶×4(硬化剤共)	100:3	1.30	低モジュラス/2成分型
	ゴーレックス P-7500	クリヤ, アンバー, グレー, シルバー, ホワイト, 黒	カートリッジ 350g入×10	1成分型	1.05	
栗山ゴム(株)	ロードシール	透明, 白, 黒, グレー	1/3ℓ 1ℓ	1成分型	1.00	

シリコンシーリング材

会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考
コニシ(株)	ボンド・シリコン コーク	白, クリヤ, グレー	330cc カートリッジ	1成分型	1.04	
サンスター化学工業 (株)	ペンギンシール シリコン	クリヤ, 白, 他6色	333cc カートリッジ	〃	1.05	
信越化学工業(株)	KE42 RTV	透明, 白, 黒, グレー アルミ, アンバー, ブラウン	1/3ℓ カートリッジ	〃	1.05	
	KE43 RTV	アルミ, アンバー	〃	〃	1.05	
	KE45 RTV	透明, 白, 黒, グレー アルミ, アンバー, アイボリー	〃	〃	1.05	
	KE46 RTV	グレー	〃	〃	1.05	
	KE40 B-2-RTV	白, グレー	〃	〃	1.60	不燃型
	KE420 RTV	超透明	〃	〃	1.05	超高透明
	KE70 RTV	白, グレー, アンバー 黒	4kg缶入 (2成分型)	10:1	1.30	低モジュラス
世界長(株)	セカイチョー シール S I	クリヤ, 他3色	333cc カートリッジ	1成分型	1.04	
セメダイン(株)	シリコンシール 8060	ホワイト, グレー, 黒 アイボリー, ナチュ ラルストーン	333ccカートリッジ	〃	1.04	オキシム型
	シリコンシール 8065	クリヤ, アルミ, ホ ワイト, アンバー, ナ チュラルストーン	〃	〃	1.04	酢酸型
東芝シリコン(株)	トスシール 361	ホワイト, ニュート ラルグレー, アンバー, 黒	1ℓポリビン 3ℓ缶	10:1	1.30	低モジュラス2成分型
	トスシール 371	クリヤ, ホワイト, グ レー, シルバー, 黒, ダークブラウン	333cc カートリッジ	1成分型	1.40	酢酸型
	トスシール 373	ホワイト	〃	〃	1.40	防かび性酢酸型
	トスシール 381	クリヤ, ホワイト, グ レー, アイボリー, ダ ークブラウン, ブラック	〃	〃	1.06	オキシム型
	トスシール 383	ホワイト, アイボリー	〃	〃	1.06	防かび性オキシム型
	トスシール 380	ホワイト, グレー, ダ ークブラウン	333ccカートリッジ 4ℓ缶	〃	1.40	低モジュラス アルコール型
	トスシール 369 マスタック	ニュートラル	333ccカートリッジ	〃	1.43	塑性シーリング材, プ ライマー不要, 難燃性
トーレ・シリコン (株)	SH 780	クリヤ, グレー, アル ミ, ホワイト, ブラッ ク, アイボリー	1/3ℓカートリッジ	〃	1.04	無酸型
	SH 781	クリヤ, ホワイト, グ レー, アルミ, アンバ ー	〃	〃	1.04	酢酸型
	SH 790	ホワイト, グレー, ナ チュラルストーン, ア ンバー	1/3ℓカートリッジ 15ℓ缶	〃	1.40	低モジュラス
	SH 792	ホワイト, グレー, ナ チュラルストーン, ア ンバー, ブラック	3ℓ缶	10:1	1.30	〃
	SE 5010	アイボリー	1/3ℓカートリッジ	1成分型	1.05	防かび性 無酸型
	SE 5011	ホワイト	〃	〃	1.05	防かび性 酢酸型
	SE 5020	ホワイト	〃	〃	1.72	難燃性
日東ポリマー工業(株)	ワイドシール	7色	333ccカートリッジ	〃	1.1~1.2	
ソニーケミカル(株)	ソニーシール L6301	クリヤ, 白, グレー他	350gカートリッジ	〃	1.05	
イイダ産業(株)	オロテックス シリコン	クリヤ, 白, 黒, グ レー, ガラスクリヤ	1/3ℓカートリッジ 50g, 100gチュ ーブ入	〃		
日本合成化学工業(株)	ゴーゼンシールS BA-10	グレー, アンバー	333ccカートリッジ 5ℓ缶	〃	1.14	無酢酸型低モジュラス

シリコンシーリング材

会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考
日本合成化学工業(株)	ゴセシールS BA-11	白, アイボリー	333mlカートリッジ	1成分型	1.14	無酢酸型, 無変色, 防カビ
	〃 AP-20	クリヤ, 白, グレー, アンバー, 黒	333mlカートリッジ 20ℓ缶 100gチューブ	〃	1.04	酢酸型
	〃 AP-22	グラスクリヤ	333mlカートリッジ	〃	1.06	酢酸型超透明
	〃 BM-30	クリヤ, 白, グレー, アンバー, 黒	333mlカートリッジ 20ℓ缶 100gチューブ	〃	1.05	無酢酸型
	〃 BM-30A	白, 黒	333mlカートリッジ	〃	1.05	無酢酸型 速硬型
日新工業(株)	エルエス シリコン シーラント		333cc.カートリッジ			
鐘紡合成化学(株)	ゴレックス P-7000	グレー, ホワイト, ニ ュートラル, アンバー	4ℓ缶(硬化剤共)	100:3	1.30	低モジュラス, 2成分型
	〃 P-7500	クリヤ, アンバー, グ レー, シルバー, ホ ワイト, 黒	350gカートリッジ		1.05	1成分型
三星産業(株)	三星シリコン シーラント A-76	白, グレー, アンバー 他	333cc. カートリッジ×20	1成分型	1.42	アミン架橋型
	〃 A-79	〃	〃	〃	1.42	〃
	〃 S-04	クリヤ, グレー, ア ンバー他	〃	〃	1.02	酢酸型
横浜ゴム(株)	ハマタイト SS-200	グレー他4色	3ℓセット	100:3	1.30	低モジュラス
	ハマタイト SS-210	グレー他3色	333cc.カートリッジ	1成分型	1.15	無酢酸型 低モジュラス
	ハマタイト SS-220	グレー他5色	〃	〃	1.04	酢酸型
	ハマタイト SS-230	〃	〃	〃	1.05	無酢酸型
	ハマタイト SS-240	超透明	〃	〃	1.09	酢酸型
新東洋合成(株)	パネコーク SGシリコン	クリア, グレー アンバー	333cc.カートリッジ	1成分型	1.15	クリアは酢酸型 グレー, アンバーは 無酢酸型

ウレタンシーリング材

ウレタンシーリング材は、シリコーン、ポリサルファイドシーリング材に続く無溶剤型弾性シーリング材で、一般に中高層以下のコンクリート目地、スレート、ALC板の目地あるいは中高層プレハブ住宅用目地に使用されている。

ウレタンシーリング材は、イソシアネート基(—NCO)を有する基材と活性水素化合物を含む硬化物からなる常温硬化型のウレタン樹脂で1成分型と2成分型がある。

1成分型ウレタンシーリング材は、一般にカートリッジ入りと密閉缶入りとがあり、空気中の水分により反応硬化するため、保管に際しては十分に湿気に注意するとともに、冷暗所に保存するなどの注意が必要になる。2成分型ウレタンシーリング材は、基材と硬化剤からなり、ほとんどがノンサグタイプである。

〔特 徴〕

弾性シーリング材の中で、もっとも価格が安く、その物性においてもすぐれており、次のような特徴がある。

- ・低い吐出圧で容易にガンから出る。
- ・加熱減量が少なく硬化後の収縮がほとんどない。
- ・常温で硬化し、ゴム弾性体となり、復元性および耐疲労性は良好である。
- ・耐寒性にすぐれ、 -20°C 以下で使用できる。
- ・水分によっても硬化するため、貯蔵期間に制限があると同時に施工時の気温および湿度が高い場合、発泡のおそれがある。
- ・ 90°C 以上の熱に長時間暴露すると物性の低下を生ずる。
- ・紫外線の作用により黄変する。
- ・表面に粘着性が残るためよごれやすい。

〔取扱い上の注意〕

- ・貯蔵は冷暗所で行なう。
- ・ポリウレタンシーリング材は、T D I その他労働安全衛生法に基づく有害物質が含まれることがあるので、取扱い後は手洗いや、うがいなど、衛生面に心掛けること。

会 社 名	商 品 名	色	容 量 ・ 荷 姿	混 合 比	比 重	備 考
アサヒボンド工業(株)	アサヒシール 651 656 659	グレー、ライトブロンズ、クリーム	5kgセット 10kgセット	1 : 4	1.40	
(株)エービーシー商会	ABCコーキング ウレタン	グレー、他4色	6kgセット缶 12kgセット缶	1 : 2	1.32	
	ABCコーキング カートリッジ	ク	333cc	1成分型	1.20	
カネボウ エヌエスシー(株)	KBK P-6000	グ レ ー	6kg, 12kg	1 : 2	1.32	
	ク P-6500	ホワイト、グレー	330ccカートリッジ		1.20	
鐘紡合成化学(株)	ゴーレックス P-6000	グ レ ー	12kg入	1 : 2	1.30	
建 材 化 工 (株)	パンシールU	グ レ ー	6kgセット	1 : 2	1.30	
コ エ シ (株)	ボンドUシール	グ レ ー	9kgセット	2 : 1	1.50	
	ウレタンコーク	グ レ ー	330ccカートリッジ	1成分型	1.20	

ウレタンシーリング材

会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考
サンスター化学工業(株)	ペンギンシール # 980	グレー	9 kgセット	1 : 2	1.28	
	ペンギンシール # 950	ライトグレー	333ccカートリッジ	1成分型	1.49	
三洋工業(株)	スリーウレッチ	ライトグレー	6 kg缶	1 : 2	1.30	
三英ポリマー工業(株)	リバーウレタン	グレー	9 kgセット	1 : 2	1.30	必ずプライマー処理を すること
昭和石油 アスファルト(株)	ユーゼット	グレー	10.5kg 4.5kg	1 : 2	1.30	
新東洋合成(株)	パネコック S-501 SGウレタン	グレー	6 kg缶 320ccカートリッジ	1 : 2 1成分型	1.25 1.20	
	ウレタンシーラー S-750 (8050)	グレー	9 kgセット	1 : 2	1.33	
セメダイン(株)	ウレタンシーラー S-700	グレー	333ccカートリッジ	1成分型	1.29	
	セカイチョーウレ タンシーラーP.U	グレー	7 kgセット	5 : 2	1.24	SC-1-A-N
大和高分子工業(株)	ダイワシール #500	グレー, 他4色	主剤 3kg 硬化剤 6kg	1 : 2	1.04 1.35	
	〃 #550	グレー, 黒	主剤 3kg 硬化剤 6kg	1 : 2	1.04 1.39	
	〃 #100	グレー, 他3色	カートリッジ333cc	1成分型		
テイバ化工(株)	ポニーシーラー U-2000	グレー	9 kgセット	1 : 2	1.26	
(株)東京ボース工業社	ウレボンシール	グレー	9 kgセット	1 : 2	1.46	
日本シーカ(株)	シーカフレックス 1 a	グレー, 白, ベージュ ダークアンバー, 黒	①15kg入ベール缶 5kg缶, 2.5kg缶 ②320cc カートリ ッジ入/20本箱入	1成分型	1.20	
日東ポリマー工業(株)	ニットーコーク # 200U	グレー	5 kgセット	1 : 2	1.4~1.5	
日東化成工業(株)	ブラシーラー PU-300	グレー, 白, 黒	カートリッジ, ベ ール缶入	1成分型	1.17	
	〃 PU-1800	グレー, 黒, アンバー	9 kg, 20kgセット	1 : 2	1.30	
シャープ化学工業(株)	シャープシールU	グレー	4 kgセット	2 : 1	1.17	
日本特殊塗料(株)	シールトップ U	グレー	9 kgセット	1 : 2	1.20~1.30	
	シールトップ 1 000	白, グレー, アイボリー	カートリッジ 10kgベール缶	1成分型		
日本添加剤工業(株)	ファインシーラー # 200	グレー, 白, 黒, ベ ージュ他	10kgセット 基剤 2.5kg 硬化剤 7.5kg	1 : 3	1.34	SMC-I-A-N
	〃 # 2000	白	〃	1 : 3	1.35	ALC用 SMC-I-A-N
日本合成化学工業(株)	ゴーセシールU MU-100	白, アイボリー, グ レー, 黒	320mlカートリッジ 15kg缶	1成分型	1.30	
	MU-120	グレー	320mlカートリッジ	1成分型	1.30	ガラス, 金属用
日本化成(株)	ダイシールUT # 310	黒	36kgセット	1 : 1	1.14	
保土谷化学工業(株)	ミリオネット NS-12	グレー, 白, 茶, 黒	7 kgセット 14kgセット	1 : 2.5	1.21	
明星チャーテル(株)	スターシールU-29	グレー	9 kgセット	1 : 2	1.30	建設省認定
	スターシールU-70	グレー, 白, アルミ, 黒	カートリッジ	1成分型	1.30	〃
モルナイト興業(株)	モナシール	グレー	9 kgセット	1 : 2	1.40	

ウレタンシーリング材

会社名	商品名	色	荷姿・容量	混合比	比重	備考
山内ゴム工業(株)	トップシーラー-U ₂	グレー, 白, 黒, アンバー	7kgセット	1:3	1.20	
(株)服部商店	サンシール #9201	グレー	6kg, 18kg	1:2	1.26	
(株)日本化学研究所	ニッカウレタイト シーラー	グレー	6kgセット	1:2	1.20	
ラサ合成樹脂(株)	レップ S-204 レップシーラー ポリコート	グレー	9kg	1:2	1.23	
(株)ノーベル樹脂化学	ニューコーク #401	グレー, アンバー	10kgセット	1:3	1.30	
ソニーケミカル(株)	ソニーシーラント L 6500	白, グレー, アイボリー, アンバー	320ml カートリッジ	一成分量	1.25	

水性アクリルシーリング材

水性アクリルシーリング材は、乳化重合法によって、アクリル酸エステル、側鎖の異なったビニール化合物で、重合可能な不飽和酸などのモノマーを任意の割合で混合し、水を媒体として共重合したアクリル樹脂エマルジョンを基材とし、補強剤には無機物の充填剤、炭酸カルシウム、タルク、グレー、桂石末、着色剤には顔料、酸化チタン、カーボンブラック、弁柄などの粉体を配合している。改質材には液状の可塑剤、たとえばジブチルフタレート、トリクレジルホスフェート、塩素化パラフィン、ポリブテンなどが適当に配合された1成分型である。

〔特徴〕

- ・作業性が良好で材料の伸びが良く、経済的である。
- ・耐アルカリ性、耐候性、伸長性、密着性、耐薬品性に優れている。
- ・水性であるから臭気も少なく、工具の洗浄が水でできる。
- ・一時的な湿潤面にも施工ができ、完全に密着できる。
- ・施工後、水性ペイントを塗布してもシーリング表面への塗料のぬれは良好である。
- ・まだ固まらないコンクリートやモルタル面には施工ができない。
- ・シーリング直後の表面にモルタル、コンクリートなどの打設はできない。
- ・一般に0℃以下では施工ができない。
- ・水性系のため硬化前は水に弱く、雨にあたると流される。
- ・約15%程度の水を含有するため体積収縮があり、使用箇所に対する適合性を十分考慮し、施工をしなければならない。

用途 主用途としては、ALC板の目地材に約90%使用され、その他、PC、RC、スレート板、石材（化粧合板）などの多孔質材料で吸水性の大きい建築用構成材の目地に使用されている。

〔取扱い上の注意〕

- ・水性アクリルシーリング材の貯蔵に際しては、直射日光を避け5℃から30℃以内で保管する。

会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考
イイダ産業(株)	MYシーラー	白, グレー	25kg缶入		1.50	凍結防止品
小野田建材(株)	ユニコークアクリル	白	18ℓ缶		1.40	
カネボウ・エヌエスシー(株)	KBK P-4000	ホワイト, グレー, アイボリー	18ℓ缶(26kg) 470gカートリッジ		1.46	
関西パテ化工(株)	ハイトコーク	白	18ℓ缶		1.50	
鐘紡合成化学(株)	ゴーレックス P-4000	白, グレー	18ℓ缶		1.46	
コニシ(株)	ボンドアクリルコーク ボンドコークホワイト ボンドコークホワイト	白, アイボリー 白 白, アイボリー	330ccカートリッジ 500gチューブ 25kg 石油缶		1.50	
三洋工業(株)	スリーラント	白	18ℓ缶 333ccカートリッジ			凍結防止品
三英ポリマー工業(株)	リバーアクリル	白	18ℓ缶入 333ccカートリッジ		1.45	

水性アクリルシーリング材

会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考
昭和石油 アスファルト(株)	アクリルエース	白	18ℓ		1.50	
世界長(株)	セカイチョー シーラーEA	白, グレー	26kg, 13kg 石油缶 500g カートリッジ		1.40 1.50	凍結防止品 EAW SC-2-A-N
	セカイチョー シーラーEAスペ シャル	〃	〃		〃	凍結防止品 EAW SC-1-A-N
セメダイン(株)	メジール S-10, S-20	ホワイト	18ℓ 缶		1.46	
	メジール S-30	〃	18ℓ 缶		1.62	
テイバ化工(株)	アクリルコーク A-100	ホワイト	333ccカートリッジ 18ℓ 缶		1.54	
日本添加剤工業(株)	ファインシーラー #1000	白	18ℓ (26kg)		1.46	
(株) 日本化学研究所	ニッカシールA	白	18kg 缶 330ccカートリッジ		1.39	ALC, PC専用
日東ポリマー工業(株)	エラスコーク	ホワイト, グレー	18ℓ, 333cc		1.40~1.50	
日東化成工業(株)	ブラシーラー EM-15	白, グレー	カートリッジ チューブ 18ℓ 石油缶入		1.50	
(株) 服部商店	サンシール #5001	ホワイト	チューブ, カート リッジ 18ℓ 缶		1.50	
ボスチックジャパン (株)	ボスコシール 410	白	18ℓ 缶		1.47	
三星産業(株)	三星シール AC	白	18ℓ 缶入 330ccチューブ入 333ccカートリッジ		1.50	
明星チャーチル(株)	スターコーキング Y-60	ホワイト, グレー	18ℓ 缶 100g チューブ入 カートリッジ		1.50	
ソニーケミカル(株)	ソニーシールラント L 6400	白	320ml カートリッジ		1.46	エマルジョン型
シャープ化学工業(株)	アルファコーク	白, グレー, ベージュ	18ℓ 333ml カートリッジ			
山内ゴム工業(株)	トップシーラー #5000 #5000N	白, グレー	18ℓ 缶 チューブ, カート リッジ		1.50	凍結防止品
(株)ノーベル樹脂化学	ニューコーク #301	白, グレー	25kg 缶 500g カートリッジ		1.40	

水性 SBR シーリング材

水性 SBR シーリング材は、SBR（スチレン・ブタジエンラバー）ラテックスを基材とし、充てん剤などを加えてペースト状とした 1 成分型水性シーリング材である（エポキシ樹脂を配合した 2 成分型のものもあるが、主に土木用に使われている）。シーリング材の性能としては油性コーキング材と弾性シーリング材の中間的な位置に属し、用途としてはコンクリート、ALC、石綿、スレートなどで構成された比較的動きの少ない目地に多く使用されている。

温度による粘度変化は比較的少ないが、凍結すると使用できなくなるため、保管温度および施工温度には注意を要する。15%程度の硬化収縮があり、施工後、未乾燥の間に雨にあうと流されることがあるため、十分に注意して施工する必要がある。

カーテンウォール、超高層ビルなど、たえず水に接触する目地（水槽、水路など）には使わない方がよい。

〔特 徴〕

- ・毒性がない。
- ・スランプがなく押出し性がよい。
- ・水性であるため湿潤下地でも接着性にすぐれる。
- ・硬化に伴う体積収縮が比較的少ない。
- ・器具の清掃が楽である。
- ・低モジュラスで伸びが大きい。
- ・水性であるため、水に弱く、施工直後の雨に流されたりする。
- ・指触乾燥が速い。
- ・0℃以下では施工できない。

〔取扱い上の注意〕

- ・下地はきれいに清掃し、必ずプライマーを使用する。
- ・わずかな力で流動するためにへら押えの際力を入れ過ぎると目地からはみ出る恐れがある。
- ・硬化収縮を考慮してへら仕上げをする。
- ・指触乾燥が速いのでへら仕上げは早めに行なう。
- ・水性であるために降雨に対する十分な配慮を行なう。
- ・0℃以下では施工しない。
- ・保管は 5～40℃で行なう。

会 社 名	商 品 名	色	容 量 ・ 荷 姿	混 合 比	比 重	備 考
日本合成ゴム(株)	JSRシーラント 360	グレー、ホワイト	22kg缶入		1.40	
山内ゴム工業(株)	トップシーラーSB	グレー、白	18kg缶入		1.40	
イイダ産業(株)	オロテックス 1130	白	20kg缶入			

ブチルシーリング材

ブチルシーリング材は、(1)一成分型の溶剤揮散タイプ (2)ベルト状、ロープ状、棒状などに成型したタイプ (3)パテ状 (4)ホットメルト型などあり、主なものは、溶剤揮散タイプと成型したタイプである。

溶剤タイプは、主成分のブチルゴムと可塑剤、充填剤、スランプ防止剤、顔料、粘着付与剤、溶剤などを混合した一成分型である。建築における用途は外壁に使用されることはなく、2次防水の箇所やブチルゴム系ルーフィングジョイントなどに使用されている。

成型タイプは、メーカーにより各種タイプが市販されている。

〔特徴〕

- ・貯蔵安定性にすぐれている。
- ・耐候性、耐熱性、耐寒性が良好である。
- ・多くの被着体に対して適応する。
- ・表面乾燥が早くホコリの付着が少ない。
- ・モジュラスが低く、はく離を起こしにくい。
- ・他のシーリング材に比較して収縮が大きい。
- ・硬化前は溶剤が含まれているので引火性がある。
- ・耐油性、耐溶剤性が悪い。

〔取扱い上の注意〕

- ・直射日光を避け冷暗所に保管する。
- ・火気に十分注意する。
- ・粘度を下げるために灯油、トルエンなどを混合しない。
- ・溶剤中に含まれる特定化学物質、または危険物については十分な注意を要する。

基材名	会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考	
ブチル	カネボウ・エヌエスシー(株)	KBK P-3000	グレー、シルバー、黒	18ℓ缶(約18kg) 500gカートリッジ		1.09		
	関西パテ化工(株)	ニユキット	グレー、黒	18ℓ缶入		1.20		
	鐘紡合成化学(株)	ゴレックス P-250	黒	18ℓ缶		1.10	埋設用	
		ゴレックス P-3000	グレー、シルバー、黒	18ℓ缶		1.10		
	建材化工(株)	バンネオシール	グレー	18ℓ缶 360ccカートリッジ		1.20		
	チ	コニシ(株)	ボンドブチルコーク ボンドシールパテ	グレー	330ccカートリッジ 20kg 石油缶		1.30	
		三英ポリマー工業(株)	リパーブチロン	グレー	18ℓ缶入 333ccカートリッジ		1.20	
		サンスター化学工業(株)	ペンギンシール # 850	ライトグレー	333ccカートリッジ		1.06	
	ル	三洋工業(株)	ブチラー	グレー	330ccカートリッジ 18ℓ			
		住友スリーエム(株)	リボンシール	グレー	300ccカートリッジ		1.20	
セメダイン(株)		ブチルシーラー S-620	グレー	333ccカートリッジ 18ℓ缶		1.22		
世界長(株)		セカイチョー シーラーRB	グレー	18ℓ缶 320mlカートリッジ		1.10		

ブチルシーリング材

基材名	会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考		
ブ	ソニーケミカル(株)	ソニーシーラント L6004Aφ L6005Aφ	アルミ	380gカートリッジ 20kg缶入 200kgドラム缶入 200mlチューブ入		1.07			
	テイバ化工(株)	ブチルシーラー B-100	グレー	333ccカートリッジ 18φ缶		1.20			
	(株)日興社	ブレンシール	グレー, 黒	18φ缶 330ccカートリッジ		1.31			
	日東ポリマー工業(株)	ニットーコーク #400G	グレー, シルバー, 黒	20φ 400cc. 330cc. カートリッジ (チューブ入)		1.10~1.15			
	日東化成工業(株)	ブラシールBG コーキング	グレー, 白, 黒	18φ石油缶 カートリッジ ベール缶入チューブ		1.10			
	日新工業(株)	バンシール	5色	180cc. チューブ					
	ポストックジャパン(株)	ポストコシール 310	グレー	18φ缶 330cc.カートリッジ		1.23			
	明星チャーチル(株)	スターコーキング R-40	グレー, ブラック	18φ缶 カートリッジ		1.20			
	チ	山内ゴム工業(株)	トップシーラー#30	グレー, アイボリー	18φ缶 330cc.カートリッジ		1.20		
		シャープ化学工業(株)	ブチルコ	グレー, ブラウン, 黒 白, 青, レンガ	18φ 360cc.カートリッジ				
		三星産業(株)	三星シールブチル	グレー, 青, 赤, 新茶 シルバー	18φ 333cc.カートリッジ		1.20		
		横浜ゴム(株)	ハマタイト Y-7302-G	グレー	330cc.カートリッジ 20kgベール缶		1.23		
		ル	モルナイト興業(株)	イソシール	グレー	330cc.×30			
			(株)服部商店	サンシール #601	グレー	カートリッジ3φ缶 18φ缶		1.49	
			イイダ産業(株)	オロテックス 327	グレー	20kg缶入 375gカートリッジ 48本入			
早川ゴム(株)			サンタックB-5000 コーキングG-1300	黒 グレー	330cc.カートリッジ 20kg チューブ		1.48 1.56		
			ハヤシールRB-P RB-G	黒	15kg 4kg缶入	100:3	1.0		
(株)ノーベル樹脂化学		ニューコーク #201	グレー, 茶, グリーン	20kg缶 330cc.カートリッジ		1.02			

種別	会社名	商品名	用途	色	備考
定形 ブチルゴム シーリング材 (テープその他)	アイシン化工(株)	アイシンテープ	建 築 用	グレー	20kg入固型ブチルネットメルト式
	関西パテ化工(株)	キットテープ		グレー, ブラック	各種サイズ
	鐘栄産業(株)	ウルトラシーラー		グレー	5%×5%×10m 10%×5%×10m 10%×15%×5m
	ソニーケミカル(株)	ソニーシーラント R5001		黒	1%×15%×50m 1%×25%×30m 2%×20%×20m 他
	明星チャーチル(株)	スターコーキング R-75		グレー, ブラック	各種寸法
	山内ゴム工業(株)	トップシーラー #300 #400 #700		グレー, ブラック	各種寸法
	イイダ産業(株)	オロテックス ブチルテープ		グレー, ブラック	2%×10%×30m 5%×6%×12m 15φ 1m 20φ 1m
	早川ゴム(株)	スパンシール 1010(芯材ナシ) W-1010 (鉄芯入り)		黒	15%×40%×4050% 20%×50%×4050% 2%×40%×30m 10m×100%×5100%
	ポストック ジャパン(株)	ポストコシール P250		グレー	各種サイズ
	世界長(株)	エバートーン VK セカイチョーシーラーV VB		グレー 黒	30m 台形(1m) 円形(1m) 各種寸法
		ツバイテープ		黒	各種寸法
	日東化成工業(株)	ブラシールB-T (チューブ) ブラシールB-R (ロープ)		グレー, 白, 黒 黒	1%×15%×30m~ 10%×70%×1m 2%φ×1m以上30m~ 70%×1m

油性コーキング材

油性コーキング材とは、油脂または樹脂などに、炭酸カルシウムなどの鉱物質充てん剤を混入し、よく練り混ぜてつくられたペースト状の目地防水材料である。

油性コーキング材は、ガン用およびナイフ用があり、市販品のほとんどはガン用の皮膜性である。油性コーキング材の作業性は温度の影響をきわめて受けやすいので、使用時（季節）の条件に合わせて夏用、冬用、一般用（秋春用）などが市販されている。

〔特徴〕

- ・ほとんどの被着体によく付着する。
- ・安価である。
- ・界面はく離（接着破壊）を起こしにくい。
- ・弾性シーリング材に比較し耐久性がある。
- ・大きな動きの目地に使用できない。
- ・無皮膜性の油性コーキング材は汚染性が大きい。

〔取扱い上の注意〕

- ・冬の作業性をよくするためにトルエンや灯油などを混入してはならない。
- ・使用後は密封し、冷暗所に保管する。

会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考
(株)エービーシー商会	ABCコーキング	グレー	18ℓ缶 600gカートリッジ 400gチューブ		1.44	JIS指定製品
小野田建材(株)	ユニロンコーキング	〃	18ℓ缶		1.63	〃
関西パテ化工(株)	Kコーク	〃	18ℓ缶		1.40	
鐘紡合成化学(株)	ゴーレックス P-320	〃	18ℓ缶		1.48	JIS指定製品
建材化工(株)	バンシール	〃	18ℓ缶 360ccカートリッジ		1.40	〃
コニシ(株)	ボンドコーキング	〃	500gチューブ 18ℓ石油缶		1.40	〃
	ボンド油性コーク	〃	330ccカートリッジ		1.40	〃
サンスター 化学工業(株)	ペンギンシール #750	〃	333ccカートリッジ 18ℓ缶 他		1.30	〃
三洋工業(株)	スリーコーキング	〃	カートリッジ360cc チューブ 320cc チューブ 800cc 缶 18ℓ		1.70	〃
三英ポリマー工業(株)	リバーコーク	〃	18ℓ缶 3ℓ缶 1kgチューブ 400gチューブ 333ccカートリッジ		1.50	
昭和石油 アスファルト(株)	エバーシール	〃	18ℓ 600ccチューブ		1.60	JIS指定製品
世界長(株)	ケミコーク	〃	18ℓ石油缶 320mlカートリッジ		1.44	〃
セメダイン(株)	ポリコーク	〃	333ccカートリッジ 500gチューブ 3ℓ缶 18ℓ缶		1.46	〃
テイバ化工(株)	グレインコート	〃	333cc 500cc カートリッジ 18ℓ缶360cc チューブ		1.46	〃
(株)東京ボース工業社	ボースコーキング	〃	18ℓ缶 3ℓ缶 カートリッジ			
日東ポリマー工業(株)	ニットーコーク #100G	グレー、ホワイト	18ℓ 3ℓ 1kg 400g 560cc 400cc 333cc		1.40~1.50	JIS指定製品

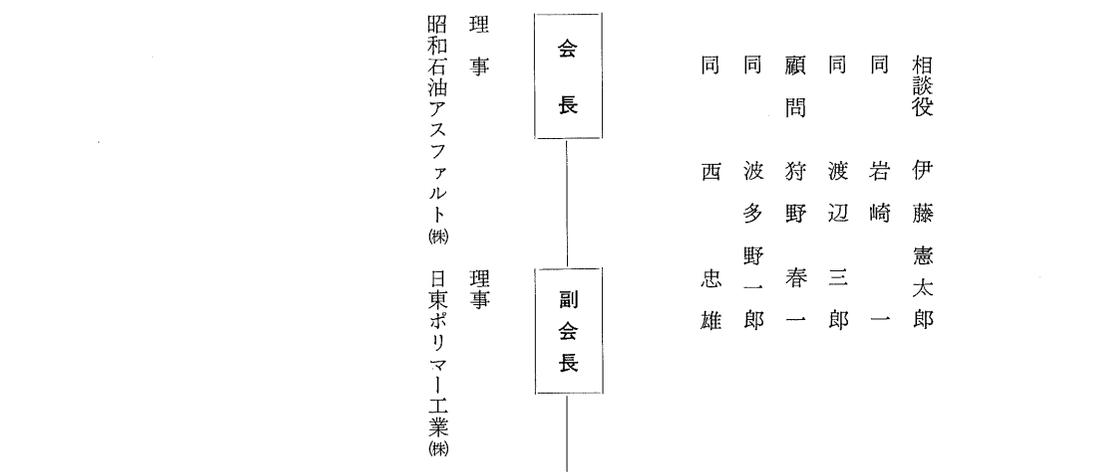
油性コーキング材

会社名	商品名	色	容量・荷姿	混合比	比重	備考
日新工業(株)	マルエスコーキング	グレー	18ℓ缶 800ccチューブ 360ccカートリッジ		1.60	JIS指定製品
	パンコーク	〃	18ℓ 360ccカートリッジ			
日本添加剤工業(株)	ファインコーク	〃	18ℓ (26kg)		1.46	JIS指定製品
ボスチック ジャパン(株)	ボスコシール300L	〃	18ℓ缶		1.50	〃
三星産業(株)	三星コーキン	〃	18ℓ缶 9ℓ缶 800ccチューブ×20 500ccチューブ×20 360ccカート リッジ×30		1.50	〃
明星チャーチル(株)	スターコーキング B-20G	〃	18ℓ缶 1kgチューブ カートリッジ		1.50	〃
モルナイト興業(株)	スーパーコーキング	〃	25kg缶			
(株)服部商店	サンシール #101	〃	チューブ カートリッジ 18ℓ缶		1.46	JIS指定製品
(株)日本化学研究所	ニッカジール	〃	18ℓ 550gカートリッジ		1.40	
イイダ産業(株)	オロテックス 1010	〃	25kg缶 480gカートリッジ 48本入			
日東化成工業(株)	ブラシール コーキング	グレー, 白, 黒, 外着色	333ccカートリッジ 18ℓ 26.5kg, 500g 1000gチューブ		1.47	
シャープ化学工業(株)	シャープシール P-20	グレー	18ℓ			
	シャープシールP	グレー, 青, レンガ, 新茶	360mlカートリッジ			
(株)ノーベル樹脂化学	ニューコーク #101	グレー	18ℓ缶 800gチューブ 500gカートリッジ		1.40	JIS指定製品

その他

基材名	会社名	商品名	色	容量・荷姿	形状	比重	備考
合成ゴム (ニトリルゴム)	住友スリーエム(株)	ダクトシール 800	赤褐色	20ℓ缶 150ccチューブ		1.02	
合成ゴム (アクリルゴム)	日東化成工業(株)	ブラシール NB-100	白, グレー 黒	333ccカートリッジ 18ℓ缶入		1.40	
定型ゴム シーリング (EPT・CR) (NBR)	〃	マヂックシール	〃				1%×15%×30m 2%×10m~ 70%角×1m 70%丸×1m

昭和52年度 日本シーリング工業会機構表



同	監事	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	理事	
三洋工業(株)	小野田建材(株)	仙台支部長 三洋工業(株) 仙台営業所	北海道支部長 セメダイン(株) 札幌出張所	広島支部長 信越化学工業(株) 広島営業所	福岡支部長 信越化学工業(株) 福岡支店	大阪支部長 テイバ化工(株)	名古屋支部長 建材化工(株)	トーレ・シリコーン(株)	保土谷化学工業(株)	世界長(株)	セメダイン(株)	(株)エービーシー商会	山内ゴム工業(株)	サンスター化学工業(株)	東芝シリコーン(株)	住友スリーエム(株)	日本添加剤工業(株)	信越化学工業(株)	横浜ゴム(株)

52年度委員会構成表

委員会	区分	委員長	副委員長
総務委員会		住友スリーエム(株)	ポスチックジャパン(株)
技術委員会		横浜ゴム(株)	セメダイン(株)
広報委員会		東芝シリコーン(株)	小野田建材(株)
シーリング管理士検定委員会		日東ポリマー工業(株)	保土谷化学工業(株)

52年度分科会構成表

分科会	区分	幹事	副幹事	会員数
油性		三洋工業(株)	三星産業(株)	24社
ポリサルファイド		サンスター化学工業(株)	ポスチックジャパン(株)	25社
ウレタン		保土谷化学工業(株)	昭和石油アスファルト(株)	33社
シリコーン		信越化学工業(株)	トーレ・シリコーン(株)	12社
ブチル		世界長(株)	ソニーケミカル(株)	18社
水性アクリル		日東ポリマー工業(株)	山内ゴム工業(株)	21社
水性SBR		日本合成ゴム(株)		2社

日本シーリング工業会

会 員 名 簿

本部・支部所在地

区分 本・支部名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
本 部	東京都千代田区外神田2-2-17 共同ビル	101	(03)255 2841
名古屋支部	名古屋市千種区井上町34 セメダイン(株) 名古屋支店内	464	(052)781 3166
大阪支部	大阪市南区長堀橋筋2-35 (日亜ビル)	542	(06)211 0078
福岡支部	福岡市博多区綱場町2-2 福岡第1ビル	812	(092)291 8442
広島支部	広島市中町7-32 (日生広島ビル内) 信越化学工業(株)福岡支店 信越化学工業(株)広島営業所	730	(0822)48 3931
北海道支部	札幌市中央区北1条東9丁目 セメダイン(株)札幌出張所	060	(011)261 1471
仙台支部	仙台市扇町5-1-6 三洋工業(株)仙台営業所	983	(0222)92 5311

1. 正 会 員 54

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
アイシン化工(株)	愛知県刈谷市相生町3-3 富士ビル	448	(0566)23 2211
アサヒボンド工業(株)	東京都板橋区大谷口北町3-7	173	(03)972 4929
イイダ産業(株)	名古屋市中区新栄1-27-2	460	(052)262 3951~3
(株)エーピーシー商会	東京都千代田区永田町2-12-14	100	(03)507 7111
小野田建材(株)	// 中央区銀座3-2-19 建築会館	104	(03)567 8571
カネボウ・エヌエスシー(株)	// 千代田区平河町2-8-2 エターナルモービル	102	(03)263 4701
鐘紡合成化学(株)	// 品川区西五反田7-22-17 東京卸売センター内	141	(03)494 2741
関西パテ化工(株)	東大阪市日下町3-7-36	579	(0729)82 2131
栗山ゴム(株)	東京都渋谷区南平台15-13 帝都渋谷ビル	150	(03)463 1841
建材化工(株)	愛知県春日井市御幸町3-2	486	(0568)31 6612
コニシ(株)	東京都中央区日本橋室町4-5 近三ビル	103	(03)279 6551
三英ポリマー工業(株)	大阪府池田市木部町639	563	(0727)51 3128
サンスター化学工業(株)	東京都港区三田1-3-36	108	(03)453 9301
三洋工業(株)	// 江東区亀戸6-20-7	136	(03)685 3451
鐘栄産業(株)	// 中央区日本橋小伝馬町3-5	103	(03)661 2635 5379
昭和石油アスファルト(株)	// 品川区南大井1-7-4	140	(03)761 4271 8379
シャープ化学工業(株)	大阪府堺市築港浜寺西町13	592	(0722)68 0321
信越化学工業(株)	東京都中央区日本橋本町2-2-2	103	(03)661 4931
新東洋合成(株)	大阪府堺市築港新町3-27	592	(0722)44 7631
住友スリーエム(株)	東京都世田谷区玉川台2-33-1	158	(03)709 8241
(株)スリーボンド	// 八王子市狭間町1456	193	(0426)61 1333
世界長(株)	// 渋谷区道玄坂2-10-7 新大宗ビル	150	(03)462 5161
セメダイン(株)	// 品川区東五反田4-5-9	141	(03)445 1311
ソニーケミカル(株)	// 中央区日本橋室町1-6	103	(03)279 0441
大和高分子工業(株)	// 文京区本駒込6-15-16 第6六義園ビル	113	(03)947 4411
武田薬品工業(株)	大阪市東区道修町2-27	541	(06)204 2481
テイパ化工(株)	// 東淀川区下新庄町2-263	533	(06)328 1118
東芝シリコン(株)	東京都港区新橋3-3-9 阪急交通社ビル	105	(03)503 5561

(株)東京ボース工業社	東京都荒川区西日暮里 2-45-2	116	(03)801 1151
トーレ・シリコーン(株)	// 中央区日本橋室町 2-8 三井ビル 6号、	103	(03)243 1551
(株)日興社	// 江東区白河 4-9-5	135	(03)642 7103
日新工業(株)	// 足立区千住東 2-21-28	120	(03)882 2424
日東化成工業(株)	大阪市住吉区大領町 5-74	558	(06)693 3561
日東ポリマー工業(株)	兵庫県尼崎市琴浦町 75-1	660	(06)418 7421
日本化成(株)	神奈川県大和市下鶴間 2758	242	(0462)61 7245
日本合成ゴム(株)	東京都中央区築地 2-11-24	104	(03)541 4111
日本シーカ(株)	// 港区新橋 4-2-1 第29森ビル	105	(03)436 6031
日本添加剤工業(株)	// 板橋区前野町 1-21-5	174	(03)965 5731
日本合成化学工業(株)	大阪市北区神山町 40-4	530	(06)313 3412
(株)日本化学研究所	東京都中央区京橋 1-6-13	104	(03)564 5161
日本特殊塗料(株)	// 北区王子 5-16-7	114	(03)913 6131
日本ペルノックス(株)	// 港区新橋 2-6-5 織田ビル	105	(03)580 8696
(株)ノーベル樹脂化学	埼玉県川口市東領家 4-19-4	332	(0482)23 4511
(株)服部商店(淀工場)	京都市伏見区淀美豆町 705	612	(075)631 3128
早川ゴム(株)	広島県福山市松浜町 2-1-32	720	(0849)21 2211
保土谷化学工業(株)	東京都港区虎ノ門 1-4-2	105	(03)502 0171
ポストックジャパン(株)	// 千代田区内神田 1-13-7 四国ビル	101	(03)294 4501
三井日曹ウレタン(株)	// 港区赤坂 4-13-13 東亜赤坂ビル	107	(03)585 6190~9
三星産業(株)	// 千代田区神田小川町 3-28 三東ビル	101	(03)292 1961
明星チャーター(株)	大阪府堺市浜寺石津町中 1-4-7	592	(0722)44 7500
モルナイト興業(株)	東京都新宿区市ヶ谷田町 2-7	162	(03)260 3231
山内ゴム工業(株)	// 中央区八重洲 1-4-21 共同ビル	103	(03)273 1871
横浜ゴム(株)	// 港区新橋 5-36-11	105	(03)432 7111
ラサ合成樹脂(株)	埼玉県草加市吉町 4-4-48	340	(0489)24 2865

2. 賛助会員 //

会社名	所在地	郵便番号	電話番号
旭ダウ(株)	東京都千代田区有楽町 1-1-2 日比谷三井ビル	100	(03)507 2961
化研マテリアル(株)	// 港区西新橋 3-6-5 入江ビル	105	(03)432 7654
白石工業(株)	// 千代田区岩本町 1-1-8 カツラギビル	101	(03)862 6961
(株)新和商会	// 荒川区西日暮里 2-24-14	116	(03)803 1411
東レチオコール(株)	// 中央区日本橋本石町 3-6 日本橋室町ビル	103	(03)241 1845
日本石油化学(株)	// 港区西新橋 1-3-12 日石本館内	105	(03)502 1561
日本バックアップ工業(株)	// 中野区中央 1-12-9	164	(03)369 0215
野村事務所(株)	// 港区西新橋 1-1-15 物産ビル別館	105	(03)502 1466
(株)バンデックス・ジャパン	// 中央区八丁堀 2-27-10 東京建物八重洲ビル	104	(03)552 6956
フヨ一(株)	// 墨田区業平 4-4-11	130	(03)625 3370
野口興産(株)	// 荒川区東日暮里 5-50-11 林ビル	116	(03)806 0175

3. 名古屋支部会員 25

会社名	所在地	郵便番号	電話番号
(株)エービーシー商会	名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル	460	(052)251 4411
小野田建材(株)	// 中村区名駅 4-26-23 弁天閣ビル 4F	450	(052)581 7411
カネボウ・エヌエスシー(株)	// 中村区泥江町 3-5 鐘紡ビル	450	(052)581 8959
建材化工(株)	愛知県春日井市御幸町 3-2	491	(0568)31 6612
コニシ(株)	名古屋市西区西菊井町 8-3	451	(052)563 6171

サンスター化学工業(株)	名古屋市 中村区若狭町1-27 ニューワカサビル	450	(052)581 4408
三洋工業(株)	// 緑区鳴海町字母呂後26	458	(052)623 0061
昭和石油アスファルト(株)	// 中区丸の内1-17-19 長銀ビル	460	(052)231 6568
信越化学工業(株)	// 中村区広小路西通り3-4 新名古屋ビル東館	450	(052)581 6511
住友スリーエム(株)	// 中区大須1-7-26 音羽ビル	460	(052)221 7611
世界長(株)	// 東区矢田町8-20	461	(052)722 3301
セメダイン(株)	// 千種区井上町34	464	(052)781 3166
テイパ化工(株) 静岡出張所	静岡市 上川原319	421-01	(0512)59 2333
東芝シリコン(株)	名古屋市中区栄2-6-12 白川第一ビル8F	460	(052)201 8541
トーレ・シリコン(株)	// 中村区堀内町2-32 堀内ビル	450	(052)563 3951
日本添加剤工業(株)	// 中村区大閣通り2-40 フタバビル	453	(052)451 8632
三星産業(株)	// 東区泉2-29-19 第2大野ビル	461	(052)931 3390
明星チャーチル(株)	// 名東区一社3-90 チサンビル	465	(052)703 2061
山内ゴム工業(株)	// 中村区泥江町1-24 中経ビル	450	(052)561 5401
横浜ゴム(株)	// 中区錦1-17-13 名興ビル	460	(052)231 6221
イイダ産業(株)	// 中区西瓦町12	460	(052)262 3951
ポストックジャパン(株)	// 中村区広小路西通3-9 信泉ビル日立化成工業内	450	(052)581 2967
アイシン化工(株)	愛知県加茂郡藤岡村大字飯野字大川原1141-1	470-04	(05657)6 2311
保土谷化学工業(株)	名古屋市中区錦1-17-13 名興ビル	460	(052)231 7251
シャープ化学工業(株)	名古屋市長区鳴海町字西脇40	458	(052)892 2338

4. 大阪支部会員 30

会社名	所在地	郵便番号	電話番号
小野田建材(株)	大阪市北区梅田町2 第一生命ビル6階	530	(06)341 0037
コニシ(株)	// 東区道修町2-6	541	(06)203 3081
トーレ・シリコン(株)	// 北区小深町3-1 阪急ターミナルビル9階	530	(06)373 6801
東芝シリコン(株)	// 東区本町3-27-1 センパセントラルビル	541	(06)251 6272
信越化学工業(株)	// 北区小松原町27 富国ビル404	530	(06)313 3141
ソニーケミカル(株)	// 北区西堀川町18 高橋ビル東館	530	(06)363 2071
山内ゴム工業(株)	枚方市大字招提田近2-7	573	(0720)56 1131
横浜ゴム(株)	大阪市北区堂島中2-46 紀陽ビル	530	(06)345 1421
住友スリーエム(株)	// 東区南本町2-41 三ツ輪ビル	541	(06)262 1641
サンスター化学工業(株)	高槻市明田町7-1	569	(0726)81 0351
世界長(株)	西宮市津門大筒町8-39	663	(0798)35 1741
日東化成工業(株)	大阪市住吉区大領町5-74	558	(06)693 3561
テイパ化工(株)	// 東淀川区下新庄町2-263	533	(06)328 1118
三英ポリマー工業(株)	池田市木部町639	563	(0727)51 3128
三洋工業(株)	吹田市広芝町15-22	564	(06)385 5241
明星チャーチル(株)	堺市浜寺石津町中1-4-7	592	(0722)44 7500
三星産業(株)	大阪市西区京町堀1-10-17 大栄ビル	550	(06)443 9721
日本添加剤工業(株)	// 西区江戸堀1-5-13 日々会館ビル	550	(06)443 6231
カネボウ・エヌエスシー(株)	// 都島区友淵町1-3-80	534	(06)921 1231
セメダイン(株)	// 南区大宝寺町東之丁41	542	(06)251 3555
昭和石油アスファルト(株)	// 北区梅田2-4-9 産経ビル	530	(06)341 6395
(株)エービーシー商会	// 淀川区西中島4-2-9	532	(06)303 1171
日東ポリマー工業(株)	兵庫県尼崎市琴浦町75-1	660	(06)418 7421
武田薬品工業(株)	大阪市東区道修町2-27	541	(06)204 2481
新東洋合成(株)	堺市築港新町3-27	592	(06)541 1931
ポストックジャパン(株)	大阪市東区北浜4-6 日生日立ビル	541	(06)202 6341
(株)服部商店(淀工場)	京都市伏見区淀美豆町705	612	(075)631 3128
日本シーカ(株)	大阪市北区野崎町69 高橋ビル北10号館	530	(06)315 7851
シャープ化学工業(株)	堺市築港浜寺西町13	591	(0722)53 1271
日本合成化学工業(株)	大阪市北区神山町40-4	530	(06)313 3412

5. 福岡支部会員 16

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
(株)エービーシー商会	福岡市博多区博多駅前3-10-24	812	(092)451 5541
小野田建材(株)	// 博多区博多駅前1-3-2 博多八重洲ビル	812	(092)451 5081
コニシ(株)	// 南区清水3-24-11	815	(092)551 1761
サンスター化学工業(株)	// 博多区博多駅前6-7-15	812	(092)451 2229
三洋工業(株)	// 博多区大字板付866	816	(092)581 3438
昭和石油アスファルト(株)	// 博多区綱場町2番2 福岡第一ビル	812	(092)291 0008
信越化学工業(株)	// 博多区綱場町2番2 福岡第一ビル	812	(092)291 8442
住友スリーエム(株)	// 中央区那の川2-9-22	810	(092)521 2861
セメダイン(株)	// 中央区大名1丁目5	810	(092)741 7188
東芝シリコン(株)	// 中央区長浜2-4-1 東芝商事(株)内	810	(092)721 5211
トーレ・シリコン(株)	// 中央区天神2-13-7 福岡長銀ビル7階	810	(092)712 6158
三星産業(株)	// 中央区天神4-1-18 サンビル4階	810	(092)781 3361
(株)ポストックジャパン	// 中央区天神1-14-16 不銀ビル	810	(092)712 4243
横浜ゴム(株)	// 博多区中洲5-6-20	812	(092)281 7631
山内ゴム工業(株)	// 中央区大名2-12-12 赤坂産業ビル4階	810	(092)712 8706
日本添加剤工業(株) 大阪支店	大阪市西区江戸堀1-5-13 日々会館ビル	550	(06)443 6231

6. 広島支部会員 12

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
(株)エービーシー商会	広島市鉄砲町1-20(第三ウエノヤビル)	730	(0822)21 3096
小野田建材(株)	// 大手町2-7-10(広島三井ビル)	730	(0822)48 0743
コニシ(株)	// 上天満町3-14	733	(0822)92 5240
三洋工業(株)	// 曙町4-50	730	(0822)61 9321
サンスター化学工業(株)	// 瀬の川町大字中野字大野3049	739-03	(08289)2 1177
信越化学工業(株)	// 中町7-32(日生広島ビル内)	730	(0822)48 3931
セメダイン(株)	// 東雲本町1-15-22	734	(0822)82 1471
東芝シリコン(株)	// 大手町2-7-10(広島三井ビル)	730	(0822)47 0951
トーレシリコン(株)	// 大手町2-7-10(広島三井ビル)	730	(0822)49 7811
日本添加剤工業(株) 大阪支店	大阪市西区江戸堀1-5-13(日々会館ビル)	550	(06)443 6131
明星チャール(株)	広島市比治山町5-12	730	(0822)63 4461
横浜ゴム(株)	// 鉄砲町5-16(広島サンケイビル)	730	(0822)27 8100

7. 北海道支部会員 9

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
(株)エービーシー商会	札幌市中央区南三条西13丁目 柴田ビル	060	(011)231 7904
小野田建材(株)	// 中央区大通西14丁目 山田ビル	060	(011)221 5855
三洋工業(株)	// 白石区南郷通21丁目南14	061-01	(011)781 5155
信越化学工業(株)	// 中央区北一条西5丁目 北一条ビル	060	(011)221 6471
セメダイン(株)	// 中央区北一条東9丁目	060	(011)261 1471
日本シーカ(株)	// 中央区北二条西4丁目 三井ビル	060	(011)251 7904
日本添加剤工業(株)	// 中央区北一条東9丁目 潮物産ビル内	060	(011)261 8271
横浜ゴム(株)	// 中央区大通東7丁目	060	(011)241 5111
東芝シリコン(株)	// 中央区北三条西1丁目 東芝札幌ビル	060	(011)221 1048

8. 仙台支部会員 10

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
(株)エービーシー商会	仙台市一番町2丁目8-18 仙台中央ビル	980	(0222)21 5536
小野田建材(株)	// 一番町2丁目3-32 東一ビル	980	(0222)66 3321
ポストックジャパン(株)	// 中央3丁目2-27 日産ビル	980	(0222)27 8665
三洋工業(株)	// 扇町5丁目1-6	983	(0222)92 5311
信越化学工業(株)	// 本町2丁目10-33 第2オフィスビル	980	(0222)64 2777
昭和石油アスファルト(株)	// 宮千代2丁目15-11	983	(0222)95 0848
東芝シリコーン(株)	// 国分2丁目2-2 東芝仙台ビル	980	(0222)64 7496
ヨコハマゴム工業	// 卸町1丁目1-6 ハセブンビル	983	(0222)94 0437
三星産業(株)	// 本町1丁目3-20	980	(0222)63 5201
トーレ・シリコーン(株)	// 一番町2丁目3-20	980	(0222)27 9528

日本シーリング工事業協会

日本シーリング工事業協会本部・支部

本部	東京都江東区深川 2-15-23 小泉ビル	〒135 電話 (03) 641-9561
中部支部	名古屋市中区大須 2-70-6 共栄ビル 接着工業新聞社内	〒462 電話 (052) 902-2621
大阪支部	大阪市南区内安堂寺町通 2-70-6 共栄ビル 接着工業新聞社内	〒542 電話 (06) 768-3554
九州支部	福岡市博多区中洲中島町 4-5	〒812 電話 (092) 271-3681
広島支部	広島市宝町 8-26 (株)マルエス工業内	〒730 電話 (0822) 43-7474
北海道支部	札幌市東区北20条東 2-15-41 北海道タイホー(株)内	〒065 電話 (011) 731-6351

東日本シーリング工事業協同組合員 50

会社名	所在地	郵便番号	電話番号
アルファ産業(株)	東京都港区浜松町 1-11-11	105	(03)432 5735
石黒建材社	// 練馬区東大泉町424	177	(03)922 1571
伊藤建材(株)	// 台東区西浅草 2-15-9	111	(03)842 1431
白倉建材工業(株)	// 北区豊島 2-25-11	114	(03)914 1571
内倉工業(株)	// 練馬区上石神井 1-497	177	(03)928 0386
鹿住防水工業(株)	新潟県上越市大字荒町453	942	(0255)24 3402
木元工業(株)	埼玉県朝霞市溝沼61-4	351	(0484)63 8693
協和シーリング工事(株)	栃木県宇都宮市若草町2727	320	(0286)24 7072
(株)栗崎工業	東京都葛飾区西亀有 2-56-6	125	(03)620 4901
グローリー防水工業(株)	// 江戸川区西瑞江 2-24-67	132	(03)678 4512
京葉シール(株)	// 墨田区緑 4-22-9 (林ビル)	130	(03)631 0106
光栄工業(株)	// 練馬区上石神井 1-432-56	177	(03)928 2271
(株)工業技術研究所	// 港区南青山 3-14-25	107	(03)404 4521
興進工業(株)	// 新宿区西新宿 7-16-3	160	(03)363 8741
(株)サカイ工業	神奈川県大和市中央林間3-12-11(八千代ビル2F)	242	(0462)74 8851
山栄興業(株)	東京都渋谷区恵比寿南 2-21-11	150	(03)713 0191
三協防水(株)	// 府中市7537	183	(0423)62 6863
三和工業(株)	千葉県市川市相ノ川 1-20-20	272-01	(0473)57 5153
(株)シーラント	東京都練馬区北大泉町893	177	(03)925 7313
シーラント建材(株)	// 渋谷区恵比寿 3-3-18	150	(03)446 8781
(株)新堂	// 千代田区神田佐久間町 3-21 (宮地ビル)	101	(03)866 7468
清起工業(株)	// 立川市錦町 6-28-33	190	(0425)26 0231
セメダイン建設工事(株)	// 港区白金台 2-11-6	108	(03)447 1665
第一建材工業(株)	// 文京区本郷 5-1-6	113	(03)815 0508
大栄建材(株)	// 板橋区板橋 3-30-5	173	(03)964 1901
(株)大栄興業	// 練馬区大泉学園町5487	177	(03)925 3106
(株)大進興業	// 中野区野方 3-26-6	165	(03)389 6863
大八興業(株)	// 新宿区西新宿 8-5-7	160	(03)367 1181
大和興業(株)	// 大田区池上 7-30-5	146	(03)758 0342
高萩興業(株)	// 江戸川区西小岩 1-27-22	133	(03)650 5261
(株)田代工業	// 練馬区三原台 1-23-19	177	(03)925 5999
中央建材工業(株)	// 中央区銀座 7-14-3 (安田松慶ビル)	104	(03)543 8106
東都シール(株)	// 豊島区北大塚 3-1-2	170	(03)915 6139
東邦シール(株)	// 文京区後楽 2-17-5	112	(03)815 3047
東邦防水総業(株)	// 中央区八重洲 1-4-10	103	(03)271 0176
(株)ニッケン	// 千代田区神田神保町 3-7 (石橋ビル)	101	(03)264 7458
日新建工(株)	// 荒川区南千住 6-48-19	116	(03)803 2411
(株)日本コーキング	// 江東区豊洲 4-4-24	135	(03)531 7821
ピーシー理化学業(株)	// 豊島区東池袋 3-21-18 (笠原ビル)	170	(03)985 6271

平沢コーキング工業(株)	新潟県長岡市前島町237	940-11	(0258)34 7529
北 斗 工 業 (株)	埼玉県上福岡市大字駒木680	356	(0492)61 2398
細 田 工 業 (株)	東京都港区芝大門2-1-8	105	(03)432 8731
マサル工業(株)	// 江東区佐賀1-9-14	135	(03)643 5911
(株)マツダパラウォータ	// 杉並区高円寺北3-31-15	166	(03)330 9312
(株)丸福産業	// 江東区北砂2-1-20	136	(03)648 4711
三 矢 興 産 (株)	// 大田区久ヶ原2-16-11	145	(03)754 7503
(株)山形防水	// 渋谷区幡ヶ谷2-27-9	151	(03)377 3481
矢 島 建 商 (株)	東京都千代田区神田神保町3-4	101	(03)265 5681
理 建 シ ー ル (株)	// 墨田区江東橋2-8-8	130	(03)631 4081
瀝 青 建 材 (株)	// 千代田区神田佐久間町河岸51(第1スレートビル)	101	(03)861 2706

大阪支部会員 18

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
相田シーリング工業所	京都市伏見区日野岡西町4-45	601-13	(075)571 4304
安 芸 工 業 (株)	徳島市富田橋3-35	770	(0886)25 2727
飯 田 商 会	守口市長池町16	570	(06) 996 6609
イ サ ム 商 会	豊中市城山町3-1-13 (ハイツイレブン202号)	561	(06) 864 6969
エ マ ー ル 工 業 (株)	大阪市住吉区杉本町2-109	558	(06) 698 6135
大阪アルファ産業(株)	// 淀川区西中島4-6-30-303号(チサン第5ビル)	532	(06)301 5235~7
(株)大阪シール	// 北区滝川町69	530	(06) 352 2895
(株)大阪防水工業所	守口市梶町1-124-7	570	(06)903 0016~7
大阪ユニロン(株)	大阪市福島区玉川2-11-21 (ユニロンビル)	553	(06) 448 2341
加 賀 屋 工 業	東大阪市若江本町4-1-38	578	(06) 721 5933
勝 友 商 会	神戸市東灘区青木5-18-23	658	(078)411 4418
(株)京都シール	京都市東山区山科日ノ岡石塚町29-4	607	(075)593 4364
共 立 産 業 (株)	大阪市東区本町5-4 (広和ビル)	541	(06) 262 5845
建 和 産 業 (株)	// 西区北堀江上通3-85-2	550	(06) 541 3671
(株)高分子工材	高松市浜の町18-27	760	(0878)21 3010
神 戸 建 設 (株)	伊丹市荒牧字桑田60	664	(0727)81 5189
興 和 工 業 (株)	大阪市西区西本町3-1-46 (第5奥内ビル)	550	(06) 541 3280
三 大 工 業 (株)	// 西区京町堀3-3-30 (同盟通信第2ビル4F405号)	550	(06) 448 0450
三 幸 物 産 (株)	// 住吉区万代西2-34	558	(06) 671 2498
三 洋 建 材 (株)	// 大正区北恩加島1-7-3	551	(06) 551 0587
椎名コーキング商会	徳島市東吉野町3-12-16	770	(0886)54 3056
嶋 澤 シ ー リ ン グ 商 会	姫路市御立1571	670	(0792)88 8176
昌 栄 建 材	尼崎市武庫元町3-5-26-303	661	(06) 431 8429
昌 光 産 業 (株)	大阪市北区堂島中2-44	530	(06) 341 8055
城 内 商 店	富田林市大字彼方1529-49	584	(07212)3 2882
(株)摂津シール	高槻市柱本6-403-17	569	(0726)73 6956
(株)大一防水工業	大東市寺川2-1-1	574	(0720)71 8951
(株)大協建材	大阪市浪速区元町2-97 (第3カネイチビル4F)	556	(06) 649 4105
大 信 防 水 工 業 (株)	神戸市長田区萩乃町1-1-734	653	(078)621 4880
(株)大日建産	大阪市淀川区十三本町1-21-27	532	(06) 301 9292~3
(株)太陽エボックス工業所	// 淀川区塚本5-2-6	532	(06) 302 2492
(株)テンジョウ	神戸市生田区相生町5-36-3	650	(078)577 2451
(株)東光商会	// 東灘区岡本4-4-6	658	(078)453 2211
(株)東洋防水	大阪市阿倍野区文の里2-3-15	545	(06) 621 3741
日 建 瀝 青 工 業 (株)	神戸市兵庫区水木通8-2-7	652	(078)576 0851
日 添 工 業 (株)	大阪市浪速区東閩谷町2-30-3	556	(06) 631 8915

日東工業 (株)	// 住吉区山之内町 2-34	558	(06) 692 4641
日本化成工業 (株)	吹田市南金田 1-4-46	564	(06) 385 3886
日本三立産業 (株)	大阪市北区金屋町 2-39 (ササヤ・ビル)	530	(06) 351 5846
日本シーラント工業 (株)	大阪府豊中市小曾根 1-22-3 (出口マンション)	560	(06) 333 0260
(株)ノゾエ技研工業	大阪市平野区長吉長原東 1-6-10	547	(06) 708 7651
白洋建材 (株)	// 都島区都島本通 2-15-1	534	(06) 924 2536
播磨商会	尼崎市今北字池上町13	660	(06) 419 1932
パンボー工業 (株)	大阪市西区江戸堀 1-8-15 (ニューエドバシビル 6F)	550	(06) 443 8201
美星工業 (株)	神戸市長田区林山町 9-5 (朝日マンション105号)	653	(078)631 5048
富士化成工業	大阪市城東区野江 3-2-2	536	(06) 939 7149
富士防水工業 (株)	伊丹市南野字南ノ口402-10	664	(0727)81 2480
(株)豊栄シール	大阪府南河内郡美原町太井549-5	587	(0723)61 5572
松下防水工業所	大阪市東淀川区豊里町914	533	(06) 329 8723
松田商店	門真市大倉町16-14	571	(06) 901 0868
美作工務店	守口市八雲西町 4-69	570	(06) 993 4039
八尾コーキング	八尾市久宝寺 5-4-31	581	(0729)92 3846
(株)山建	高槻市天川新町11-18	569	(0726)73 1620
横井工業所	貝塚市小瀬 1-25-34	597	(0724) ²² 7712 31 0261
(株)吉川美装商事	京都市東山区山科音羽役出町29-14	607	(075)592 7772
吉村コーキング	大阪市住吉区住吉町229	558	(06) 673 4177
(株)中出商会	神戸市兵庫区上沢通り 6-1-1	652	(078)511 4501
中外商工 (株)	大阪市西区靱本町 1-5-14	550	(06) 443 7321~3

広島支部会員

会社名	所在地	郵便番号	電話番号
青盛建材 (株)	広島市舟入幸町19-10	733	(0822)92 3200
青山工業 (株)	// 宇品御幸 3-13-11	734	(0822)55 3131
旭建材工業 (株)	// 南観音 1-2-19	730	(0822)93 0511
大阪アルファ産業 (株)広島営業所	// 中広町 2-25-14	730	(0822)93 6557
アイシン工業 (株)	// 大芝 1-2-11	733	(0822)38 3883
(株)アルファ工業	// 楠木町 1-9-14	733	(0822)91 4566
(株)小野甚商店	// 丸ノ内 1-13-13	700	(0862)25 4868
(株)高知防水センター	高知県高知市天神町18-10	780	(0888)73 7324
(株)サンゼオン防水工業所	広島市横川町 2-4-6	733	(0822)91 1631
(株)三洋技建広島出張所	// 庚午南 1-3-30	733	(0822)71 9317
大和防水 (株)	岡山市矢坂西町 7-36	700	(0862)52 2642
中国特殊防水産業 (株)	広島市中広町 3-11-9	733	(0822)31 9958
日化工材 (株)	岡山市表町 2-6-21	700	(0862)25 2021
東中国防水工業 (株)	// 原尾糸580-1	703	(0862)72 1221
防長建材 (株)	徳山市野上町 2-15	745	(0834)21 0003
(株)マルエス工業	広島市宝町 8-26	730	(0822)43 7474
三和防水工業 (株)	// 東雲本町 2-4-21	734	(0822)83 3366
(株)森本組	// 中広町 3-22-3	733	(0822)91 2629
丸福建材工業 (株)	// 舟入町 7-9	733	(0822)32 6155
ニッテイ (株)	新南陽市大字富田	746	(0834)63 2532

中部支部会員

30

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
朝 日 コ ー キ ン グ	名古屋市西区八筋町347	452	(052)502 8935
朝 日 建 物 (株)	金沢市泉が丘2-9-3	921	(0762)42 1251
石 動 コ ー キ ン グ (株)	富山市柳町4-1-9	930	(0764)31 8966
石 渡 産 業 (株)	沼津市神田町2-1508	410	(0559)21 6061
エ イ ト 工 業 (株)	名古屋市北区楠町大字味鏡字西天道103	462	(052)902 2621
(株) 栗 原	金沢市増泉町ハ57-3	921	(0762)42 5101
(株) 三 栄 コ ー キ ン グ	名古屋市北区志賀本通2-24	462	(052)981 2134
三 信 建 材 工 業 (株)	豊橋市鴨田町52-1	440	(0532)45 6211
(株) 志 水 化 工	名古屋市西区稻生町3-37-1	450	(052)531 5295
(株) 静 岡 コ ー キ ン グ 工 業	静岡市西脇748-1	420	(0542)82 9823
(合)清谷商店 名古屋出張所	名古屋市中村区五反城町3-1	453	(052)412 2709
(株) 仙 嶺	// 熱田区横田町1-27	456	(052)671 2437
ソ フ ラ ン シ ー ル 防 水 (株)	// 中川区八幡本通1-9	454	(052)353 3486
大 信 工 業	海部郡甚目寺町山の浦65	490-11	(0560)44 8021
隆 志 建 工 (株)	西春日井郡師勝町大字六ツ師500	481	(0568)21 0794
中 央 建 材 工 業 (株)	名古屋市千種区若水町3-26	464	(052)761 6181
(株) 中 部 瀝 青	春日井市六軒屋町5-158	486	(0568)81 2120
津 田 硝 子 (株)	名古屋市昭和区一ツ山1-2	468	(052)801 1195
東 海 物 産 (株)	// 千種区若水町2-73-2	464	(052)721 2211
名 古 屋 日 本 化 成 (株)	// 千種区本山町3-9	464	(052)762 1596
中 村 コ ー キ ン グ 店	// 昭和区車田町2-8	466	(052)731 5059
フ ジ 工 業 (株)	// 北区石園町3-21	462	(052)991 4741
不 二 化 成 品 (株)	静岡市長沼709-1	420	(0542)61 5411
不 二 興 業 (株)	金沢市法光寺町イ49-1	920-01	(0762)58 4755
丸 協 ガ ラ ス	富山市総曲輪4-10-4	930	(0764)23 3754
ム ラ セ 工 業 (株)	名古屋市守山区小幡字小林1984-22	463	(052)791 4465
(株) 名 岐	岐阜市藪田3-63	500	(0582)31 9327
森 建 材 商 行	名古屋市中村区塩池町1-10-6	453	(052)461 1029
シ ン コ ー 工 業	清水市高橋町1661-83	424	(0543)65 2039
(株) ビ ル メ ン	名古屋市千種区田代町字四観音通西13-1-310	464	(052)722 0377

九州支部会員

18

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
(株) ム ト ウ	福岡市西区昭代町3丁目2-5	814	(092)851 0111
(株) 野 田 工 業 所	// 博多区中洲中島町4-15	812	(092)281 1027
小 林 商 事 (株)	// 西区南庄6-3	815	(092)271 3681
テ イ バ 化 工 (株)	// 南区長丘5-11-20	814	(092)841 1811
大阪アルファ産業(株)福岡営業所	// 博多区博多駅前3-9-5 (チサンビル内)	812	(092)561 1675
九 州 特 殊 工 事 (株)	// 博多区千代4-5-1	812	(092)451 1073
昭 和 日 本 化 成 工 業	// 西区大字原1267-4	812	(092)611 0426
日 本 シ ー ラ ン ト 工 業	// 中央区渡辺通り2-8-3	814	(092)843 3311
三 賀 シ ー ル (株)	// 博多区博多駅前4-27 (第3岡部ビル内)	810	(092)741 5050
山 崎 工 業 (株)	北九州市小倉南区重住2-3-41	812	(092)451 7326
大 栄 (株)	// 小倉北区西港町61-13	802	(093)941 5441
昭 栄 工 業 (株)	// 小倉北区清水1-12-14	803	(093)571 4581
鉄 工 事	熊本市健軍町2622-20	803	(093)581 2655
		862	(0963)67 3631

山崎商会(株)	鹿児島市永吉町1156	890	(0992)57 2535
新 建(株)	// 荒田町1-16-18	892	(0992)51 0001
南九州ABC商会	// 宇宿町3-39-16	890	(0992)53 7766
宮本産業	福岡市西区愛宕1-23-5	814	(092)891 5034
(株)日興工業	熊本市大江5-16-3	862	(0963)64 2657

北海道支部会員 15

会社名	所在地	郵便番号	電話番号
(株)北日本コーキング	苫小牧市啓北町1-7-14	053	(0144)73 4697
(株)互建防水工業	帯広市西18条3-3-69	080	(0155)27 3558
佐藤研究所	函館市時任町22-13	040	(0138)51 3586
東洋防水工業(株)	帯広市西16条南4-170	080	(0155)22 5565
(株)濱 建	札幌市中央区北3条東5-5	060	(011)261 5676
北海道タイホー(株)	// 東区北20条東2-15-41	065	(011)731 6351
北海コーキング(株)	小樽市稲穂町3	047	(0134)23 8271
(株)シーリングサッポロ	札幌市豊平区中の島1条9	062	(011)831 8573
北斗美装工業(株)	旭川市神居町忠和6-1169	070	(0166)61 5281
サッポロ防水工業(株)	札幌市北14条西1 (磯田ビル)	001	(011)731 7486
フタバ工業(株)	// 中央区北2条東10-15 (すずかけビル)	060	(011)231 0046
北海道サン工業(株)	// 中央区北2条東9-9	060	(011)251 3648
(株)日光美装	室蘭市高砂町1-3-9	050	(0143)45 4401
北暁防水工業(株)	札幌市白石区中央1条6-126-1	062	(011)861 2442
(株)ヤマト工業	// 豊平区美園1条6	062	(011)812 6347

各種シーリング材卸

いわゆるメーカー品、を豊富に取り揃えました
徹底したサービスを添えてお届けいたします

- ★ポリサルファイド系 ★シリコーン系
- ★ポリウレタン系 ★アクリル系 ★ブチル系
- ★油性 ★ダイメリック ★その他各種副資材



野口興産株式会社

代表取締役 野口 八 朔

〒116 東京都荒川区西日暮里5-7-3 (ハイツ西日暮里)

電話 03(806)0175 (代)

関 連 団 体 一 覧

1) 原料メーカー

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
武 田 薬 品 工 業 (株)	大阪市東区道修町 2-27	541	06-204-2481
保 土 谷 化 学 工 業 (株)	東京都港区虎ノ門 1-4-2	105	03-502-0171
三 井 日 曹 ウ レ タ ン (株)	// 港区赤坂 4-13-13 東亜赤坂ビル	107	03-585-6190
東 邦 化 学 工 業 (株)	// 中央区日本橋蛸殻町 1-14-9	103	03-668-2271
日 本 ラ イ ヒ ホ ー ル ド (株)	// 中央区日本橋 3-7-20	103	03-272-4511
三 洋 化 成 工 業 (株)	京都市東山区一橋野本町 11-1	605	075-541-4311
第 一 工 業 製 薬 (株)	// 下京区西七条東久保町 55	600	075-313-5131
旭 電 化 工 業 (株)	東京都中央区日本橋室町 2-8 古河ビル	103	03-270-7511
東 レ チ オ コ ー ル (株)	// 中央区日本橋本石町 3-6 日本橋室町ビル	103	03-241-1845
昭 和 ネ オ プ レ ン (株)	// 港区芝公園 1-7-13	105	03-437-2261
東 洋 曹 達 工 業 (株)	// 港区赤坂 1-7-7 東曹ビル	107	03-585-3311

2) 副 資 材

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
旭 ダ ウ (株)	東京都千代田区有楽町 1-1-2 日比谷三井ビル	100	03-507-2961
(株) 新 和 商 会	// 荒川区西日暮里 2-24-14	116	03-803-1411
フ ヨ ー (株)	// 墨田区業平 4-4-11	130	03-625-3370
日 本 バ ッ ク ア ッ プ 工 業 (株)	// 中野区中央 1-12-9	164	03-369-0215
化 研 マ テ リ ア ル (株)	// 港区西新橋 3-6-5 入江ビル	105	03-432-7654

3) 施工用具メーカー

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
巴 工 業 (株)	東京都中央区日本橋 3-14-1 新新会館ビル	103	03-274-0411
菅 野 製 作 所	// 板橋区双葉町 44-5	173	03-961-1246
日 本 ビ ソ ー (株)	// 杉並区方南 2-4-6	168	03-313-1391
大 竹 工 業 (株)	// 中央区新富 1-7-4 阪和ビル	104	03-552-3611
ミ キ ス タ 工 業 (株)	// 中央区日本橋蛸殻町 1-38-16	103	03-669-9471

4) 建材関連団体

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
日 本 建 設 材 料 協 会	東京都中央区銀座 3-2-19 建築会館	104	03-561-7260
A L C 協 会	// 港区元赤坂 1-1-15 ニュートヨビル	107	03-403-7767
日 本 カ ー テ ン ウ ォ ー ル 工 業 会	// 港区南青山 5-11-2 共同ビル(南青山)	107	03-409-6981
日 本 サ ッ シ 協 会	// 港区南青山 5-11-2 共同ビル(南青山)	107	03-409-1308
建 材 試 験 セ ン タ ー	// 中央区銀座 6-15-1 通産省銀座東分室	104	03-542-2714
全 国 板 硝 子 商 工 協 同 組 合 連 合 会	// 千代田区神田神保町 3-4 総合板硝子会館	101	03-262-6737
板 ガ ラ ス 協 会	// 千代田区丸ノ内 3-3-1 新東京ビル	100	03-212-8631
プ レ ハ ブ 建 築 協 会	// 港区新橋 2-10-5 末吉ビル	105	03-502-2641
日 本 建 築 吹 付 材 工 業 会	// 千代田区神田和泉町 1-6 インターナショナルビル	101	03-861-3996

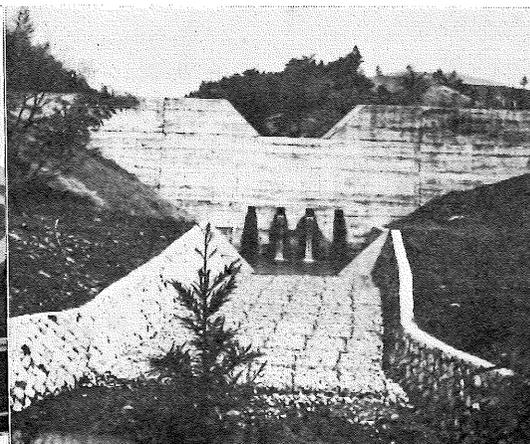
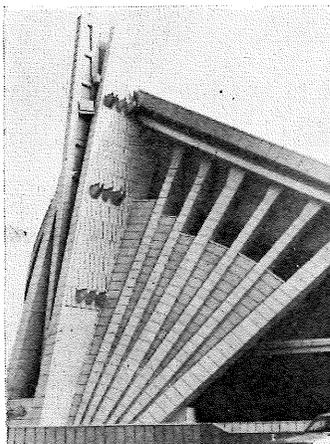
5) 防 水 団 体

会 社 名	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
日本シーリング工事業協会	東京都江東区深川 2-15-23 小泉ビル	135	03-641-9561
東日本シーリング工事業協同組合	// 江東区深川 2-15-23 小泉ビル	135	03-641-9561
全日本プレハブ建築防水協会	// 中央区日本橋蛸殻町1-22-4 直江ビル	103	03-669-0764
日本ウレタン防水協会	// 港区新橋 6-13-3 島田ビル	105	03-438-0988
日本ウレタン防水工事業協同組合	// 中野区中野 1-55-7 藤ビル	164	03-367-1611
全国塗膜防水工事業団体連合会	// 港区新橋 6-13-3 島田ビル	105	03-434-0406
合成高分子ルーフィング懇話会	// 中央区銀座 6-15-1 建材試験センター内	104	03-542-2744
シート防水工事業団体連合会	// 中野区中野 1-55-7 藤ビル	164	03-361-5787
全国アスファルト工事業協同組合連合会	// 中央区八重洲 1-2-1 新呉服橋ビル	103	03-271-5797
東部アスファルト工事業協同組合	// 中央区八重洲 1-2-1 新呉服橋ビル	103	03-271-5797
西部アスファルト工事業協同組合	大阪市西区江戸堀 1-20-11 辻川ビル	550	06-445-1138
九州アスファルト工事業協同組合	福岡市中央区舞鶴 2-8-2 村上ビル	810	092-771-5681
東日本建設防水協同組合	東京都新宿区西大久保 1-400	160	03-200-3584
ゴムアスファルト防水工事業協同組合	// 品川区南大井 1-7-4	140	03-761-4378
建築ガスケット協会	// 港区新橋 2-11-1 中央建物ビル	105	03-501-2906
全国防水工事業団体連合会	// 中野区中野 1-55-7 藤ビル	164	03-369-7351
(社)日本アスファルト同業会	// 中央区八重洲 1-2-1 新呉服橋ビル	103	03-271-2208
(社)日本薬液注入協会	// 文京区後楽 1-2-7 全通会館	112	03-816-2681

泡のプラスチック製品

●営業品目

- ①目地材
- ②断熱材
- ③防音材
- ④防水シート
- ⑤機密材
- ⑥防振シート
- ⑦養生マット
- ⑧結露防止マット
- ⑨接着シート
- ⑩ガスケット各種



複合資材で用途開発をお引受する

株式会社 新和喬合

本 社 東京都荒川区西日暮里 2 丁目 24 番 14 号
TEL. 03(803)1411(代表)

工 場 埼玉県与野市鈴谷 2 8 3 番地
TEL. 0488(53)1761(代表)



シーリング 編集後記

☆日本シーリング工業会は「日本コーキング協会」として昭和38年スタートしてから、来る昭和53年2月で15年を迎えることになり、今号はこれを記念し、「15周年記念号」として編集しました。

☆ふり返ってみますと、当工業会機関誌としての「シーリング」も、それぞれの年代における世相を反映しつつ、各委員の方々のご尽力で年々充実した内容になりつつ現在に至っています。

☆「シーリング」誌の編集は会員各位から期待される内容をでき得る限り多く反映させるものでなくてはならず、今回も9月より編集会議をスタートさせ、準備を開始してきましたが、何回かの追加、変更を経て、

今回の内容となりました。

☆15周年記念としては日常ご指導、ご鞭撻いただいております当工業会顧問の先生方、また大学、建築業界施工などの各分野でご活躍の方々から、それぞれのテーマについて簡潔な一文をいただき掲載いたしました。

☆また前号より始めた「関連業界展望」は会員各位のご声援を受け、一層充実させることに努力いたしましたが如何でしたでしょうか。

☆シーリング工事は「材工一体化」が特に欠かすことのできない性格をもっており、メーカーの集まりである当工業会では、施工会社の集まりである「日本シーリング工事業協会（日シ協）」および「東日本シーリング工事業協同組合（東シ協）」との緊密な関係維持をもっとも重要視しており、本号においても、「シーリング管理士」「防水施工技能士」の解説および東シ協の近況を報告いたしました。

☆現在、工業会内部でもっとも多忙

を極めているのが技術委員会を主宰する西沢氏であります。9月の訪米の経験を「北米に『何か』を求めて——米国におけるシーリング材事情——」としてまとめていただきました。その他全体のまとめは事務局の石井局長が全面的に応援してくれました。そのご苦勞に本文を借りて感謝したいと思います。

☆さて昭和52年は10月から始まった円高による景気の混迷が、今後の建築業界へも大きな影響をおよぼすと思われませんが、12月に発足した新内閣の「52年度第2次補正予算と53年度予算案」が強力な内需刺激策となり得るか、一般消費者心理の冷え込みを払底できるかどうか、大きな期待をもって今後の景気動向を見守って行きたいと思えます。

昭和52年12月5日

記

広報委員会 金子 譲
細井 庸生
内藤 昌朗

シーリング SEALING 第15号(第10巻・第15号)

発行/日本シーリング工業会
東京都千代田区外神田2-2-17(共同ビル万世)
TEL 03(255)2841~2

編集/日本シーリング工業会広報委員会

広告一取扱/新樹社

印刷/毎夕印刷株式会社

昭和52年12月20日印刷

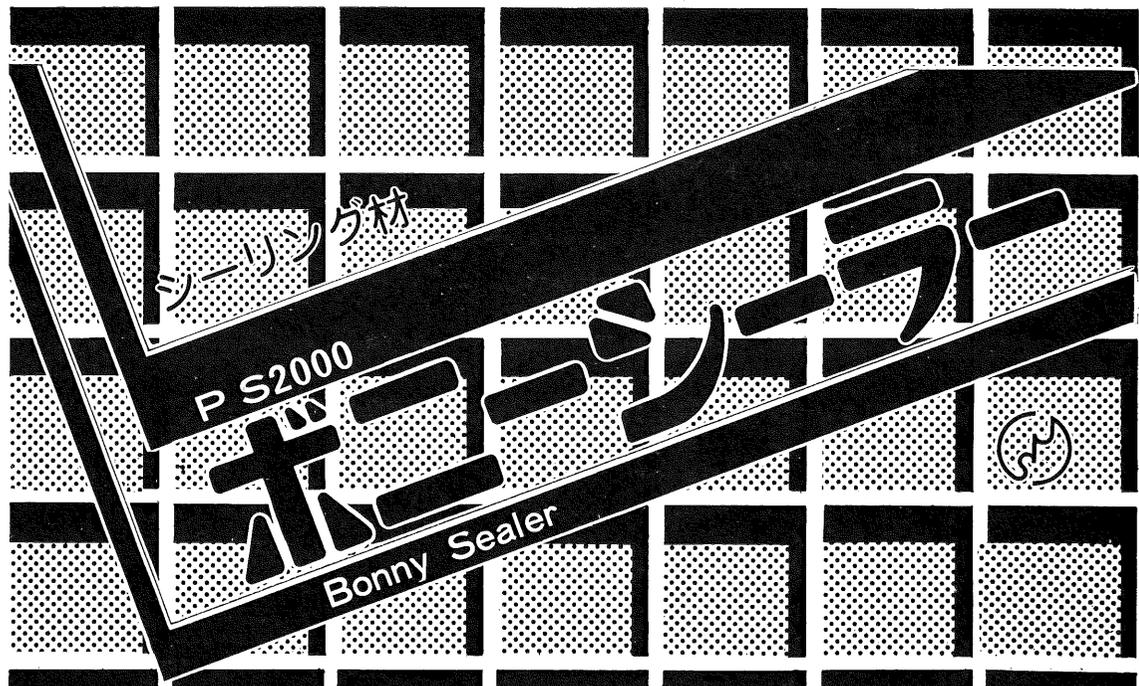
昭和52年12月25日発行

非売品

禁無断転載

本誌への広告お申込は 新樹社へ

東京都中央区銀座8-15-4
きららビル ☎03(542)9324(代)



商品名	一般名
ボニーシーラー PS	ポリサルファイド系シール材
グレインコート	油性コーキング材
赤ベル印パテ	ガラスパテ
アクリコーク AI00	アクリルコーキング材
モルミン	ウレタン防水材
エポセット	エポキシ系防水材

主要製品

- JIS-A-5751 油性コーキング材
- JIS-A-5752 ガラスパテ m1, m2
- JIS-A-5754 弾性シーリング材



ダイパ化学株式会社

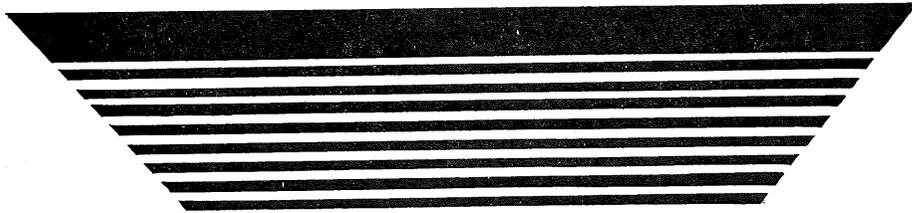
大阪・東京

本社 大阪市東淀川区下新庄町2丁目2-6-3 番地
 TEL: 06-(328) 1118
 東京営業所 東京都港区新橋6-10(遠近ビル) TEL: 03(431) 9357

優れた品質、優れた施工性
豊富な経験と実績

シーリング材のパイオニア

ファイブシール



ポリサルファイド系
シーリング材 **ファイブシール** No.300
S・MCG-1-A-N

ポリウレタン系
シーリング材 **ファイブシール** No.200
S・C-1-A-N

アクリル系
シーリング材 **ファイブシール** No.1000

油性コーキング材 **ファインコーク** JIS
A5751
表示許可 No.367092

ALC専用
ポリウレタン系
シーリング材 **ファイブシール** No.2000
白
S・C-1-A-N

 **日本添加剤工業株式会社**

営業部 東京都板橋区前野町1の21-5 電話(965)5731(代)
大阪支店 大阪市西区江戸堀北通り1の69(日々会館ビル内) 電話(443)6231~3
名古屋出張所 名古屋市中村区太閤通2の40(フタバビル3F) 電話(451)6808・8632
本社工場 東京都板橋区前野町1の21-5 電話(960)8621~6

誠実・確実・堅実をモットーに

責任施工

- ポリサルファイド
- シリコン
- ウレタン
- アクリル
- 油性コーキング
- その他

タイガー工業株式会社

代表取締役 宮木 転

東京都品川区戸越 5-7-13 TEL 03-783-0151(代)

◇ 責任施工 ◇

- ▶ シーリング工事全般
- ▶ 各種防水工事施工
- ▶ ALC・施工・販売

東日本シーリング工事業協同組合会員

東邦防水総業株式会社

東京都知事許可(般-50)第2398号

代表取締役 児玉 保男

本社 〒103 東京都中央区八重洲1-4-10
電話 03(271)0176(代)
仙台営業所 〒983 宮城県仙台市原町3-3-15
電話 0222(93)0510

確実なシーリング工事！

防水工事のことならぜひご相談下さい

○材料の選定

○被着体と材料の関係

東日本シーリング工事業協同組合員

日本シーリング工事業協会々員

◇責任施工◇

MITSUYA

三矢興産株式会社

〒145 東京都大田区久ヶ原2-10-16

TEL (03) 754-7503

都知事許可般52第19573号

サッシュとモルタル取付部・壁材の取合部の止水

油性コーキング材 **リバーコーク**

カーテンウォール・ガラス・パネルのシール、伸縮目地シール

ポリサルファイド系 **リバーシーラー**

浮き上りモルタル・タイルの補修・コンクリートの打継ぎ用

エポキシ接着剤 **リバーエポコーク**

建築用コーキング・シーラント並、建築用樹脂製造販売

防水コンサルタント **三英ポリマー工業株式会社**

営業所 東大阪市新喜多29 TEL 06-788-7954
789-9373

本社・工場 大阪府池田市木部町639 TEL 0727-51-3128
51-2069

フヨーのバックアップ材で 施工はパーフェクト!

—各種サイズ迅速納入—

- ポリエチレンソフト・サンフォーム
- エサフォーム・ライトロン丸型角型各サイズ
- シーリング材
- 各種ゴム・ソフトラバー
- マスキングテープ・両面テープ



フヨー株式会社

本社 墨田区業平4-4-11
TEL 03(626)3371(代)
営業部 墨田区業平4-1-8
TEL 03(625)3371(代)
大阪営業所 大阪市淀川区宮原5-8-34
〒532 TEL 06(395)0201

- シーリング工事全般
- プレハブ防水工事
- 注 入 工 事

東京都知事許可(般-51)第9051号

株式会社 大栄興業

代表取締役 堀 江 正 雄

本社 東京都練馬区大泉学園町5487 電話03(924)2865・2842
東京事務所 東京都練馬区東大泉町513 オダノビル 電話03(925)3106(代)
出張所 群馬県山田郡大間々町原1846の10 電話02777(2)3980

すぐれた

東京都知事許可(般)51-3472
日本シーリング工事業協会会員

シーリング材でも

生かすも殺すも 施工しだい。



西武新宿駅ビル
シーリング工事完全施工

責任施工

すぐれたシーリング施工は
(株)日本コーキング

東京都江東区豊洲4-4-24
(渡辺ビル) 電話(531)7821

代表取締役 北原比呂行

高級シーリング材

日合シリコンシーラント

ゴージェールS

日合ウレタンシーラント

ゴージェールU

(バイエル社技術提携製品)



日本合成化学工業株式会社

樹脂2部

本社	大阪市北区神山町40番地の4	TEL. 大阪(06)313-3412(代)
東京支社	東京都中央区日本橋3丁目12-1(三木ビル)	TEL. 東京(03)273-1381(代)
名古屋営業所	名古屋市中区錦1丁目19-32(名古屋広小路ビル)	TEL. 名古屋(052)201-6251

安心と確かな品質をお届けします!

シャープシール

P-10 (油性系) U-75 (ウレタン系) T-35 (ポリサルファイド系)
S (シリコン系) ベルト状シーラー(ブチルゴム系)

アルファコート (アクリルシーリング材)
ブチル (ブチルシーリング材)

SC シャープ化学工業株式会社

本 社・工 場 堺市築港浜寺西町13(堺市化学工業団地内) 〒592 TEL. 0722-68-0321
東京営業所 市 川 市 末 広 1-1-1 〒272 TEL. 0473-58-4365
名古屋営業所 名 古 屋 市 緑 区 鳴 海 町 字 西 脇 40 〒458 TEL. 052-892-2338
シーリング工事は…… シャープ工事株式会社 堺市南花田町420 〒591 TEL. 0722-53-1271

屋上防水工事
外壁防水工事
シーリング工事

施工

東日本建設防水協同組合員
全日本プレハブ建築防水協会会員
関東アロンコート会会員
アクリトーン会会員
HAL防水工業会会員
トスシール特約施工店会会員
旺友会会会員
サンスター会会員
東京都知事許可(般50)第36279号



株式会社

ジックス

取締役社長 出水秀夫

東京都渋谷区代々木1-28-1

TEL 03 (370) 0121 (代)

現代建築にこの完璧さをもたらします。

スリーボンドのシリコーン・シーラントは

地震王国ペルーにあって、インカ帝国サクサワマンの城塞は数世紀の間、その威容を保ちつづけてきました。この驚くべき耐久性の秘密は、多角形の石がカミソリ1枚通さぬ、まさに吸いつくように重ねられていることにあります。つまり完全にシーリングされた状態にあり、さまざまな要因による風化作用を防いできたのです。



現代建築においても、このシーリングの重要性は変わりません。防水、防塵の技術がセールの強度、耐久性、美観を決定し、冷暖房の効率化をもたらします。これらシーリング工事にもっとも適した新しい素材、それがシリコーンです。シール剤研究20年の技術から生まれた、スリーボンド・シリコーン・シーラントは現代建築を完璧なものに仕上げのお手伝いをします。

建築用シリコーン・シーラント 5211・5241の主な特長

- 直射日光、紫外線、オゾン、温度変化などに対してほとんど影響されず、変色したり、物性が劣化したりしません。
- 各種の建築素材に対し、優れた接着性を示します。
- 室温で硬化する常温加硫型の1液性シーラントですから、混合や加熱の必要がなく作業が簡単です。高温で流れたり低温で硬くなったりしないため、環境に関係なく使えます。
- 他のシール剤にくらべて使用量が少なく済み、耐用年数も長くいつまでも美しい外観と性能を保つ、いわゆる機能ライフの延長をもたらし、施主・施工者双方にとってきわめて経済的です。
- 7種類の標準色があり、下地に合わせて自由に色が選べます。

腐食作用がなく、用途の広い一成分無酸型シリラント

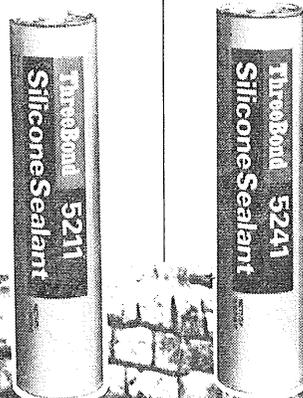
スリーボンド
5211
建築用
シリコーン・シーラント

防霉タイプもあります。
かび

硬化が早く、接着力が強い一成分酢酸型シリラント

スリーボンド
5241
建築用
シリコーン・シーラント

防霉タイプもあります。
かび



完璧。

カミソリ1枚も差しこめない——インカ帝国サクサワマンの城塞。

ThreeBond®



社会のニーズに応える
株式会社スリーボンド

本社/東京都八王子市快園町1456TEL0426(61)1333代193
販売サービス網/全国120余カ所

北海道事業部・☎011(271)1430 千060
東北事業部・☎0222(71)1106 千980
北関東事業部・☎02767(4)1221 千374
東関東事業部・☎03(342)3911 千160
西関東事業部・☎0426(61)1333 千193

相模事業部・☎0462(23)3260 千243
横浜事業部・☎045(641)8512 千231
東海事業部・☎0545(52)5175 千417
中部事業部・☎052(961)7311 千460
京滋事業部・☎07756(3)9211 千525

近畿事業部・☎06(344)6321 千530
兵庫事業部・☎078(251)1281 千651
中四国事業部・☎0822(45)2487 千730
九州事業部・☎093(551)0135 千802

資料
請求券
2

躍進するシーリング・防水工事専門業者

- ※東京都知事許可(般-52)第26359号
- ※東日本シーリング工事業協同組合組合員
- ※日本シーリング工事業協会会員
- ※東京都住宅局指定業者
- ※東京板ガラス施工組合組合員



株式会社 **丸福産業** 代表取締役 福間 靖明

〒136 東京都江東区北砂2-1-20 TEL. 03(648)4711(代)
傍系会社：(株)ナウ・インテリア建材

R

のマークは

理建 シール

のマークです

チオコール系シーラント
各種コーキング工事

東京都知事許可(般-50)第37037号

理建 シール 株式会社

東京都墨田区江東橋2-8-8 (パークサイドビル)
〒130 TEL (631) 4081 (代表)

シーリング工事
ウレタン塗膜防水工事
特殊応用防水工事

技術と
信用で
応える



東京都知事許可(般-50)第33027号

細田工業株式会社

代表取締役 細田直司
東京都港区芝大門2-1-8
〒105 電話 03(432) 8731(代)

GLORY

- 油性
- ポリサルファイド
- ポリウレタン
- アクリル・ブチル
- 各種補修防水工事

販売・施工

日本ウレタン防水協会会員
日本ウレタン防水工事業協同組合員
日本シーリング工業会
東日本シーリング工事業協同組合員

東京都知事許可(般-50)第2238号



光栄工業株式会社

東京都練馬区上石神井1-4-3-2

☎ 03 928-2271 (代)

進歩のために読む！

——わが国唯一の防水専門誌——

月刊

防水ジャーナル

購読料 1部1年 8,800円 (送料とも)

好評発売中！

新樹社

東京都中央区銀座 8-15-4 きららビル
TEL 03(542)9324代 郵便振替口座・東京4-102983番
取引銀行・三菱銀行銀座 三和銀行蒲田 三井銀行新橋



好評！日本でただ一つの
密封材料・防水材料
ならびに施工専門紙
月2回刊(毎月5日・20日発行)
購読料1年 ¥4,500

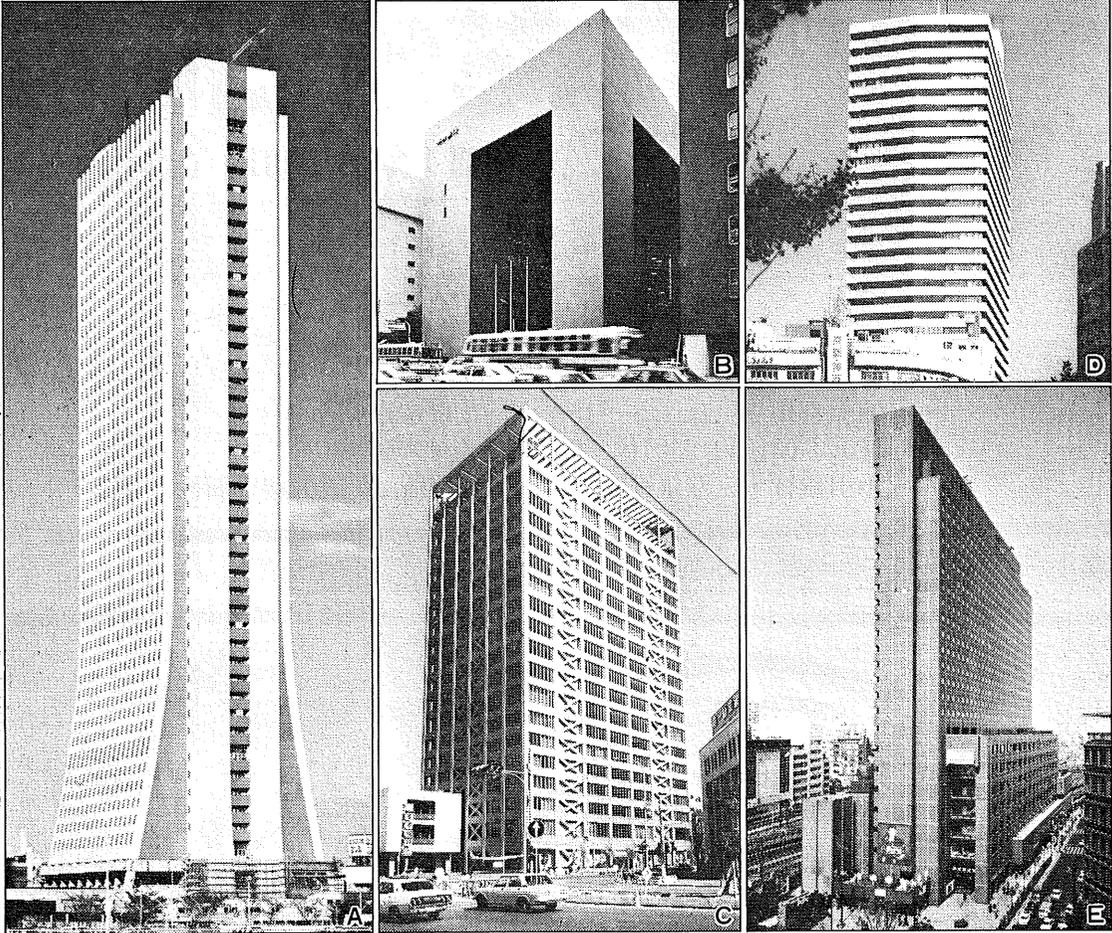
発行・新樹社

シーリング「ジャーナル

ポリサルファイド・シーラント

実績の《ハマタイト》。

建築用シーラントの代表的存在になりました。



《ハマタイト》は、液状ポリサルファイド（チオコール）を主成分とする2液混合常温加硫タイプのシーラ材。

ゴム高分子の分野で60年の技術を誇るヨコハマゴムが昭和38年に初めて国産化に成功しました。以来《ハマタイト》は、その弾力性、伸び、耐候性、耐水性などにすぐれているところから、カーテンウォール工法の確かなパートナーとして、建築界に定着。各地の代表的なビルの多数に採用されています。

■主な実績

東京海上火災本社ビル、新宿三井ビル、日本興業銀行本社、中之島センタービル、愛知県議事堂、日商岩井本社ビル、第一勧業銀行事務センター、浜離宮ビル、安田火災海上本社ビル(写真A)、福岡銀行本店(写真B)、小倉ステーションビル、名古屋電々東銀ビル(写真C)、読売仙台ビル、西日本渡辺ビル、近畿電気工事ビル、阪急グランドビル(写真D)、新呉服橋ビル、西武新宿駅ビル(写真E)、七十七銀行本店、日本赤十字社本社ビル、東京堂千代田ビル

ポリサルファイド
シーラント **ハマタイト**

YOKOHAMA

■お問い合わせ先 横浜ゴム株式会社工業品事業部 東京都港区新橋5丁目36番11号〒105 TEL. 03(432)7111(大代表)

建築・土木工事の完全防水に……各種材料それぞれの特長を生かした併用工法に

カネボウ ゴーレックス



ゴーレックスPシリーズ

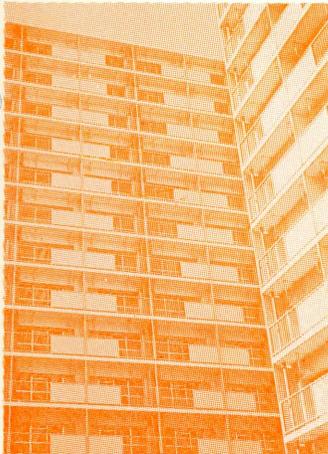
油性コーキング材
 ゴーレックスP320
 ブチル系シーリング材
 ゴーレックスP3000
 アクリル系シーリング材
 ゴーレックスP4000
 ポリサルファイド系シーリング材
 ゴーレックスP5000
 ウレタン系シーリング材
 ゴーレックスP6000
 シリコン系シーリング材
 ゴーレックスP7000
 SPH・HPCに
 プレハブ防水
 ブチルゴム+EPDM
 ベルシート防水
 ブチルゴム+EPDM
 カネシート防水
 アスファルト系高分子シート
 アスシート防水
 ウレタン系塗床
 ベルフロアーF
 全天候型舗装材
 ベルフロアーS



鐘紡合成化学株式会社

本 社 ☎534 大阪市都島区友淵町1丁目3番80号
 TEL. 大阪 06 (921) 1 2 3 1 (代表)
 防水事業部 ☎534 大阪市都島区友淵町1丁目3番80号
 TEL. 大阪 06 (928) 3 2 7 1 (代表)
 東京支店 ☎141 東京都品川区西五反田7丁目22番17号
 (東京卸売センター)
 TEL. 東京 03 (494) 2 7 4 1 (代表)
 東京支店 ☎190 立川市富士見町5丁目2番5号
 三多摩出張所 TEL. 立川 0425 (25) 0 6 0 1 (代表)
 名古屋支店 ☎450 名古屋市市中村区名駅4丁目17番19号
 (鐘紡ビル3階)
 TEL. 名古屋 052 (581) 1 2 7 1 (代表)

IT'S JUST SEALANT!



エバーシール

乾性油および不乾油などの油や石油樹脂、タルクなどを混ぜて練り合せ柔軟性のバテ状にした油性コーキング材です。

アクリエース

アクリルエマルションをベースにしたコーキング材で、長期にわたり柔軟性を失うことなく、その性能を十分に発揮します。

ムーゼット

ウレタンエラストマーの特性を活きて、シーラントとしての要求を満たし、且つ優れた諸性能を有する2成分型のシーラントです。

フジチオコール

液状ポリサルファイドをベースとした2成分型のシーラントで、構造物の変位に追従し、日光、油薬品等によく耐えます。

昭和石油アスファルト株式会社



本 社 東京都品川区南大井1丁目7番4号 (03)(761)4291(代) 〒140
 東京営業所 東京都品川区南大井1丁目7番4号 (03)(761)4271(代) 〒140
 大阪営業所 大阪市北区梅田町27(産経ビル) (06)(341)6395(代) 〒530
 名古屋営業所 名古屋市中区丸の内1-17-19(長銀ビル) (052)(231)6568 〒460
 新潟営業所 新潟市平和町4の1 (0252)(74)7561(代) 〒950
 福岡出張所 福岡市博多区綱場町2-2(福岡第一ビル) (092)(291)0008 〒812

サンスターのシーリング材

「確かな積みかさね」からの性能にご期待ください。



建築用シーリング材
**ペンギンシール
980**

建築用ポリサルファイドシーラント
**ベタシール
169**

サンスター化学の「確かな積みかさね」の技術から生れた《建築用シーリング材・ベタシール》は、建築用シール材

として、高層ビルのカーテンウォール工法を始め、各建造物各所にその性能の良さを発揮しています。



サンスター化学工業株式会社
〒569 大阪府高槻市明田町7番1号
Tel (0726) 81-0351(代)

東京：03-453-9301 大阪：0726-81-0351
名古屋：052-581-4408 町田：0427-91-0111
静岡：0542-47-1666 広島：08289-2-1171
福岡：092-451-2229